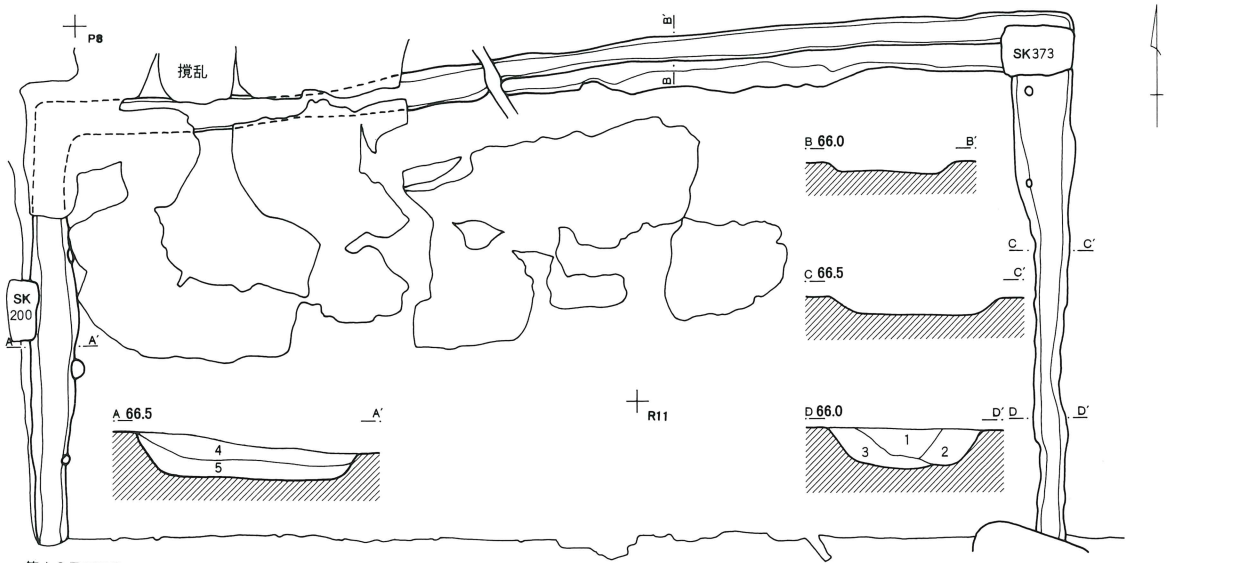


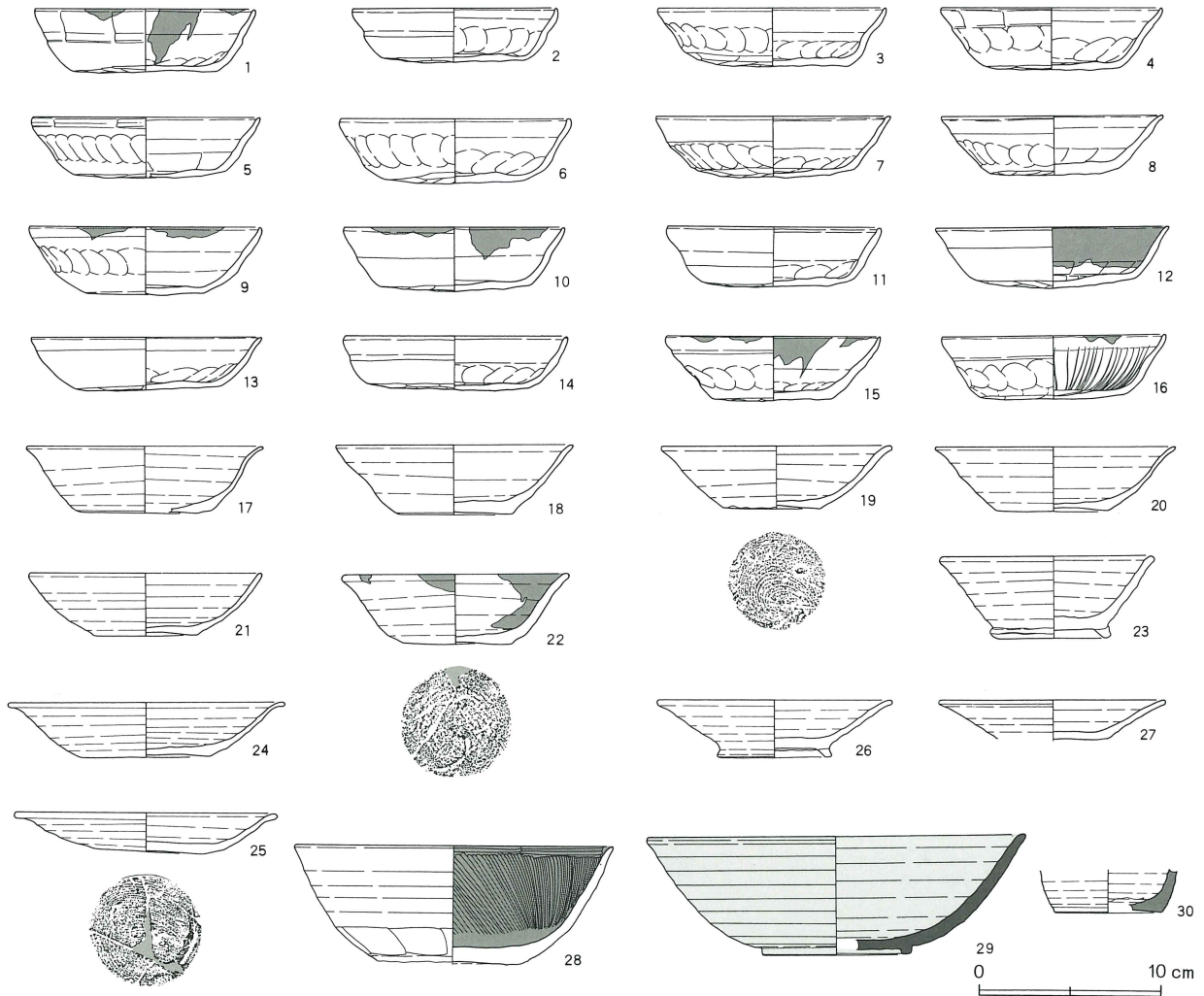
第618図 第13号区画溝・出土遺物（1）



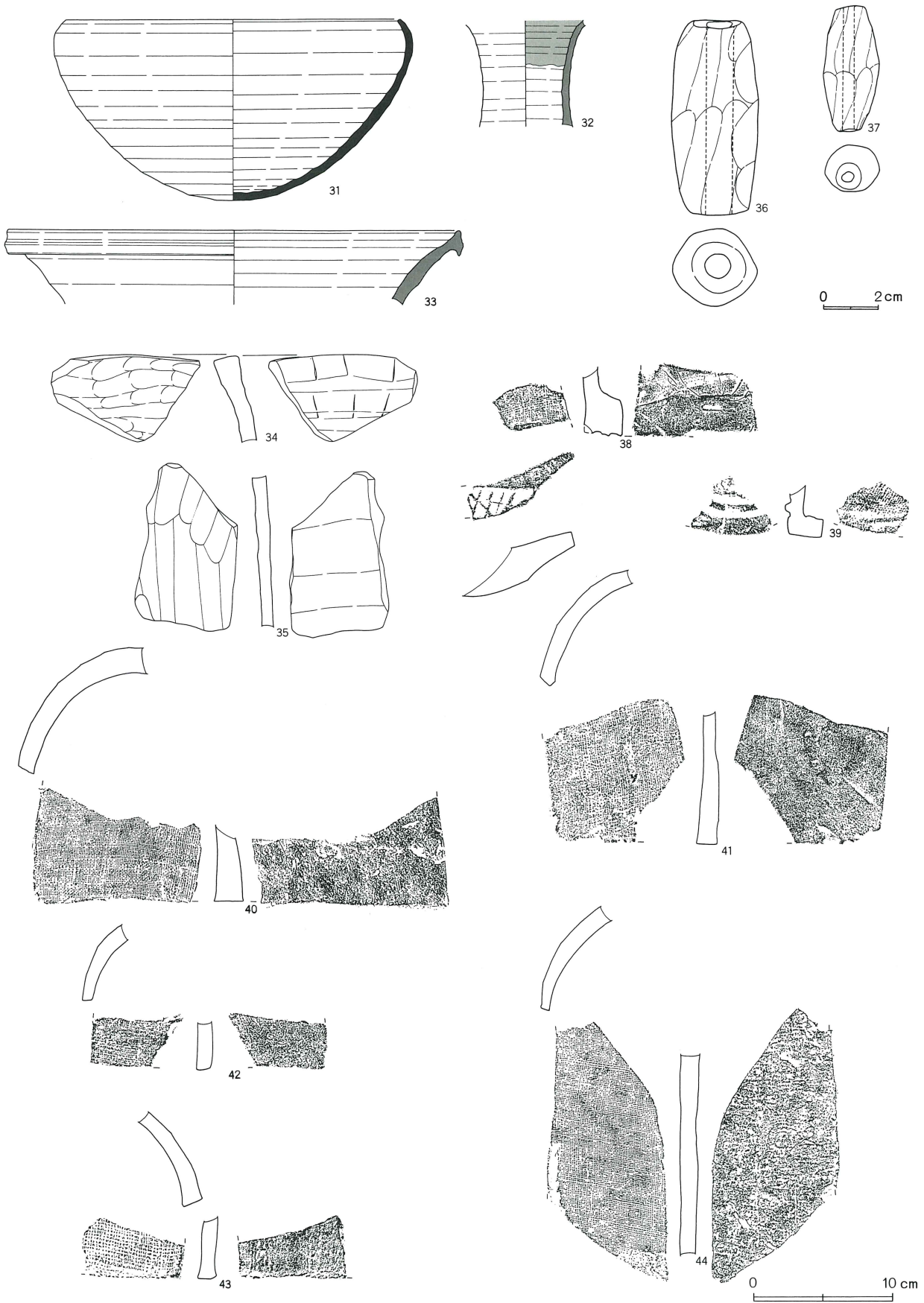
第13号区画溝

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色土 焼土粒子を微量含み、礫を多量に含む | 4 灰黄褐色土 焼土を微量含む |
| 2 暗褐色土 焼土粒子を微量含み、礫を多量に含む | 5 におい黄褐色土 焼土粒子、炭化粒子を微量に含む 粘性あり |
| 3 黒褐色土 焼土粒子を微量含み、礫を多量に含む | |

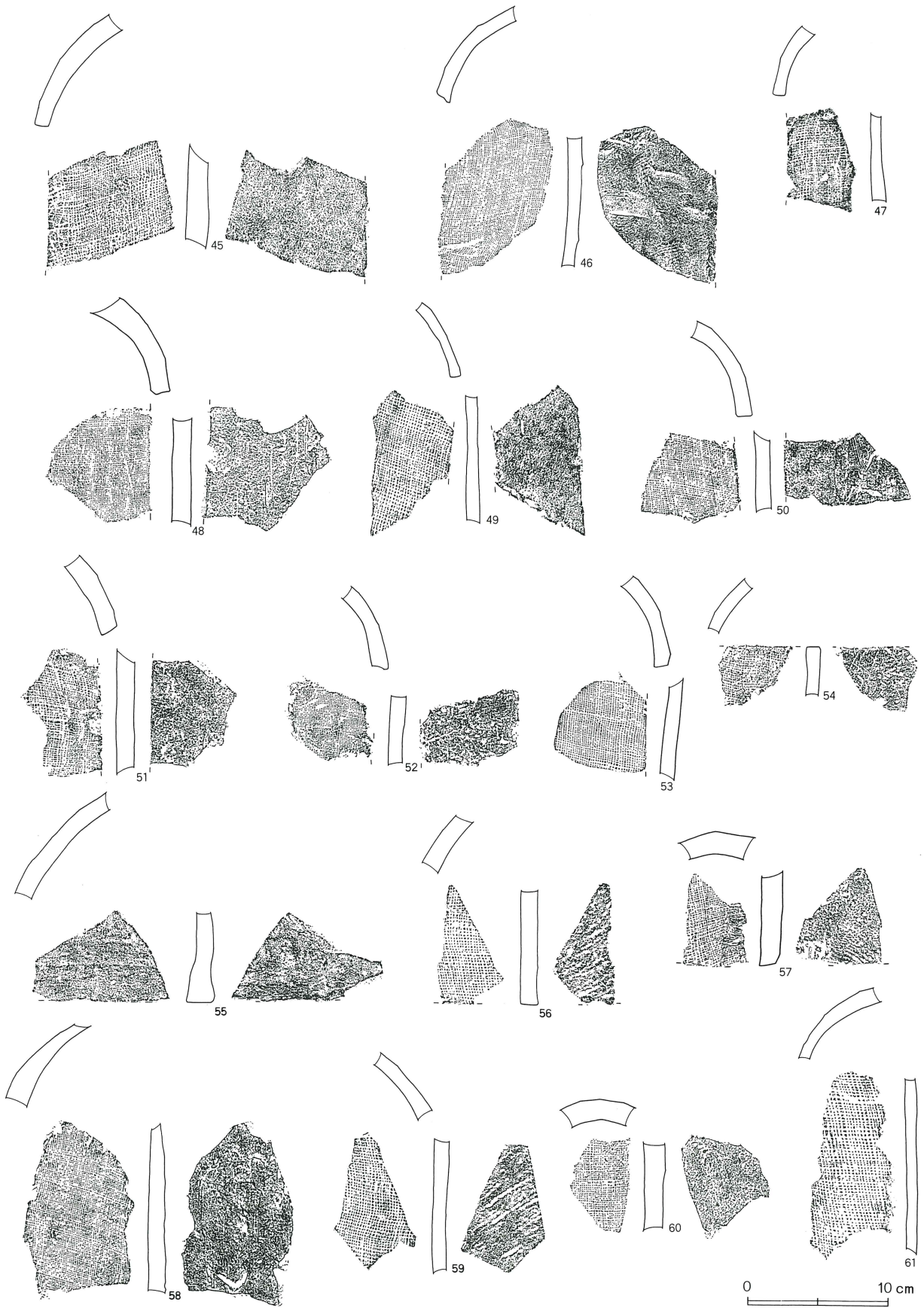
0 10 m



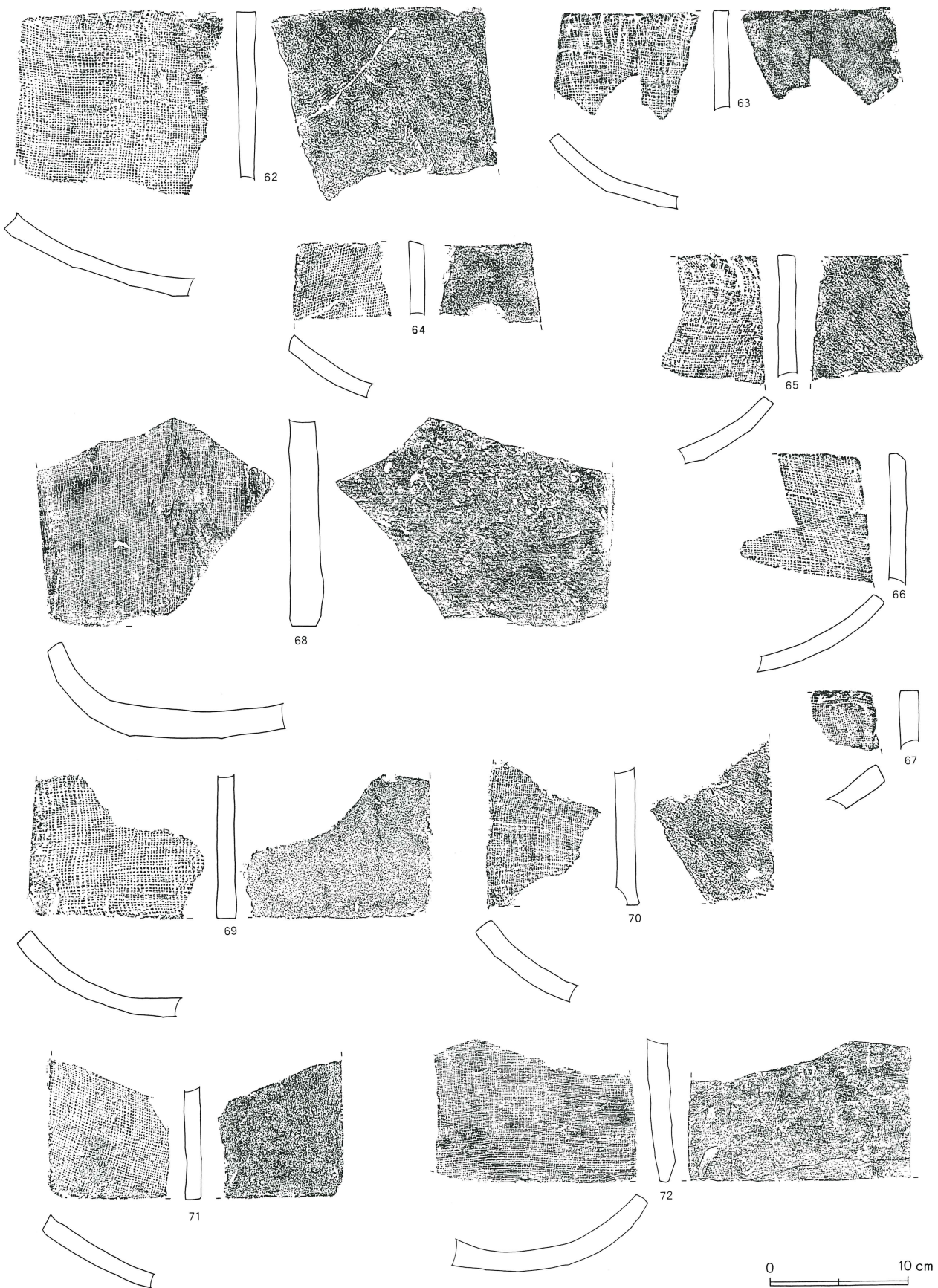
第619图 第13号区画沟出土遺物 (2)



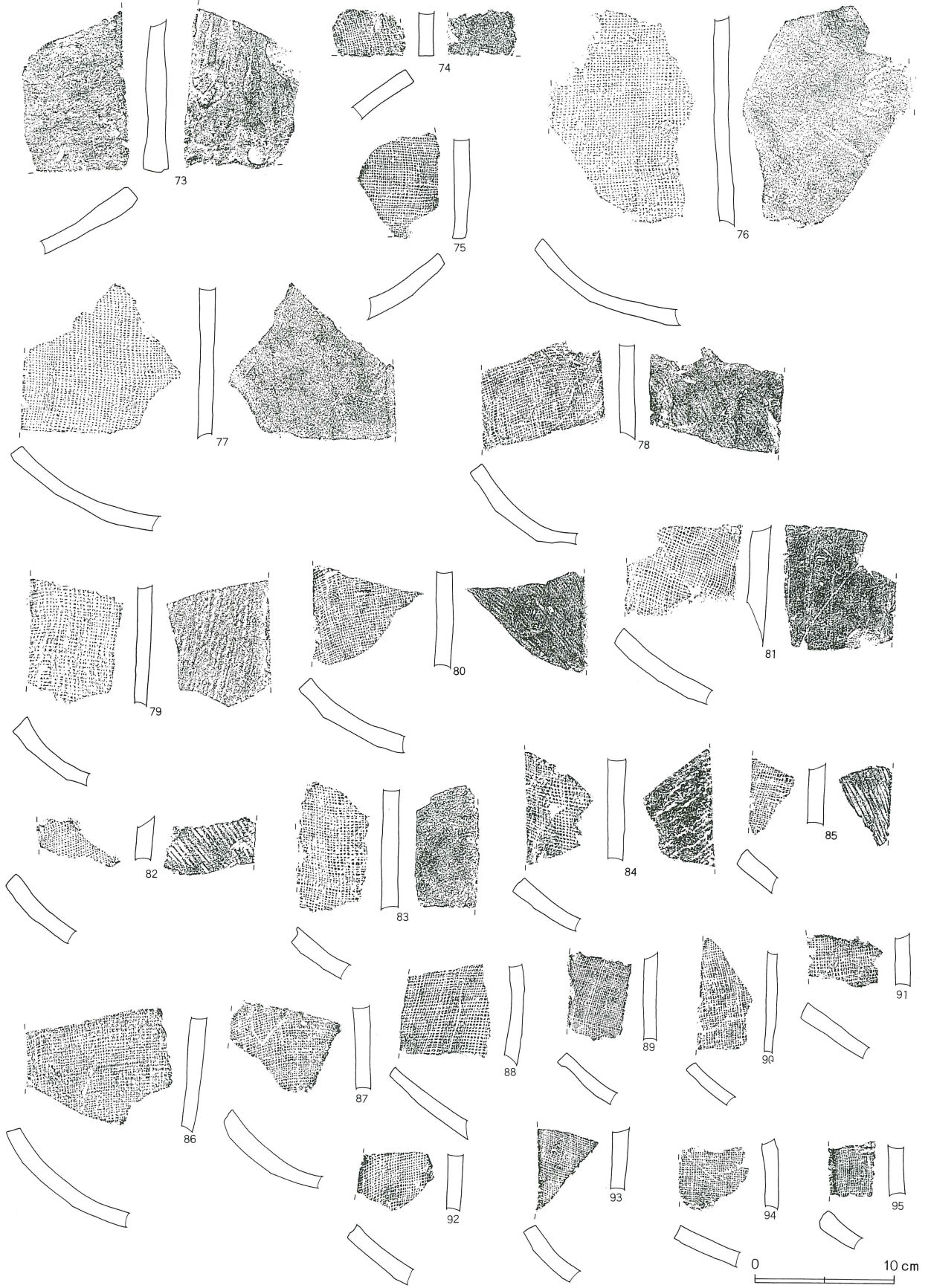
第620図 第13号区画溝出土遺物（3）



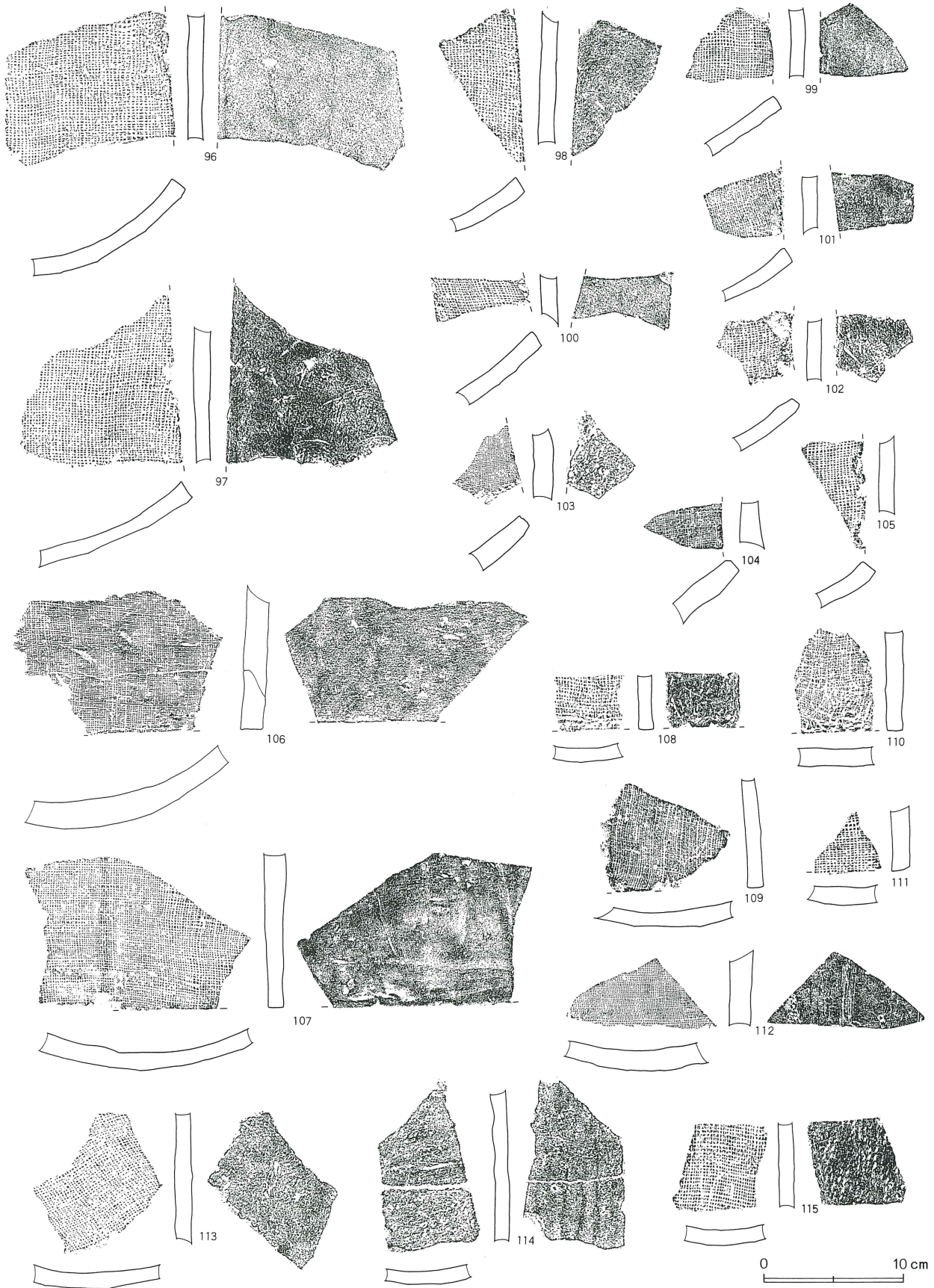
第621图 第13号区画出土遺物(4)



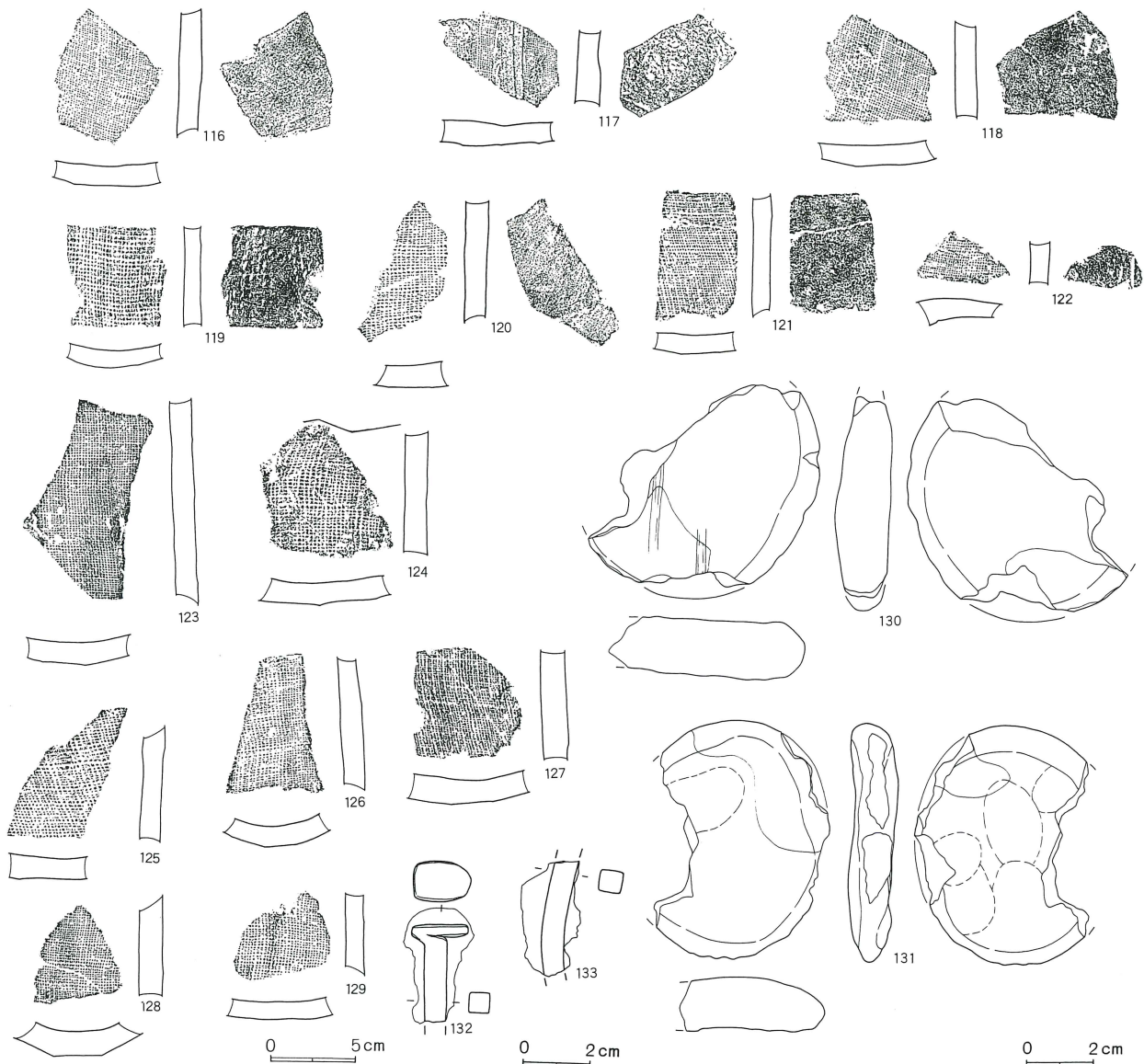
第622图 第13号区画清出土遺物 (5)



第623图 第13号区画沟出土遺物(6)



第624図 第13号区画溝出土遺物（7）



している。

85から90は、土錘である。80は黒色の付着物が口縁部内面に確認できる。煤の痕跡と考えられる。

91は、軒平瓦である。92から94は、丸瓦である。95から105は、平瓦である。

106は、砥石である。

107は、凝灰岩の切石である。

108・111から113・132は、釘である。109・108は楔、129は鋸の脚部、117は鉄塊である。他は棒状・板状の不明鉄製品であるが、119は鎖の一部の可能性はある。

第13号区画溝（第618図）

O-12・13、P-7・8・9・10・11・12・13、Q-7・8・13、R-7・13グリッドに確認した。

第1～3号建物地業跡を囲んでいた。南半部と北西部は、砂利採取の攪乱で破壊されていたが、ほぼ全容が確認できた。

南北方向（N-0°-E）に長さ23m、東西方向（N-81°-E）に長さ55m延びていた。幅は2.8m前後、深さ0.34m前後と、広く深い溝であった。

東西部は、第12号区画溝と4m～7.5mの距離を保

第476表 第13号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	罅	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏 C	H	12.0	3.5		7.9	B, E, H	普通		茶 褐	60	
2	坏 A IV	H	11.2	3.0		7.8	B, D, E, H	普通		橙	40	R-13-3
3	坏 A III	H	12.5	3.2		7.2	B, E, H	普通		明 橙	100	
4	坏 A IV	H	12.0	3.4		6.7	B, E, H	普通		黄 褐	80	
5	坏 A IV	H	12.4	3.3		6.9	B, D, E, H	普通		暗 黄 褐	50	R-13-1
6	坏 A IV	H	12.6	3.5		7.5	B, E, H	普通		橙	40	
7	坏 A IV	H	12.9	3.3		6.2	B, E, H	普通		黄 橙	70	
8	坏 A IV	H	12.1	3.3		6.1	B, E, H	普通		橙	70	R-13-3
9	坏 A V	H	12.6	3.7		6.5	B, E, H	普通		黄 橙	60	
10	坏 C	H	12.0	3.5		8.0	B, E, H	普通		黄 橙	90	P-10
11	坏 C	H	11.7	3.2		6.9	B, D, E, H	普通		橙	100	東西 P-9
12	坏 C	H	12.8	3.4		9.0	B, E, H	普通		黄 橙	70	R-13-1
13	坏 A IV	H	12.6	2.9		7.9	B, E, H	普通		橙	60	R-13-1
14	坏 A IV	H	12.1	2.9		6.7	B, D, E, H	普通		橙	100	
15	坏 A IV	H	11.7	3.5		6.6	B, E, H	普通		赤 橙	50	
16	坏 (暗文)	H	12.2	3.5		7.8	B, C, E	不良		黄 橙	100	
17	椀	HS	12.8	3.6		6.5	B, C, I	普通		灰 黄	60	
18	椀	HS	13.1	3.8		6.0	B, E, I	普通		黄 灰	70	
19	椀	HS	12.6	3.4		5.3	B, I	良好		黄 灰	75	
20	椀	HS	13.1	3.5		6.0	B, E, I	普通		浅 黄	50	
21	椀	HS	12.6	3.4		5.7	B, E, I	良好		にぶい黄橙	25	R-13-1 集中区
22	椀	HS	12.2	3.8		5.9	B, E	良好		にぶい橙	100	
23	高台付椀	HS	11.5	4.5		5.8	B, C, E, G	普通		浅 黄 橙	60	
24	皿	NS	14.9	3.0		7.0	B, C, I	良好		灰 黄	70	R-13-1 集中区
25	皿	NS	14.2	2.1		6.1	B, E, G	良好		黄 灰	75	P-11-2 墨書
26	高台付皿	NS	12.8	3.1		6.0	B, E, I	良好		黄 灰	40	
27	高台付皿	NS	12.3	2.8		5.4	B, D, E	良好		明 褐	40	
28	高台付椀	黒色	17.4	7.1		7.3	B, E, G	良好		外-橙。内-褐灰	40	
29	高台付椀	M	20.1	6.6		7.5	B, C	良好		淡 緑	30	
30	小瓶	K				5.8	B, D	良好		灰 白	25	東区上層
31	鉄鉢	S	23.9	12.8		2.6	B, D, J	良好		灰 白	25	P-10-2, P-11
32	甕	K	10.4				B, D	良好		灰 白	15	P-13-1 被熱痕
33	長頸壺	K					B	良好		灰 白	10	
34	置きカマド	HS					B, C, H	普通		黄 橙	10	
35	置きカマド	HS					B, C, H	普通		黄 橙	10	

って併走し、南北部へ（西側東側とも）は、第11・12・22号区画溝と併走することから、これらの溝とともに区画を構成していたと推定した。

遺構の切り合い関係は、第200・373号土壇より古かった。

第13号区画溝の西側から第1～3号建物地業跡にかかる建物に葺かれた瓦が多量に出土していた。

1から16は、土師器の坏である。3は、坏AⅢである。9は、坏AVである。16は、暗文土器である。1・10から12は、坏Cである。ほかは、坏AⅣである。1・

9・10・15は口縁部、12・16は口縁部内面に黒色の付着物が確認できる。油煙の痕跡と考えられる。

17から22は、須恵器（HS）の椀である。23は、須恵器（HS）の高台付椀である。24・25は、須恵器（NS）の皿である。26・27は、須恵器（NS）の高台付皿である。17は底部、27は高台が欠損している。22は黒色の付着物が口縁部に確認できる。油煙の痕跡と考えられる。

28は、黒色土器の高台付椀である。29は、緑釉陶器の高台付椀である。28は高台、29は底部が欠損してい

第 477 表 第 13 号区画溝出土土錘観察表

番号	色 調	残存率	長 さ	径	穴 径	重 さ (g)	型 式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
36	に ぶ い 橙	100	7.0	3.0	0.9	72.1	A 1	I a	22	
37	橙	100	4.5	2.0	0.5	13.7	B 1	I a	75	

第 478 表 第 13 号区画溝出土瓦観察表

番号	種類	焼 成	凸 面	凹 面	側 面	番号	種類	焼 成	凸 面	凹 面	側 面
40	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	2面面取り	85	平瓦	還元炎	平行タタキと刷り消し	布	1面面取り
41	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	86	丸瓦	中間	刷り消し	布	1面面取り
42	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	87	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
43	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	88	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
44	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	89	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
45	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り	90	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
46	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	91	平瓦	酸化炎	平行タタキと刷り消し	布	1面面取り
47	丸瓦	中間	刷り消し	布	1面面取り	92	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
48	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	93	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
49	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り	94	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
50	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	95	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
51	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	96	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
52	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	-	97	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
53	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	-	98	平瓦	中間	刷り消し	布	1面面取り
54	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	99	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
56	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り	100	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
57	丸瓦	還元炎	刷り消し	刷り消し	1面面取り	101	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
58	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-	102	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
59	平瓦	酸化炎	縄タタキと刷り消し	布	-	103	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
60	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	-	104	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
61	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-	105	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-
62	平瓦	還元炎	刷り消し	布	2面面取り	107	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
63	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	108	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
64	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	109	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
65	平瓦	還元炎	刷り消し	布	2面面取り	110	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
66	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	111	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
67	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	112	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-
68	平瓦	還元炎	刷り消し	布	2面面取り	113	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-
69	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	115	平瓦	酸化炎	縄タタキと刷り消し	布	-
70	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	116	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
71	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り	117	平瓦	還元炎	刷り消し	刷り消し	-
72	平瓦	中間	刷り消し	布	1面面取り	118	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
73	平瓦	酸化炎	刷り消し	刷り消し	2面面取り	119	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
75	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	120	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
76	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-	121	平瓦	中間	刷り消し	布	-
77	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り	123	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
78	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	124	平瓦	中間	刷り消し	布	-
79	平瓦	酸化炎	縄タタキと刷り消し	布	1面面取り	125	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-
80	丸瓦	中間	刷り消し	布	1面面取り	126	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	-
81	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り	127	平瓦	中間	刷り消し	布	1面面取り
82	平瓦	酸化炎	平行タタキと刷り消し	布	1面面取り	128	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
83	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り	129	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-
84	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り						

る。

30は、灰釉陶器の小瓶である。31は、鉄鉢模倣の須恵器(S)である。32は、灰釉陶器の長頸壺である。33は、灰釉陶器の甕である。30は底部のみ、32は頸部のみ、33は口縁部のみである。

34・35は、置きカマドである。34は掛け口破片である。35は胴部破片である。

36・37は、土錘である。

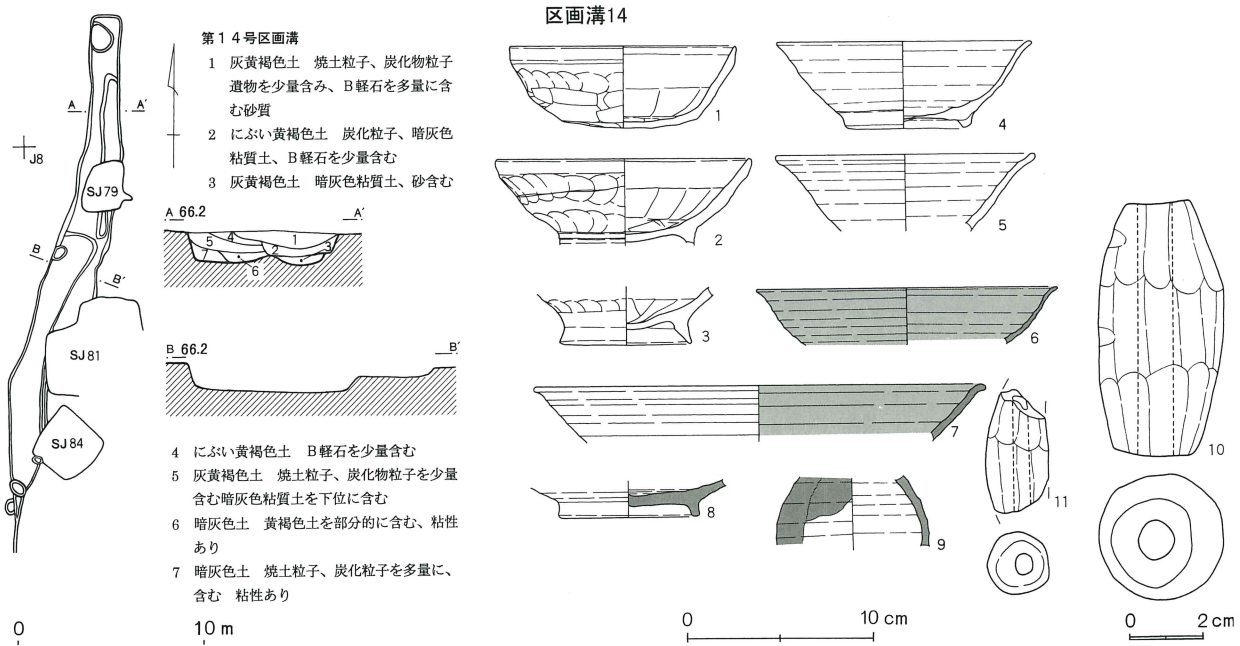
38は、軒平瓦である。39は、軒丸瓦である。40から61は、丸瓦である。62から129は、平瓦である。

130・131は、円盤状土製品である。

132は、釘である。

133は、棒状鉄製品である。

第625図 第14号区画溝・出土遺物(1)



第479表 第14号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏 A II	H	12.0	4.4		6.1	B, D, E	普通		茶 褐	100	砂
2	高台付坏	H	13.5				B, C, E, H	普通		橙	50	砂
3	高台付坏	H				6.1	B, C, E, G, H	普通		淡 茶	20	
4	高台付椀	HS	13.4	4.6		6.0	B, E, G, I	普通		浅 黄	80	K-8
5	高台付椀	HS	13.7				B, C, E, I	良好		橙	30	
6	高台付椀	K	15.7				D	良好		オリーブ灰	10	
7	高台付椀	K	18.7				B, D	良好		灰 白	5	被熱痕
8	高台付皿	K				7.2	B, D	良好		灰 白	25	
9	小瓶	K	4.0				B, D	良好		灰 白	25	

第480表 第14号区画溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
10	褐 灰	100	6.7	3.3	0.9	76.4	A 1	I a	23	
11	にぶい 橙	30		1.7	0.4	7.9	C 1	III b	212	

第14号区画溝（第625図）

I・J-8、K-7・8グリッドに確認した。

第12号区画溝と第16号区画溝の交点の北側から、北東方向（N-13°-E）に緩く蛇行しながら延びていた。長さ27.3m・幅2.7m・深さ0.23mと広くやや浅かった。

第23・24号溝と併走していた。また第14号区画溝は、土層断面の観察から掘り直しがあったと判断した。

遺構の切り合い関係は、第79・81・84号住居跡より古く、第12号区画溝より新しかった。

1は、土師器の坏AⅡである。2・3は、土師器の高台付坏である。4・5は、高台付碗である。3は口縁部、5は底部が欠損している。

6・7は、灰釉陶器の高台付碗である。8は、高台付皿である。9は、灰釉陶器の小瓶である。6・7は底部が欠損している。8は底部のみ、9は体部のみである。

10・11は、土錘である。

12は、鉄鏃である。13は、鉄製の方形金具である。

第15号区画溝（第627図）

K-8・9・10・11グリッドに確認した。

遺構の重複が激しく、確認に非常に手間取った。また検出は途切れ途切れであった。

第12号区画溝と第14号区画溝の交点から東の第18号区画溝に向かって北（N-93°-E）へ延びていた。長さ32m・幅1.5m・深さ0.23mとやや広く浅かった。

併走する第16号区画溝とは、5.3mの距離をおいて

いた。また、第12号区画溝が、ほぼ直角に曲がっていた。

遺構の切り合い関係は、第86・87・104・105・107・108・109号住居跡、第273・293号土壇より古かった。

図示できるほどの遺物は出土していない。

第16号区画溝（第628図）

L-7・8・9・10・11グリッドに確認した。

第16号区画溝は、第12号区画溝と第14号区画溝の交点の南側から始まり、第17号区画溝に向かって（N-90°-E）東に延びていた。長さ34.1m・幅3m・深さ0.26mと幅広く浅かった。

第15号区画溝と幅5.3mの距離をもって併走し、第12号区画溝と直交していた。

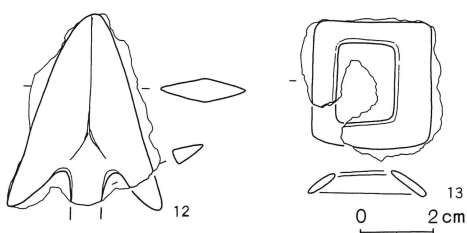
遺構の切り合い関係は、第110・111・113号住居跡よりも古かった。第12号区画溝との重複関係は明らかにできなかったが、同時に存在していたと判断した。

1は、須恵器（NS）の碗である。2は、須恵器（NS）の高台付碗である。3から5は、須恵器（HS）の高台付碗である。4は底部が欠損している。2は内外面に黒色処理が施されている。

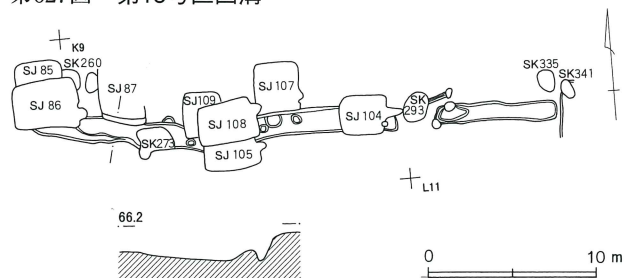
6は、灰釉陶器の把手付長頸壺である。7・8は、須恵器（HS）の羽釜である。9は、灰釉陶器の手付瓶である。6は胴部上位のみである。7は胴部上位以下、8は胴部中位以下が欠損している。9は底部のみである。

10・11は、土錘である。

第626図 第14号区画溝出土遺物（2）



第627図 第15号区画溝



第17号区画溝 (第629図)

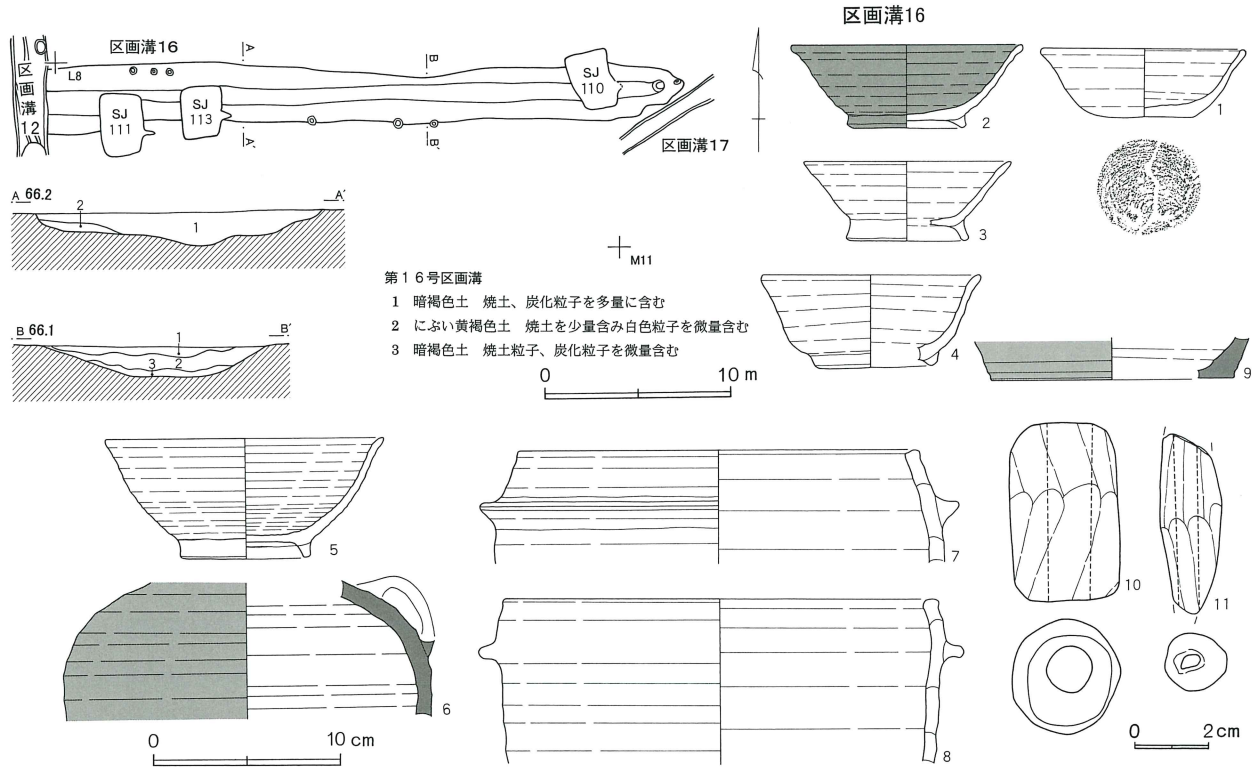
K-11・12、L-9・10・11・12、M-8・9・10、
N-8グリッドに確認した。

第12号区画溝から北東に(N-61°-E)向かって
延びていた。東端付近は、第19号区画溝と接し、第37

号掘立柱建物跡の手前まで続いていた。長さ53.5m・
幅1.0前後、深さ0.16mと狭く浅かった。

第31号溝と併走していたが、ほかに併走した溝や、
直交した溝は検出できなかった。ただ、第16号区画溝
は、接して途切れていた。

第628図 第16号区画溝・出土遺物



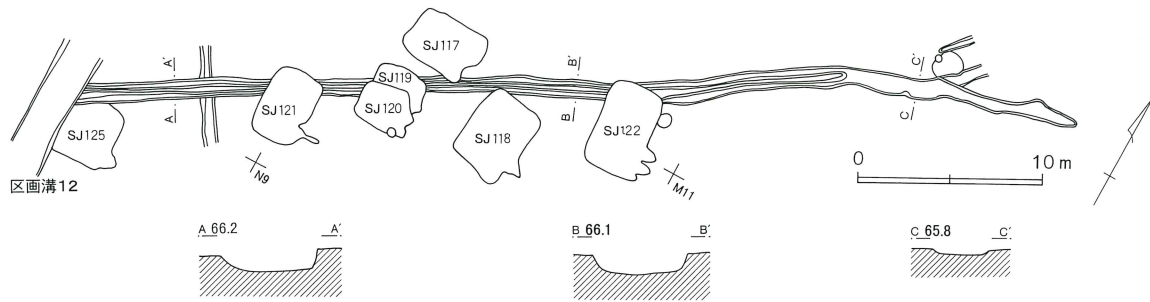
第481表 第16号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	椀	NS	10.7	3.7		4.6	B, E, G	良 好		灰 白	60	
2	高台付椀	NS	12.1	4.4		5.7	B, E, G	良 好		褐 灰	25	
3	高台付椀	HS	10.8	4.2		6.0	B, C, E, I	普 通		橙	25	
4	高台付椀	HS	11.5	5.0		5.9	B, E, G	良 好		褐 灰	60	
5	高台付椀	HS	14.8	6.3		6.5	B, E, G	良 好		灰 黄	20	
6	把手付長頸壺	K					B, D	良 好		外-オリーブ 灰。内- 灰白	5	
7	羽 B I	HS	21.1		2.9		B, C, E, H	良 好		褐 灰	10	
8	羽 A II b I	HS	22.7		2.9		B, E, G	普 通		浅 黄 橙	15	
9	手付瓶	K				12.9	B, D	良 好		外-オリーブ 灰。内- 灰白	5	

第482表 第16号区画溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
10	橙	100	4.7	3.0	1.3	41.9	A 1	I a	24	
11	褐 灰	70		1.7	0.6	10.1	C 1	V c	213	

第629図 第17号区画溝



遺構の切り合い関係は、第117～122・125号住居跡より古かった。また第12号区画溝との重複関係は明らかにできなかった。

南端は、第15号区画溝にはほぼ接していた。第19号区画溝とは、2.3mの距離をもって併走していたことから、第18・19号区画溝は、道路の側溝と推定した。この道路の東側に第34号掘立柱建物跡や畝状遺構を検出した。

第18号区画溝（第630図）

H・I-13・14、J-12・13、K-11・12グリッドに確認した。

第17号区画溝と第19号区画溝の交点の北から北東（N-31°-E）に向かって延び、第33号掘立柱建物跡の付近で一度途切れ調査区外へと延びていた。長さは39.3m・幅0.4m・深さ0.1mと狭く浅かった。

第19号区画溝（第630図）

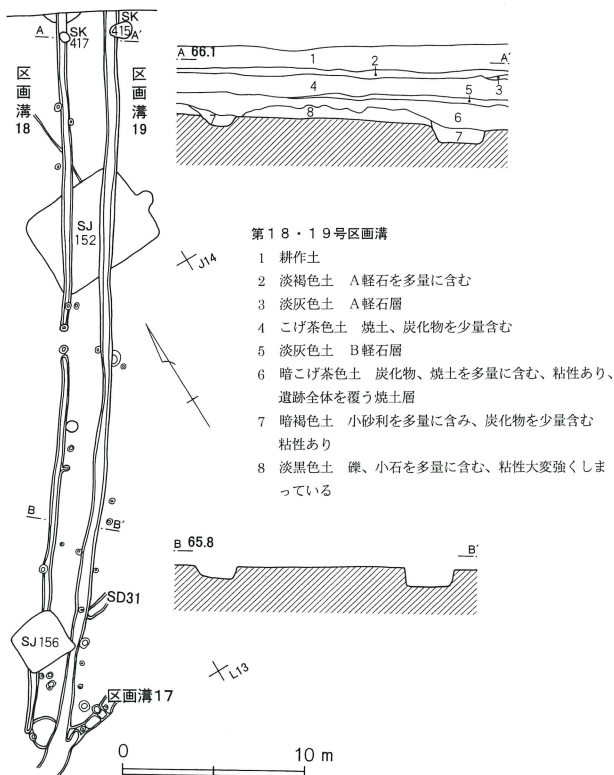
H-14、I-13・14、J-12・13、K-12グリッドに確認した。

第19号区画溝は、第17号区画溝の東端から、北東（N-35°-E）に向かって延びていた。第18号区画溝と2.3mの距離をもって併走し、道路の東側溝と推定した。長さは39.7m・幅0.6m・深さ0.14mと狭く浅かった。南端は、第17号区画溝と合流していた。

第18・19号区画溝を側溝とした道路は、第17・16号区画溝と接するところで途切れていた。

遺構の切り合い関係は、第156号住居跡より古く、第152号住居跡より新しかった。

第630図 第18・19号区画溝



第20号区画溝（第631図）

M-13・14・15・16、N-12・13・14グリッドに確認した。

第20号区画溝は、第12号区画溝の東への延長上に東（N-71°-E）へ向かって延びていた。しかし調査区外の部分の存在から、第12号区画溝との関係は明らかにできなかった。また遺構の重複が激しく、確認に非常に手間取った。

長さ34.7m・幅3.3m・深さ0.22mと広く浅かった。

第21号区画溝と5.5mの距離をもって併走し、第12

号区画溝の東西溝や第23・24号区画溝と併走していた。

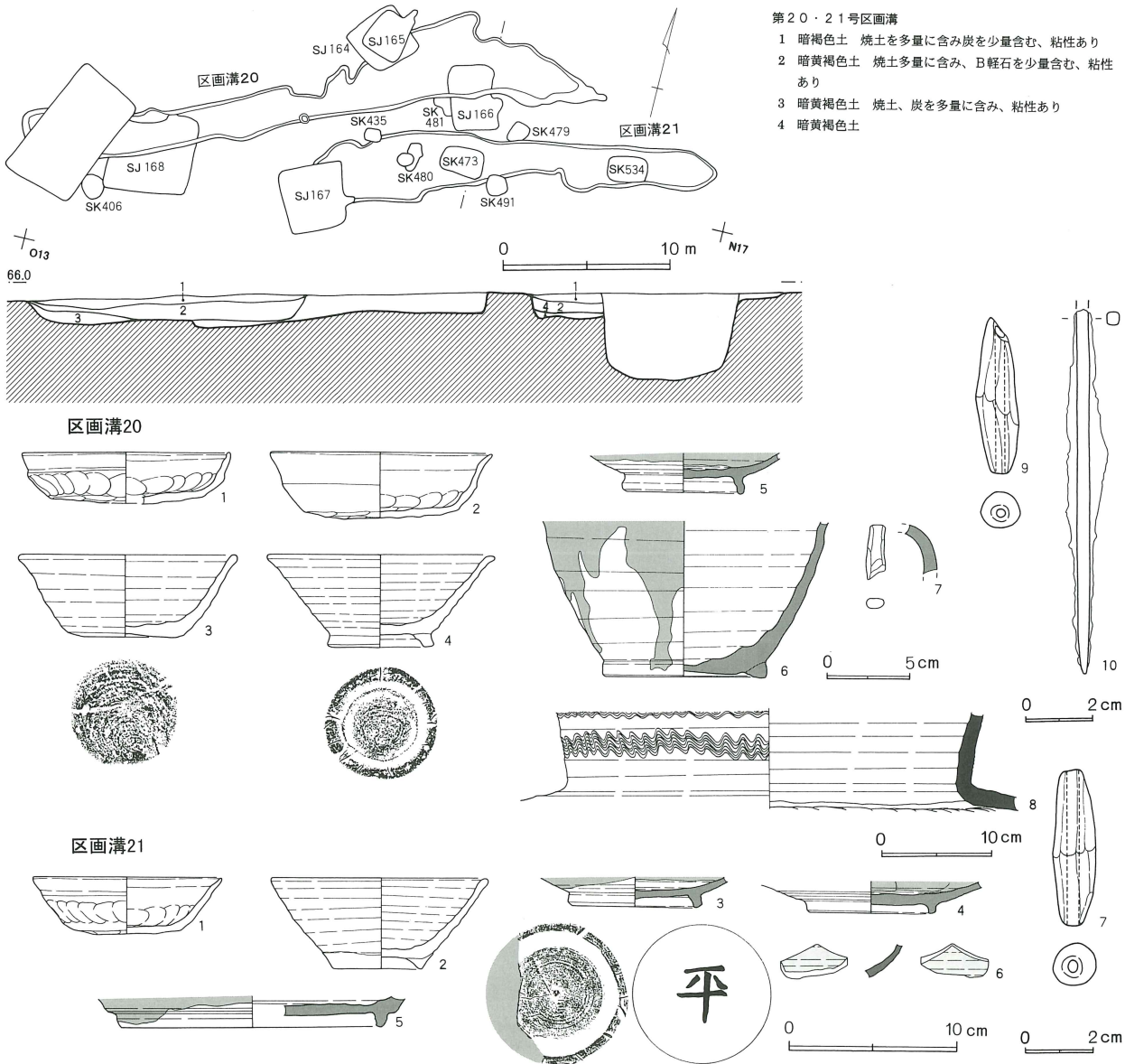
遺構の切り合い関係は、第164・165・168号住居跡より古く、第166号住居跡、第481号土壇より新しかった。

1・2は、土師器の坏AⅣである。1は底部が欠損している。

3は、須恵器（NS）の椀である。4は、須恵器（HS）の高台付椀である。

5は、灰釉陶器の高台付椀である。6は、灰釉陶器

第631図 第20・21号区画溝・出土遺物



の長頸壺である。7は、灰釉陶器の手付瓶（把手）である。5は底部のみである。6は胴部中位以上が欠損している。

8は、須恵器（S）の大甕である。頸部のみである。

9は、土錘である。

10は、棒状鉄製品である。

第21号区画溝（第631図）

M-14・15・16、N-14・15グリッドに確認した。

第20号区画溝の南側に接し、第167号住居跡から東（N-74°-E）に向かって延びていた。長さ23.8m・幅3m・深0.22mと広く浅かった。

第20号区画溝と5.5mの距離をもって併走し、第12号区画溝の東西溝、第23・24号区画溝と併走していた。

遺構の切り合い関係は、第167号住居跡、第473・480・491・534号土壙より古かった。

1は、土師器の坏AⅣである。

2は、須恵器（HS）の高台付椀である。3・4は、灰釉陶器の高台付皿である。3は底部外面に墨書「平」がみられる。5は、灰釉陶器の手付瓶か。6は、緑釉陶器の高台付椀である。3から5は底部のみである。

6は体部破片である。

7は、土錘である。

第483表 第20号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	罅	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他	
1	坏 A Ⅳ	H	12.1	3.0		9.0	B, E, H	普通		黄 橙	20	N-13	
2	坏 A Ⅳ	H	13.0	3.9		6.8	B, E, H	普通		黄 橙	30		
3	椀	NS	12.6	4.8		5.4	B, E, G	普通		灰 黄	70		
4	高台付椀	HS	13.2	5.4		5.8	B, E, G	良好		黄 灰	50		
5	高台付椀	K				6.7	B	良好		灰 白	25		M-15 被熱
6	長頸壺	K				9.4	B, D	良好		灰 白	80		M-15
7	手付瓶 （把手）	K					B, D	良好		オリーブ灰			N-12
8	大甕	S					B	普通					

第484表 第20号区画溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
9	にぶい橙	90	4.5	1.2	0.3	4.1	C 2	I c	553	

第485表 第21号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	罅	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏 A Ⅳ	H	11.1	3.3		6.2	B, E, H	普通		黄 橙	40	M-15
2	高台付椀	HS	12.8	5.3		4.8	B, E, I	良好		黄 灰	80	N-13
3	高台付皿	K				7.2	B	良好		灰 白	70	墨書
4	高台付皿	K				6.8	B, D	良好		灰 白	30	M-15-3
5	手付瓶か	K				15.5	B, D	良好		灰 白	20	M-15-3 被熱?
6	高台付椀	M					B	普通		淡 緑	5	

第486表 第21号区画溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
7	橙	100	4.7	1.3	0.3	6.8	C 2	I a	554	

第22号区画溝（第632図）

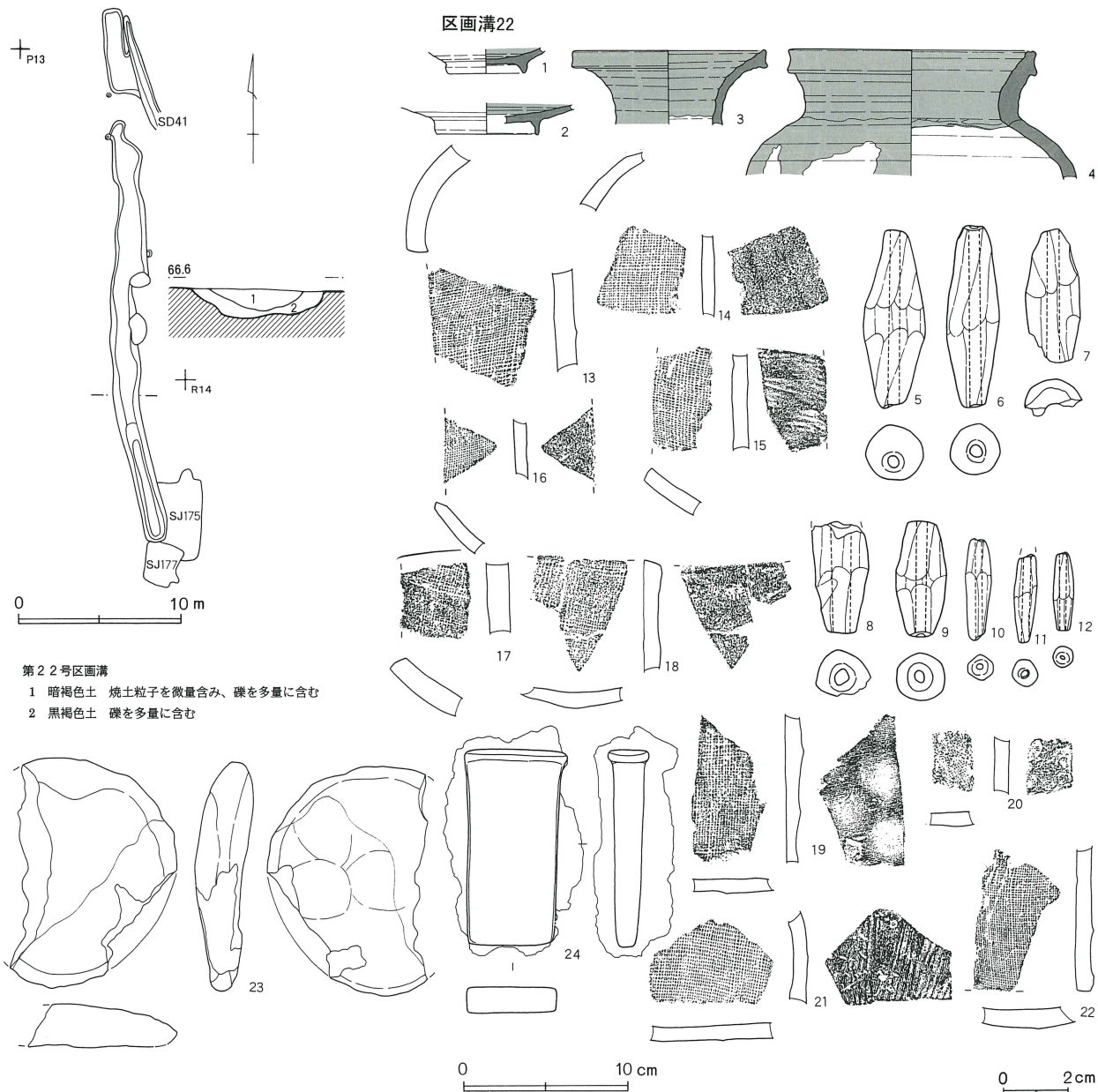
O・P・Q・R-13グリッドに確認した。

第12号区画溝の西隅から南（N-5°-W）に向か

って延びていた。途中途切れるものの長さ32.2m・幅1.6m・深さ0.26mをとり、やや広く浅かった。

第13号区画溝の南北方向と4mの距離をもって併走

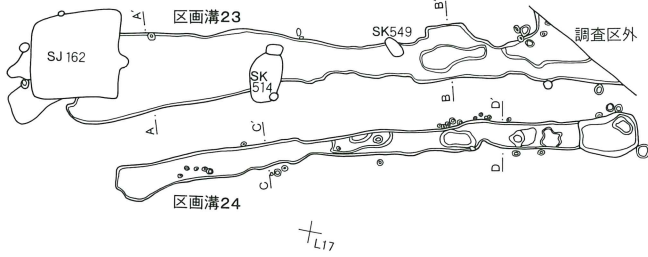
第632図 第22号区画溝・出土遺物



第487表 第22号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付碗	K				4.5	D	良好		外-灰白。 内-オリーブ灰	100	Q-13-2, 4
2	高台付皿	K				6.0	B, D	良好		灰白	80	Q-13-2
3	長頸壺	K	11.6				D	良好		灰白	20	Q-13-2
4	甕	K	14.5				B, D	良好		灰白	20	Q-13-2

第633図 第23・24号区画溝・出土遺物

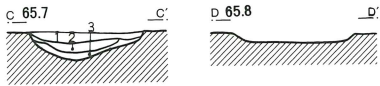
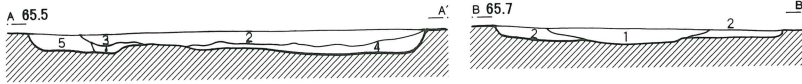


第23号区画溝 A-A' B-B'

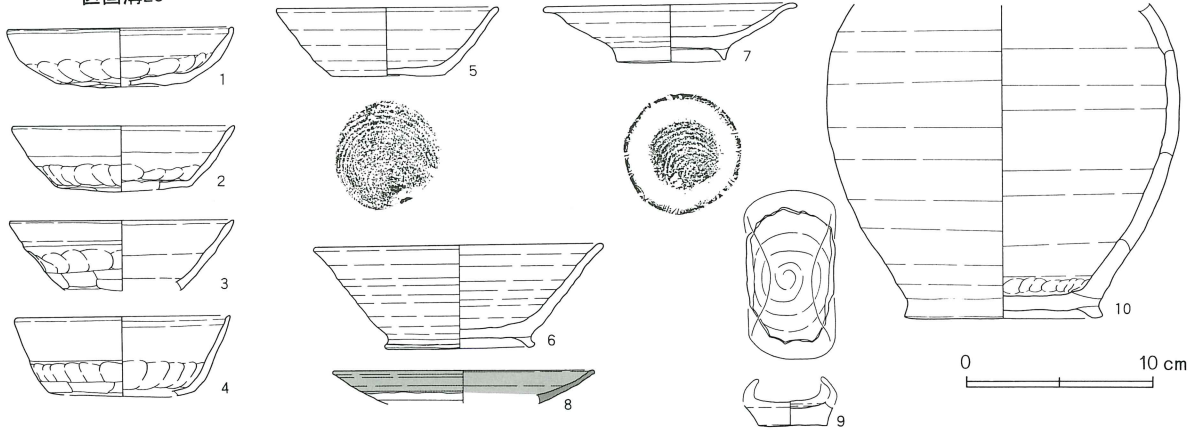
- 1 暗褐色土 焼土、炭化物を少量含み、B軽石を含む
- 2 褐色土 焼土、炭化物を微量に含み、B軽石を含む
- 3 黒褐色土 焼土、炭を多量に含み礫を少量含み、B軽石を含む、粘性あり
- 4 黒褐色土 焼土、炭を多量に含む、粘性あり
- 5 暗褐色土 砂利、焼土、炭を少量含む

第24号区画溝 C-C' D-D'

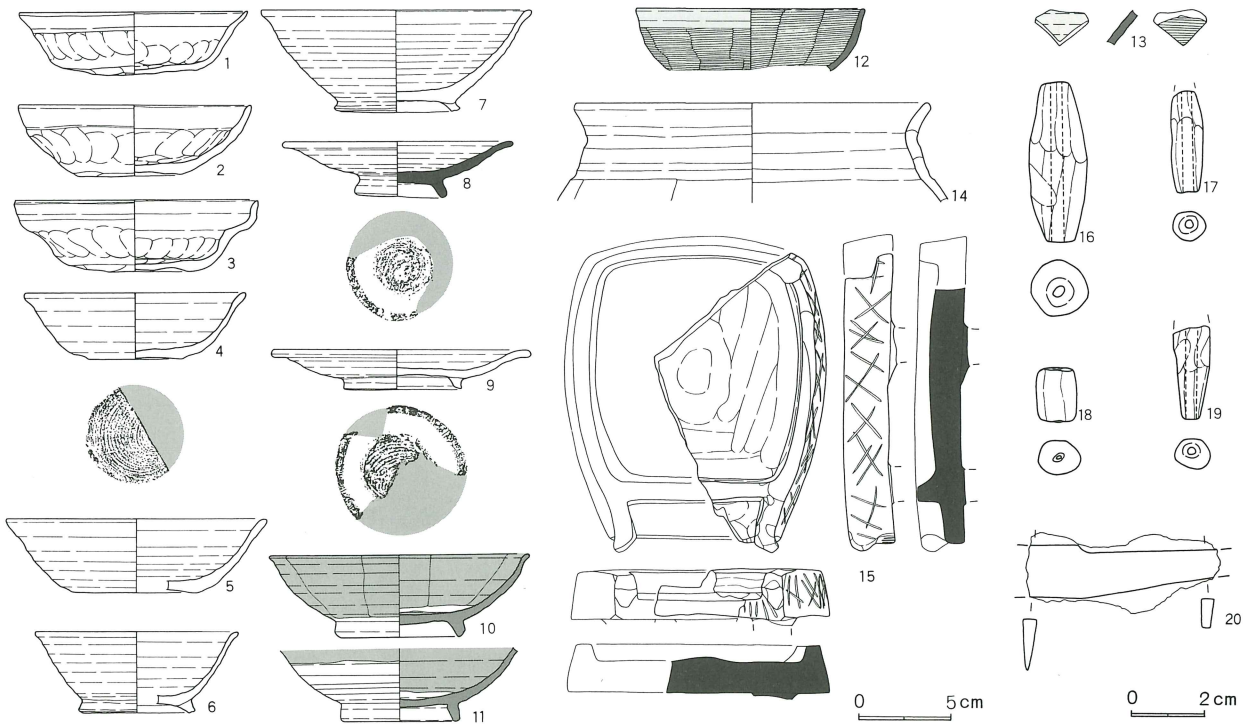
- 1 暗黄褐色土 焼土、白色粒子を少量含む、粘性あり
- 2 暗黄褐色土 焼土を少量含む
- 3 暗黄褐色土 粘性あり



区画溝23



区画溝24



第 488 表 第 22 号区画溝出土土錘観察表

番号	色 調	残存率	長 さ	径	穴 径	重さ(g)	型 式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
5	橙	100	5.3	1.7	0.4	11.6	C 1	I a	214	
6	橙	100	5.5	1.5	0.4	10.8	C 1	I a	215	
7	浅 黄 橙	30				5.4	C 1	VII	216	
8	に ぶ い 黄 橙	40		1.7	0.5	6.4	C 1	IV a	217	
9	浅 黄 橙	100	3.5	1.5	0.3	7.5	C 1	I a	218	
10	浅 黄 橙	100	3.1	0.8	0.2	1.5	C 2	I a	219	
11	に ぶ い 赤 褐	60		0.8	0.2	1.1	C 2	I b	555	
12	に ぶ い 赤 褐	100	2.3	0.6	0.1	0.7	C 2	I b	556	

第 489 表 第 22 号区画溝出土土瓦観察表

番号	種類	焼 成	凸 面	凹 面	側 面	番号	種類	焼 成	凸 面	凹 面	側 面
13	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-	17	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
14	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-	18	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
15	平瓦	酸化炎	平行タタキと刷り消し	布	1面面取り	19	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
16	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り	20	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
						21	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-

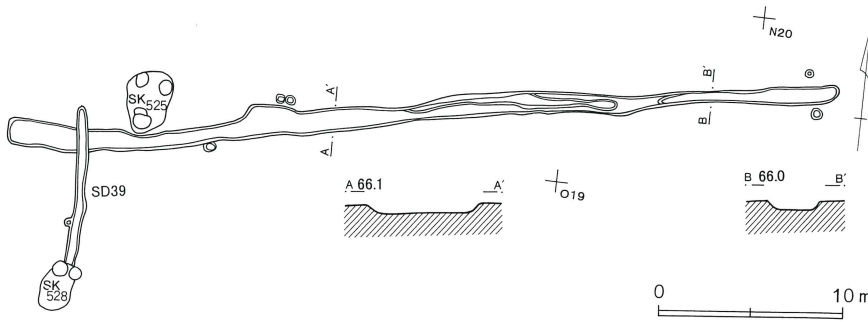
第 490 表 第 23 号区画溝出土遺物観察表

番号	器 種	種別	口径	器高	罅	底径	胎 土	焼 成	轆轤	色 調	残存	出土位置その他
1	坏 A	IV	H	11.9	3.1	7.1	B, E, H	普 通		橙	40	K-15
2	坏 A	IV	H	11.8	3.5	6.8	B, E, H	良 好		黄 褐	20	K-16
3	坏 A	V	H	11.8			B, E, H	普 通		暗 赤 褐	20	J-18
4	坏 A	V	H	11.4	4.2	7.6	B, E, H	普 通		暗 橙	20	K-16
5	椀	NS		11.9	3.7	6.2	B, G	良 好		灰 黄	50	K-15
6	高台付椀	HS		15.3	5.4	7.3	B, E, I	良 好		にぶい橙	20	K-16
7	高台付椀	NS		13.2	3.0	5.6	B, I	良 好		灰 黄	40	K-16
8	高台付皿	K		13.8			B, D	良 好		灰 白	10	J-18
9	耳 皿	HS					B, E, G, H	良 好		淡 灰	60	K-15
10	長 頸 壺	NS				9.7	B, E, H	普 通		灰 白	40	K-15, 16

第 491 表 第 24 号区画溝出土遺物観察表

番号	器 種	種別	口径	器高	罅	底径	胎 土	焼 成	轆轤	色 調	残存	出土位置その他
1	坏 A	IV	H	12.0	3.3	7.2	B, E, H	普 通		黄 橙	20	K-18
2	坏 A	IV	H	12.3	3.8	5.5	B, E, H	普 通		黄 橙	50	K-18
3	坏 A	IV	H	12.9	3.8	7.3	B, E, H	普 通		こげ茶	50	
4	椀	NS		11.8	3.5	5.0	B, E	普 通		灰 白	50	
5	椀	HS		13.8	3.9	6.8	B, E, I	普 通		にぶい黄橙	30	K-18
6	高台付椀	HS		10.5	4.3	4.5	B, E, G	普 通		にぶい黄橙	20	K-16
7	高台付椀	NS		14.5	5.4	5.9	B, C, E	良 好		灰 白	25	K-17
8	高台付皿	S		12.1	2.9	4.3	B	良 好		灰	95	
9	高台付皿	NS		13.6	2.1	6.3	B, C	良 好		黄 灰	50	R-16
10	高台付椀	K		13.7	4.4	6.2	B, D	良 好		灰オリーブ	40	
11	高台付椀	K				5.8	B	良 好		外-灰白。 内-オリーブ灰	25	
12	高台付椀	M		11.9			B	良 好		黄 緑	10	
13	高台付椀	M					B	普 通		淡 緑		
14	土師甕	B II a		18.8			B, C, E, H	良 好		橙	10	
15	風 字 硯	S					B, D, E	良 好		青 灰	40	

第634図 第25号区画溝



し、第1～3号建物地業跡を囲む区画の一部を構成していたと推定した。また第13号区画溝との間も道路として使用していたものと推定した。

遺構の切り合い関係は、第175・177号住居跡より古かった。

覆土中から第3号建物地業跡の建物に使用した瓦が出土した。

1は、灰釉陶器の高台付椀である。2は、灰釉陶器の高台付皿である。3は、灰釉陶器の長頸壺である。4は、灰釉陶器の甕である。1・2は底部のみ、3は口縁部のみである。4は胴部中位以下が欠損している。

5から12は、土錘である。

13・14は、丸瓦である。15から22は、平瓦である。

23は、鉄製の楔と考えられる。

第23号区画溝（第633図）

J-17・18、K-15・16・17グリッドに確認した。

周辺に遺構は、比較的疎らだったが、砂利層が確認面のため、確認作業は困難であった。第162号住居跡から東（N-77°-E）に向かって延び、調査区外に続いていた。長さ32.8m・幅4.2m・深さ0.19mと広く浅かった。

第24号区画溝と5mの距離をもって併走し、第12・20・21号区画溝、第38号溝、第10・12・13・14柵列跡と平行していた。特に第24号区画溝との間は、道路として使用していたと推定した。

遺構の切り合い関係は、第162号住居跡、第514・549号土墳より古かった。

1・2は、土師器の坏AⅣである。3・4は、土師器の坏AⅤである。5は、須恵器（NS）の椀である。6は、須恵器（HS）の高台付椀である。7は、須恵器（NS）の高台付椀である。8は、灰釉陶器の高台付皿である。9は、須恵器（HS）の耳皿である。1から4・8は底部、9は耳が欠損している。

10は、須恵器（NS）の長頸壺である。胴部上位以上が欠損している。

第24号区画溝（第633図）

K-15・16・17、L-16グリッドに確認した。

第23号区画溝の南側に位置し、5mの距離をもって併走（N-74°-E）していた。

長さ28m・幅1.3m・深さ0.22mと第23号区画溝より幅はやや狭くやや深い。

溝底に不整形の浅い掘り込みを検出した。

遺構の切り合い関係は、みられなかった。

1から3は、土師器の坏AⅣである。

4は、須恵器（NS）の椀、5は、須恵器（HS）の椀である。6は、須恵器（HS）の高台付椀である。7・9は、須恵器（NS）の高台付椀である。8は、

第492表 第24号区画溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
16	にぶい 褐	100	4.3	1.5	0.3	8.5	C 1	I a	220	
17	にぶい 橙	60		0.9	0.2	1.7	C 2	II a	557	
18	にぶい 橙	100	1.4	1.1	0.2	1.5	A 2	VII	44	
19	橙	30		1.0	0.2	1.5	C 2	III a	558	

須恵器（S）の高台付椀である。5・6は底部が欠損している。

10・11は、灰釉陶器の高台付椀である。12・13は、緑釉陶器の高台付椀である。11は口縁部、12は底部が欠損している。13は体部破片である。

14は、土師器の甕である。胴部中位以下が欠損している。

15は、須恵器（S）の風字硯である。

16から19は、土錘である。

20は、鉄製の刀子である。

第25号区画溝（第634図）

N-17・18・19・20、O-16・17グリッドに確認した。

第25～28号区画溝は、第54号掘立柱建物跡を中心に、東西・南北に延び、第54号掘立柱建物跡と深くかかる区画施設と推定した。

第25号区画溝の周辺は、比較的疎らだが、砂利層が確認面のため、確認作業は困難であった。

調査区のほぼ中央から東（N-81°-E）に向かって延び、第54号掘立柱建物跡の西側まで続いていた。長さ44.6m・幅1.3m・深さ0.07mと狭く非常に浅かった。

第54号掘立柱建物跡をはさんだ東側の延長上に第28号区画溝の東西溝は位置し、第26・27号区画溝と方形の区画を構成していたと推定した。

第26号区画溝（第635図）

K・L・N-20グリッドに確認した。

周辺は、遺構が比較的疎らだが、砂利層が確認面のため、また覆土に多量の川原石を含んでいたため調査は困難を極めた。

第54号掘立柱建物跡の西側から北（N-5°-W）に向かって延びていた。長さ22.4m・幅1.2m・深さ1.04m。コの字形の断面形で掘り込みは、幅が狭く非常に深かった。

南端は、第25号区画溝の西端に近接し、第27号区画

第493表 第26号区画溝出土瓦観察表

番号	種類	焼成	凸面	凹面	側面
1	軒平瓦	還元炎	隆帯	布	-
2	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
3	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
4	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	-
5	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
6	平瓦	還元炎	刷り消し	布	2面面取り
7	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り
8	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り
9	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
10	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
11	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
12	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
13	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-
14	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
15	平瓦	還元炎	刷り消し	布	-

溝と7.5mの距離をもって併走していた。

軒平瓦を含む瓦が、覆土中から出土し、付近に瓦葺きの建物の存在を推定させる。

1は、軒平瓦である。2から4は、丸瓦である。5から15は、平瓦である。

第27号区画溝（第636図）

L・M-21グリッドに確認した。

砂利層が確認面であり、覆土に多量の川原石を含み、調査は困難を極めた。

南端は、第54号掘立柱建物跡の第15号柱穴に接し、北（N-5°-W）に向かって延びていた。長さ12.8m・幅2.7m・深さ0.7mとやや狭く深かった。

第26号区画溝とほぼ併走し、第54号掘立柱建物跡の南側、第28号区画溝の南北溝の延長線上にあった。

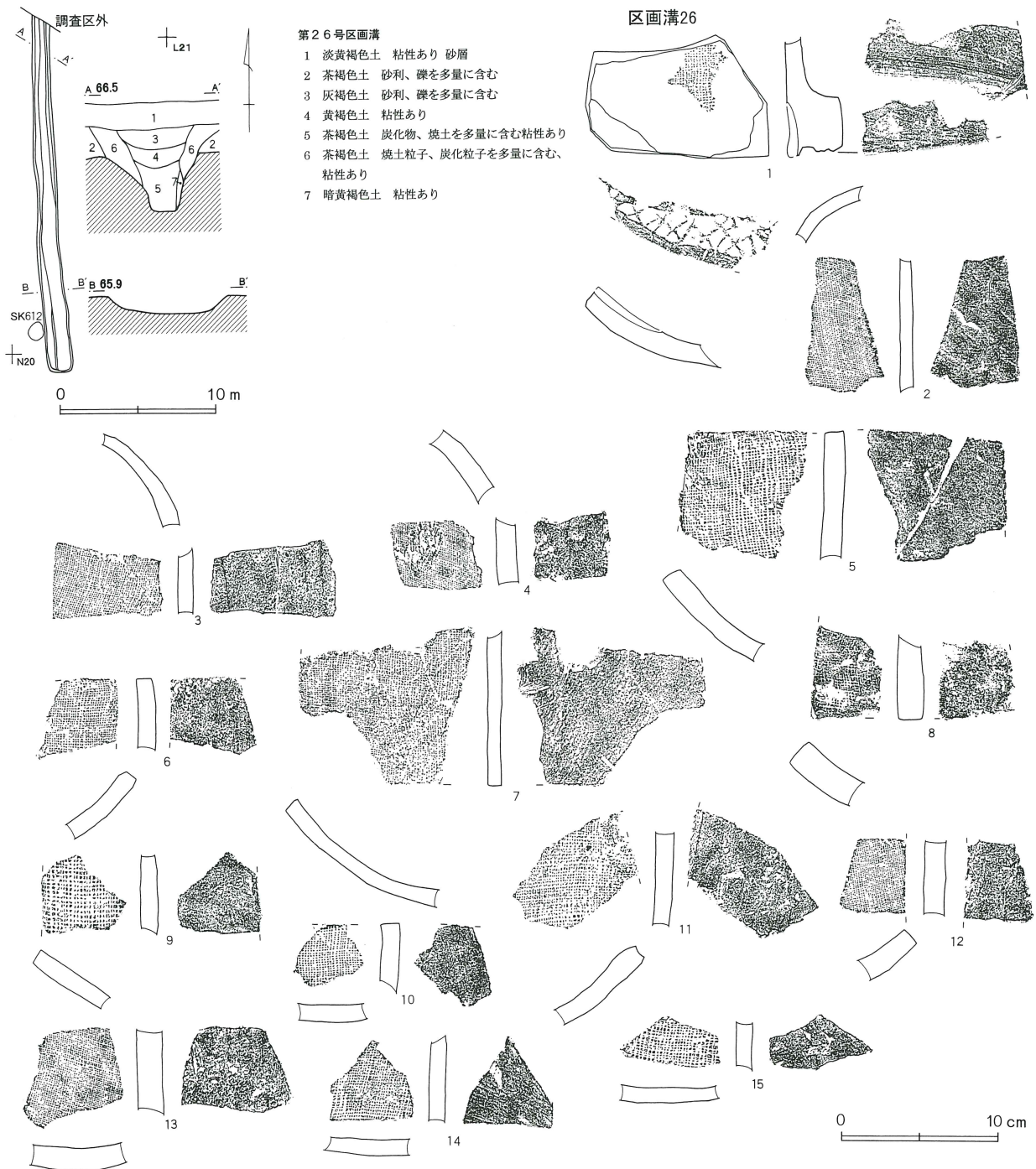
第28号区画溝（第637図）

N・Q-21・22・23、O・P-21グリッドに確認した。

第54号掘立柱建物跡の東側を大きく区画した溝である。東に開くコの字形の区画溝で、第54号掘立柱建物跡柱筋に沿って南東隅でクランク状に曲がっていた。

南北溝（N-6°-E）は、長さ30m、北側東西溝（N-81°-E）は、長さ19m、南側東西溝（N-86°

第635図 第26号区画溝・出土遺物



第494表 第28号区画溝出土遺物観察表

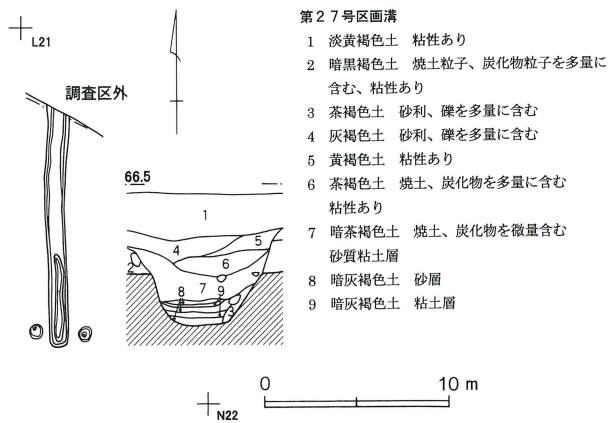
番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付皿	K				6.0	B, G	良 好		灰 白	100	Q-23
2	高台付皿	K				7.0	B, D	良 好		外-灰白。 内-オリーブ灰	10	Q-23
3	高台付椀	M					D	普 通		淡 緑	5	
4	大 甕	S					B	普 通		青 灰	5	Q-27

—E) は、長さ22mであった。東端は第62号掘立柱建物跡に接していた。溝の幅は、1.6m前後、深さは0.62m前後と狭く深かった。

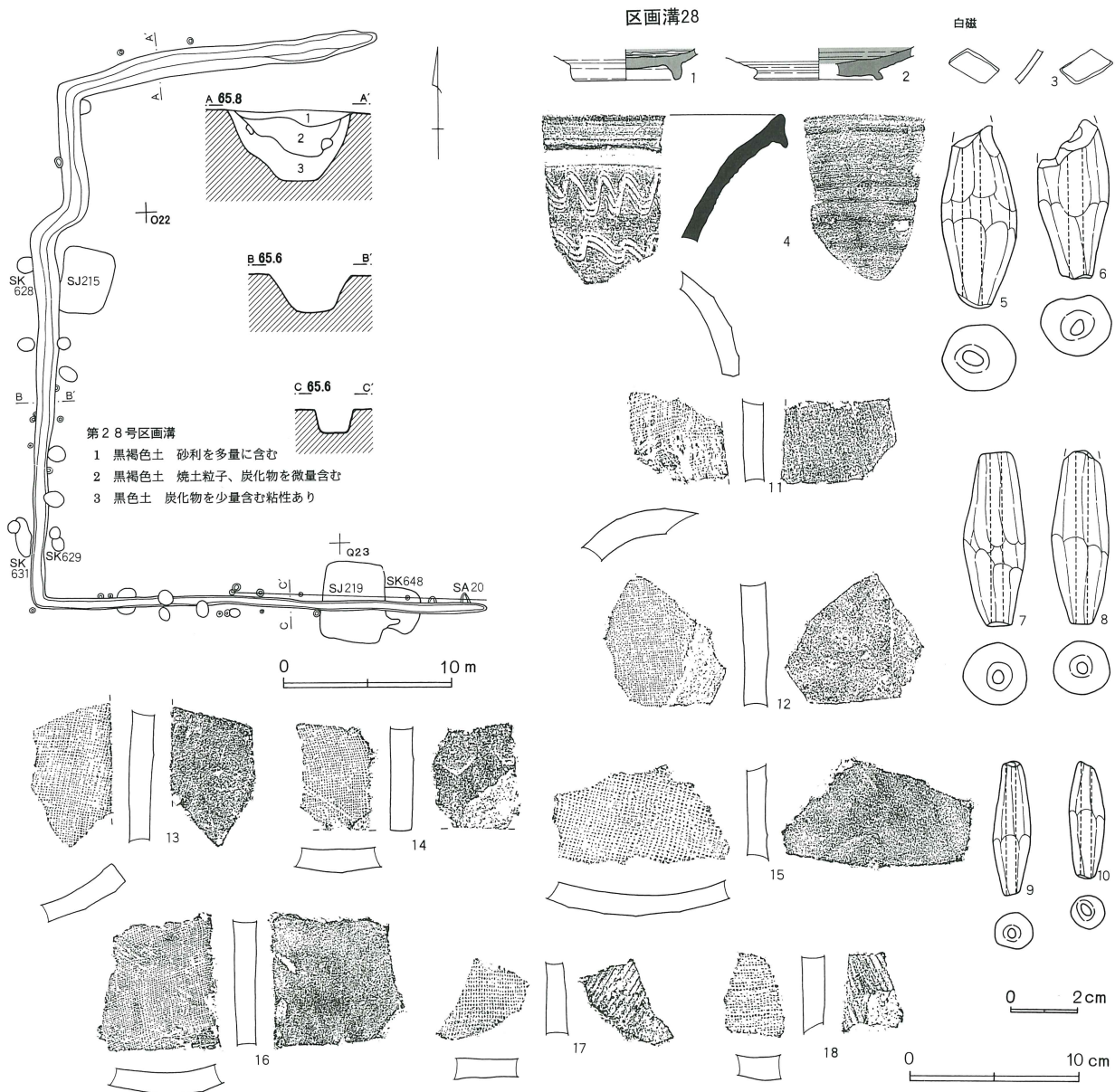
南北溝は、第27号区画溝の延長線上、北側東西溝は、第25号区画溝の延長線上にあっていた。また南側の東西溝は、第29号区画溝と2.5mの距離をもって併走し、第62号掘立柱建物跡の梁行と平行していた。また北壁に接し、第20号柵列跡が併走しつつ東に向かって延びていた。

遺構の切り合い関係は、第215・219号住居跡、第55・

第636図 第27号区画溝



第637図 第28号区画溝・出土遺物



第 495 表 第 28 号区画溝出土土錘観察表

番号	色 調	残存率	長 さ	径	穴 径	重さ(g)	型 式	欠損分類	写真番号	出 土 位 置 其 他
5	に ぶ い 橙	90		2.2	0.6	17.2	C 1	I c	221	
6	に ぶ い 橙	60		2.1	0.5	14.0	C 1	II b	222	
7	に ぶ い 橙	100	5.1	1.9	0.3	14.6	C 1	I a	223	
8	橙	90		1.7	0.3	12.1	C 1	I b	224	
9	に ぶ い 赤 褐	100	4.0	1.1	0.3	3.9	C 2	I a	559	
10	橙	100	3.5	1.0	0.3	2.6	C 2	I c	560	

56・57号掘立柱建物跡、第648号土壌より新しかった。また第629号土壌と第631号土壌の間から、溝の窪みに石組みの墓壇が形成されていた。

覆土に軒平瓦を含む瓦が出土し、付近に瓦葺きの建物の存在を推定させた。

1・2は、灰釉陶器の高台付皿である。3は、白磁の高台付椀である。4は、須恵器(S)の大甕である。

1・2は底部のみである。3は体部破片である。

5から10は、土錘である。

11・12は、丸瓦である。13から18は、平瓦である。

第29号区画溝 (第638図)

Q-22・23・24・25・26・27、R-26・27グリッドに確認した。

第57号掘立柱建物跡から東(N-95°-E)に向かって延び、東端で第30号区画溝と重複していた。長さ53.4m・幅1m・深さ0.08mと狭く浅かった。

第28号区画溝の東西溝と2.5mの距離をもって併走し、また第20号柵列跡とも併走していた。

第 496 表 第 28 号区画溝出土瓦観察表

番号	種類	焼成	凸 面	凹 面	側 面
11	平瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
12	丸瓦	還元炎	刷り消し	布	1面面取り
13	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
14	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
15	平瓦	中間	刷り消し	布	-
16	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-
17	平瓦	酸化炎	平行タタキと刷り消し	布	1面面取り
18	平瓦	酸化炎	平行タタキと刷り消し	布	1面面取り

遺構の切り合い関係は、第238・239・241号住居跡、第686号土壌、第30号区画溝より新しかった。

第30号区画溝 (第639図)

P・Q・R-27グリッドに確認した。

周辺の遺構は疎らだが、砂利層が確認面であったため、確認作業は困難であった。

第65号掘立柱建物跡の西側に位置し、南北(N-10°-W)に延びていた。長さ14.2m・幅1.2m・深さ0.35mと狭くやや深かった。

第31号区画溝と3.3mの距離をもって併走し、第65号掘立柱建物跡の梁行、第20号柵列跡の南北列と平行する。第31号区画溝との間は、道路として機能していたと推定した。

遺構の切り合い関係は、第29号区画溝より古かった。

第31号区画溝 (第639図)

P-27、Q・R-27・28グリッドに確認した。

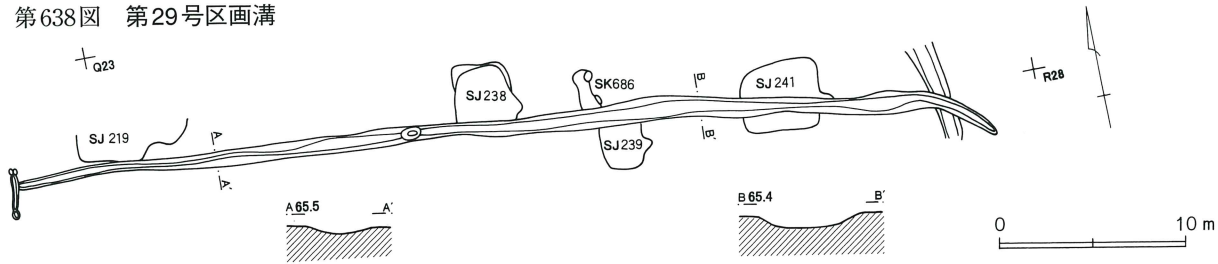
周辺の遺構は疎らだが、砂利層が確認面であり、覆土に川原石を多量に含み、調査は困難であった。

第30号区画溝の西側に位置し、南北(N-10°-W)に延びていた。長さ22.6m・幅1.8m・深さ0.23mと狭くやや深かった。溝底は浅く不整形に掘り込まれていた。

第30号区画溝と3.3mの距離をもって併走し、第65号掘立柱建物跡の棟行、第20号柵列跡の南北列と平行していた。

1は、灰釉陶器の高台付椀である。2は、灰釉陶器の高台付皿である。1は底部のみである。2は口縁部

第638図 第29号区画溝



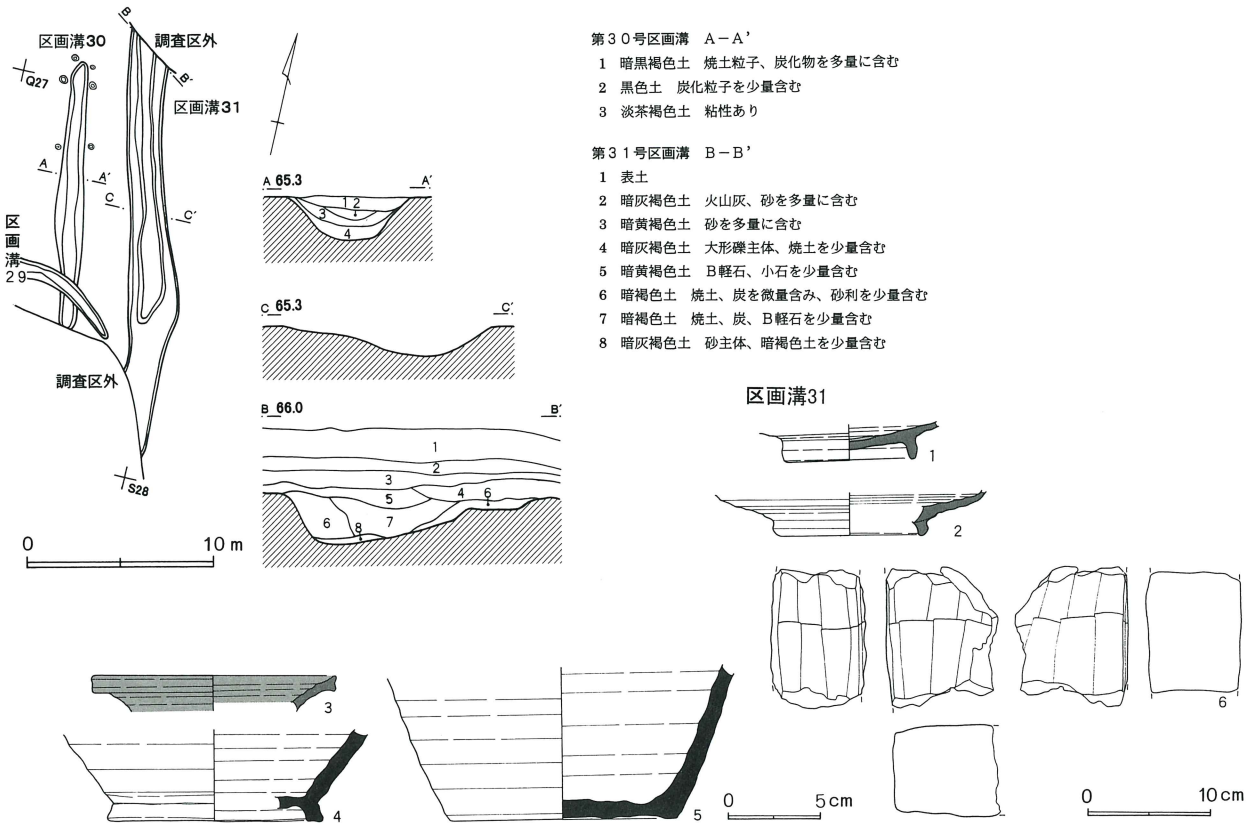
と底部が欠損している。

3は、灰釉陶器の長頸壺である。4・5は、須恵器(S)の長頸壺である。3は口縁部のみ、4は底部の

みである。5は胴部中位以上が欠損している。

6は、凝灰岩の切石である。

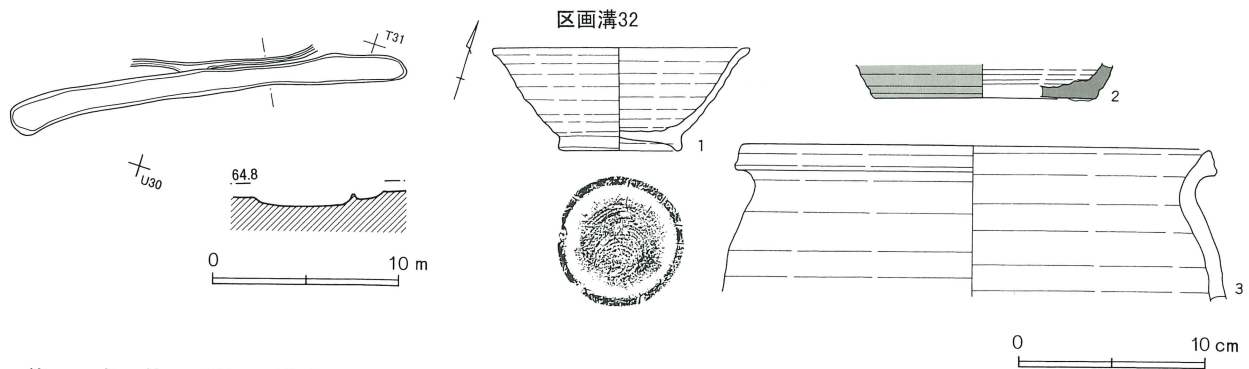
第639図 第30・31号区画溝・出土遺物



第497表 第31号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付碗	K				6.8	B, D	良好		灰白	75	Q-27
2	高台付皿	K	18.0	3.0		7.5	D	良好		灰白	15	Q-27
3	長頸壺	K	12.8				D	良好		オリーブ灰	10	Q-27
4	長頸壺	S				11.2	B	良好		灰	5	Q-27
5	長頸壺	S				11.9	B	良好		灰	10	P-27

第640図 第32号区画溝・出土遺物



第498表 第32号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付碗	HS	13.4	5.5		6.0	B, E, I	良好		にぶい黄橙	50	T-30
2	手付瓶	K				11.8	B, D	良好		灰白	5	
3	鉢	HS	24.9				B, E, G	普通		浅黄橙	10	T-30

第32号区画溝（第640図）

T-29・30・31、U-29グリッドに確認した。

調査区の東端に位置し、東西（N-65°-E）に延びていた。長さ21.2m・幅1.5m・深さ0.08mとやや広く非常に浅かった。

第42号溝が、北壁に接して併走し、南側は、御陣場川の旧流路と平行していた。

第32号区画溝より南は、火葬墓1基を検出しただけである。第32号区画溝は、遺跡の東端を区切る施設と判断した。

1は、須恵器（HS）の高台付碗である。

2は、灰釉陶器の手付瓶である。底部のみである。

3は、須恵器（HS）の鉢である。胴部中位以下が欠損している。

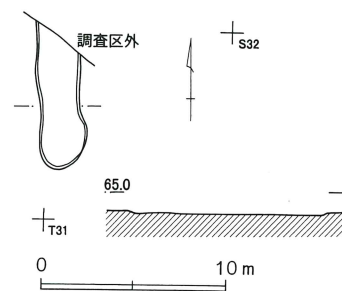
第33号区画溝（第641図）

R-30、S-30・31グリッドに確認した。

南端が第42号溝に接して位置し、北（N-0°-E）に向かって延びていた。大部分は調査区外だが、長さ7.5m・幅2.1m・深さ0.02mと幅広く非常に浅かった。

第33号区画溝より東側は、遺構が検出できず、第32号区画溝とともに、遺跡の東端を区切る施設と判断し

第641図 第33号区画溝



た。

第1号溝（第642図）

D-2、E-1・2グリッドに確認した。

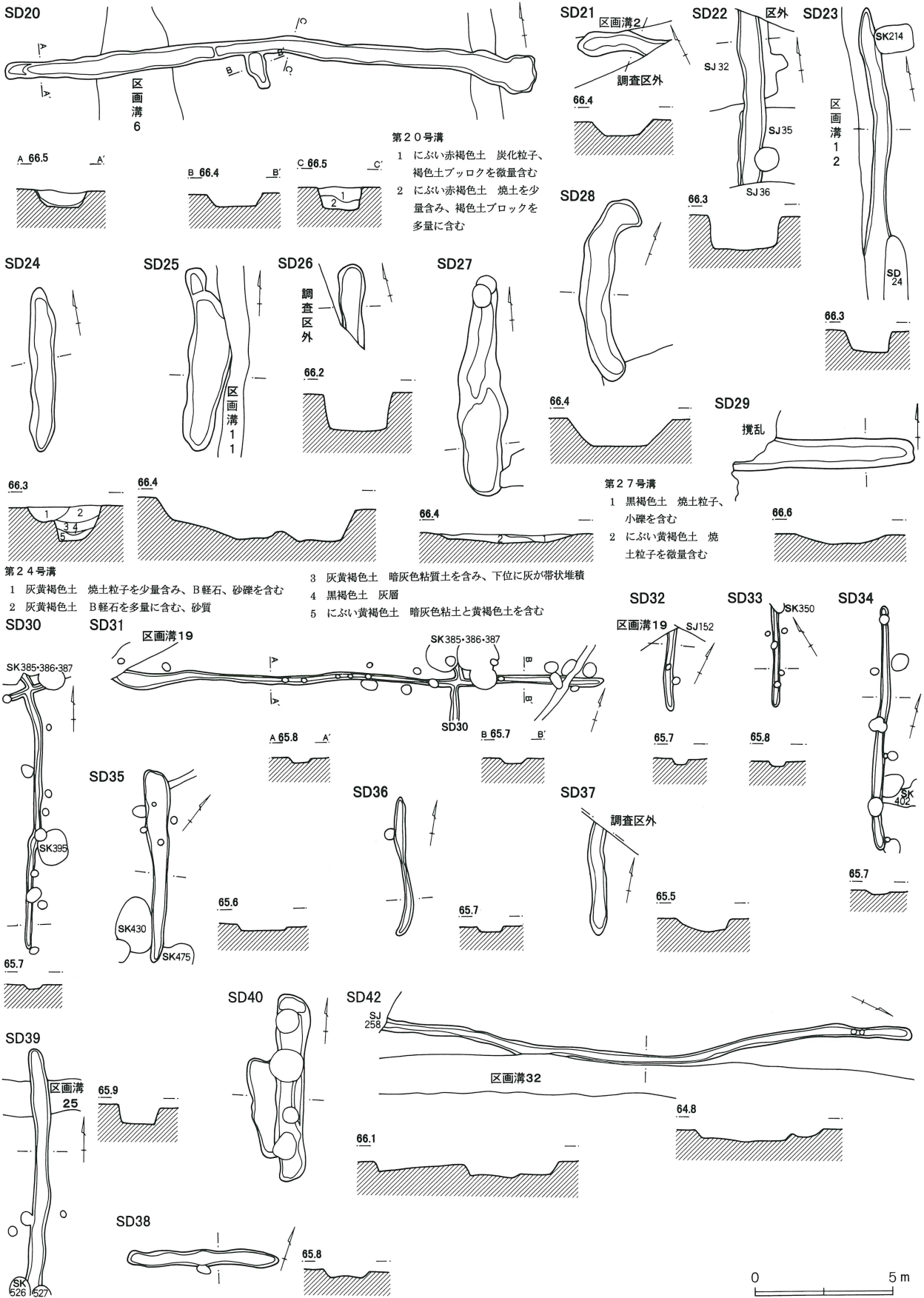
第1号区画溝の西側に位置し、第6号住居跡の西側から北（N-21°-E）に向かって延びていた。長さ14.3m・幅0.90m・深さ0.41mと狭く深かった。

第1号溝の延長線上に第2・5号溝が位置し、第1号区画溝と第7・8号溝も併走していた。

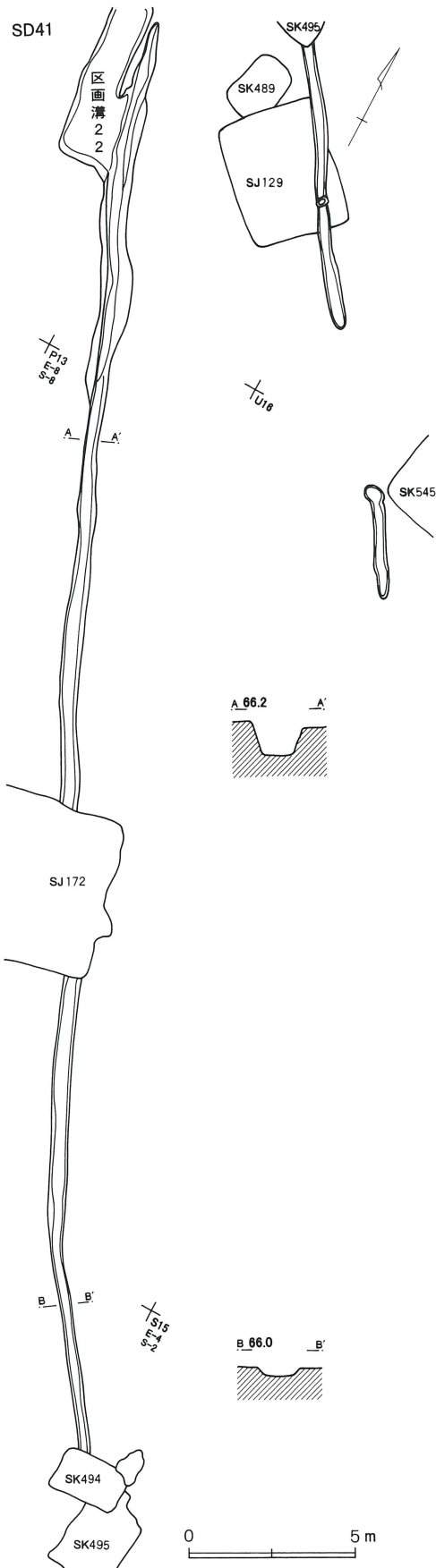
1は、土師器の坏ANである。

2・3は、須恵器（HS）の碗である。4は、須恵器（NS）の碗である。5は、須恵器（S）の碗である。6は、須恵器（HS）の皿である。7・8・10は、須恵器（HS）の高台付碗である。9は、須恵器（NS）の高台付碗である。11は、須恵器（HS）の高脚

第643図 溝 (2)



第644図 溝(3)



高台付椀である。12は、須恵器（NS）の高台付椀である。3は底部、12は口縁部が欠損している。10は黒色の付着物が外面口縁部から底部にかけて確認できる。油煙の痕跡と考えられる。

13・14は、灰釉陶器の高台付椀である。15は、灰釉陶器の高台付皿である。13は底部のみである。14・15は底部が欠損している。

16・17は、土師器の甕である。18は、須恵器（NS）の甕である。19は、須恵器（NS）の羽釜である。16・18は胴部中位以下、17・19は胴部下位以下が欠損している。

20・21は、土錘である。

22は、鉄製の釘である。

第2号溝（第642図）

F-1 グリッドに確認した。

第1号溝の南から南（N-24°-E）に向かって延び、調査区外に続いていた。長さ3.8m・幅0.9m・深さ0.56mと狭く深かった。

延長線上に第1号溝が位置し、第1号区画溝と第7・8号溝が併走していた。

第3号溝（第642図）

G-1 グリッドに確認した。

極く一部を調査区の東端に検出した。東西方向（N-112°-E）に延びるものと推定した。長さ1.9m・幅0.7m・深さ0.41mと狭く深かった。

第4・6・9号溝と平行する。

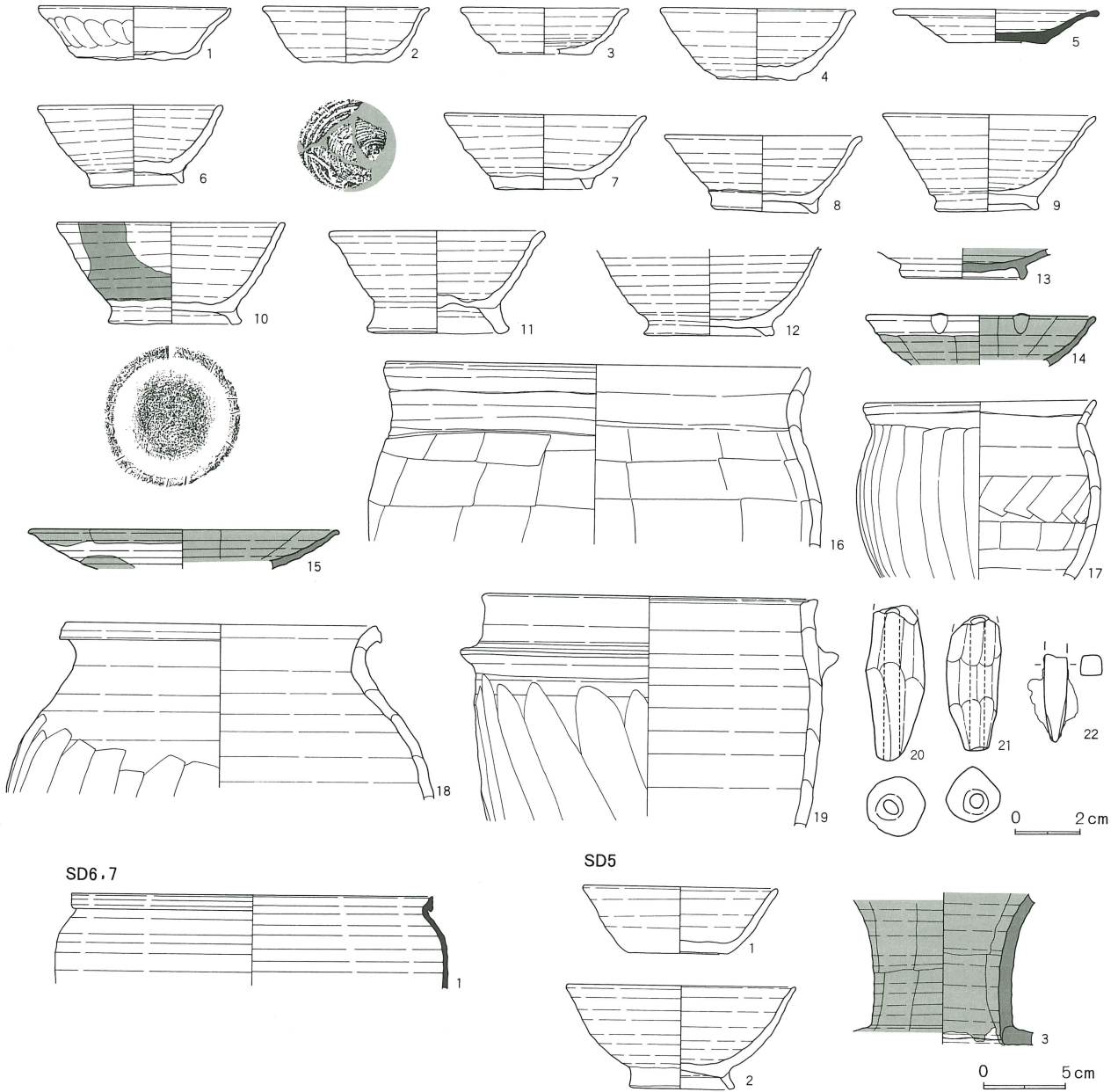
第4号溝（第642図）

F-1・2 グリッドに確認した。

第1号溝と2号溝の間から東（N-123°-E）に向かって延びていた。長さ8.2m・幅0.7m・深さ0.24mと狭く浅かった。

第3・6・9号溝と併走していた。

第645図 溝出土遺物(1)
SD1



第5号溝(第642図)

C・D-2グリッドに確認した。

第1号溝の北側から北(N-14°-E)に向かって延びていた。南端を近世の溝に、北端を第8号土壌によって破壊されていた。長さ5.9m・幅1.1m・深さ0.17mと狭く浅かった。

延長線上に第1号溝が位置し、第1号区画溝、第7・8号溝と併走していた。

遺構の切り合い関係は、第8号土壌より古かった。

1は、須恵器(NS)の椀である。2は、須恵器(NS)の高台付椀である。3は、灰釉陶器の長頸壺である。3は頸部のみである。

第6号溝(第642図)

C-2、D-2・3グリッドに確認した。

第5号溝の中央付近から東(N-108°-Eに向かっ

第8号溝 (第642図)

D・E-3 グリッドに確認した。

第7号溝の西側に位置し、2.5mの距離をもって南(N-19°-E)に向かって併走していた。長さ5.8m・幅0.4m・深さ0.12mと小規模で狭く浅かった。

第1号区画溝、第1・2・5・7号溝と併走していた。

第9号溝 (第642図)

E-3・4 グリッドに確認した。

中世の竪穴状遺構の床面下に検出した。第11号溝の北端から東(N-98°-E)に向かって延びていた。長さ5.0m・幅0.6m・深さ0.16mと狭く浅かった。

第3・4・6号溝と併走していた。

第10号溝 (第642図)

E-3・4、F-3 グリッドに確認した。

第3号掘立柱建物跡の北西隅から南(N-6°-E)に向かって延びていた。長さ9.4m・幅0.4、深さ0.09mと狭く浅かった。

第3号掘立柱建物跡の西側に隣接し、棟行と平行していたことから、第3号掘立柱建物跡に付属する遺構(雨落ち溝?)と推定した。

第3号掘立柱建物跡のほか、第11・13号溝と併走していた。

第11号溝 (第642図)

F-3 グリッドに確認した。

第13号住居跡の北側から、北(N-4°-E)に向かって延びていた。長さ7.2m・幅0.4m・深さ0.10mと狭く浅かった。

第3号掘立柱建物跡の棟行、第10・13号溝と平行していた。

遺構の切り関係は、第13号住居跡より古かった。

第12号溝 (第642図)

E-3・4 グリッドに確認した。

第10号溝の北端から東(N-78°-E)に向かって延びていた。長さ5.5m・幅0.4m・深さ0.05mと狭くとても浅かった。

第12号溝の東への延長線上に第18号溝が位置していた。

遺構の切り合い関係は、第39号土壙より新しかった。

第13号溝 (第642図)

E-4、F-5 グリッドに確認した。

第3号掘立柱建物跡の身舎の北東隅から南(N-9°-E)に向かって延びていた。南端は、第40号土壙により破壊されていた。長さ5.9m・幅0.6m・深さ0.10mと狭く浅かった。

第3号掘立柱建物跡の棟方向、第10・11号溝と平行していた。

第14号溝 (第642図)

I-4・5 グリッドに確認した。

第1号掘立柱建物跡の第6号柱穴から西(N-93°-E)に向かって延び、西端は、第25・27号住居跡により破壊されていた。長さ8.2m・幅0.6m・深さ0.12mと狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第1号掘立柱建物跡、第25・27号住居跡より古かった。

第15号溝 (第642図)

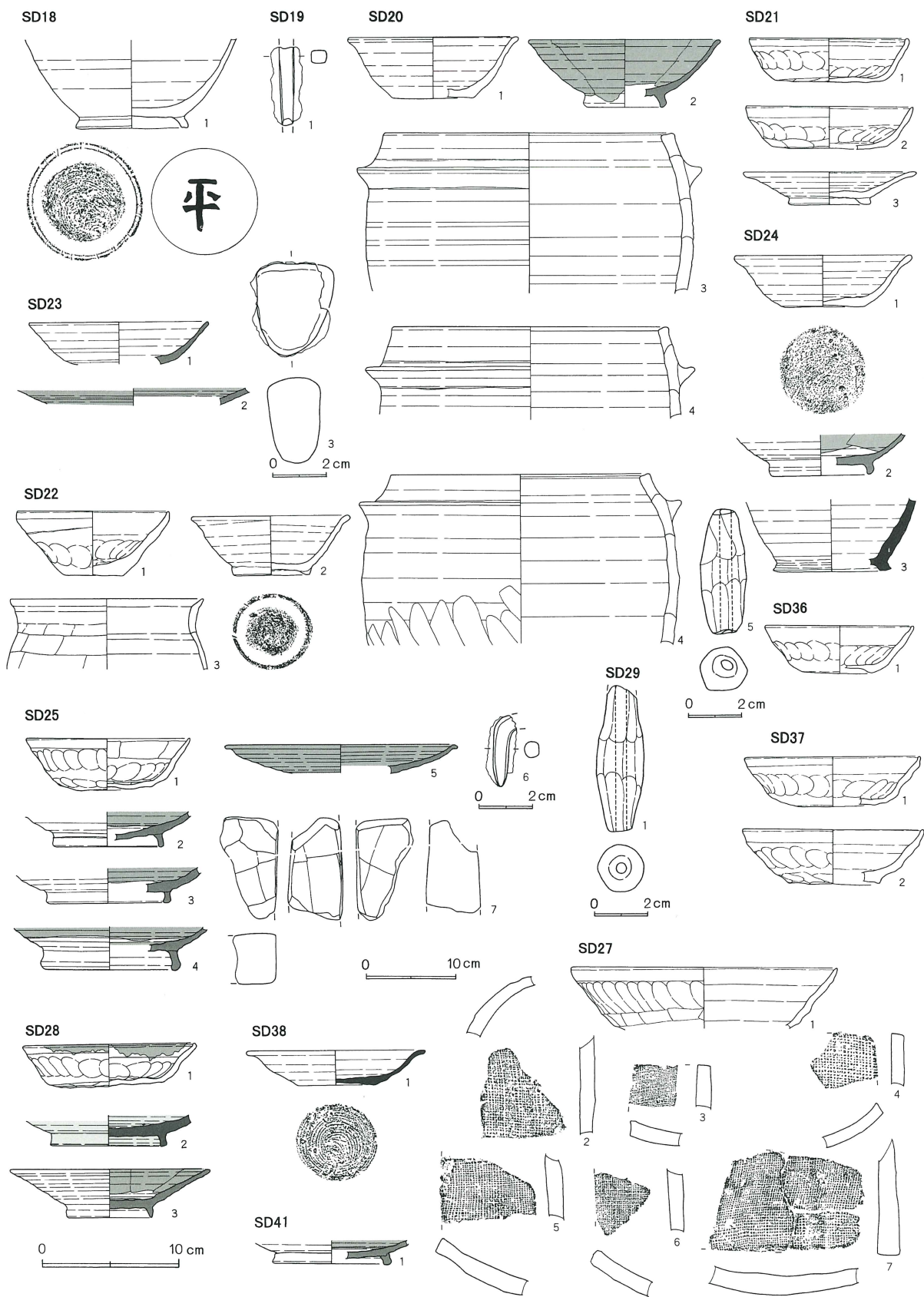
J-4 グリッドに確認した。

第1号掘立柱建物跡の南西隅から北(N-5°-E)に向かって延び、北端は、第14号溝により破壊されていた。長さ9.6m・幅0.3m・深さ0.10mと狭く浅かった。

第1号掘立柱建物跡の西側に接し、棟行と平行していた。そのほか、第6号区画溝の南北溝と平行していた。

遺構の切り合い関係は、第27号住居跡より古く、第14号溝より新しかった。

第646図 溝出土遺物（2）



第16号溝（第642図）

G-5 グリッドに確認した。

第12号掘立柱建物跡の東側から東（N-96°-E）に向かって延びていた。西端は、第12号掘立柱建物跡の第8号柱穴により破壊されていた。長さ3.5m・幅0.3m・深さ0.08mと狭くとも浅かった。

第10・11号掘立柱建物跡の北側にはほぼ接し、棟行と平行していた。

遺構の切り合い関係は、第12号掘立柱建物跡より古かった。

第17号溝（第642図）

D-6 グリッドに確認した。

第18号溝から北（N-11°-E）に向かって延びていた。南端は、第18号溝に破壊されていた。長さ2.2m・幅0.4m・深さ0.15mと狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第18号溝より古かった。

第18号溝（第642図）

D・E-6 グリッドに確認した。

第31号住居跡の北西隅から東（N-75°-E）に向かって延びていた。長さ7.8m・幅0.5m・深さ0.14mと狭く浅かった。

延長線上には第12号溝が位置していた。

遺構の切り合い関係は、第104号土壇より古く、第113号土壇より新しかった。

1は、須恵器（HS）の高台付椀である。底部外面

に墨書「平」がみられる。口縁部が欠損している。

第19号溝（第642図）

F-6 グリッドに確認した。

第8号掘立柱建物跡の南西隅から、南（N-5°-E）に向かって延びていた。北端は、第138号土壇により破壊されていた。長さ4.9m・幅0.6m・深さ0.08mと狭くとも浅かった。

遺構の切り合い関係は、第138号土壇より古かった。

1は、棒状鉄製品である。

第20号溝（第643図）

I-5・6・7 グリッドに確認した。

第1号掘立柱建物跡の北東隅から東（N-98°-E）に向かって延びていた。長さ18.7m・幅0.6m・深さ0.24mとやや幅の広く浅かった。

第1号掘立柱建物跡の梁行、第2号掘立柱建物跡の桁行と平行していた。

遺構の切り合い関係は、第6号区画溝より新しかった。

1は、須恵器（HS）の椀である。

2は、灰釉陶器の高台付椀である。3は、須恵器（HS）の羽釜である。4は、須恵器（NS）の羽釜である。2は底部、3は胴部下位以下、4は胴部中位以下が欠損している。3は黒色の付着物が胴部内面に確認できる。タール状の付着物と考えられる。

第 503 表 第 18 号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付椀	HS				8.0	B, C, E, H	良好		灰白	100	墨書

第 504 表 第 20 号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	椀	HS	12.2	4.4		5.8	B, E, G	良好		にぶい黄橙	20	
2	高台付椀	K	13.7	4.9		5.4	B	良好		灰白	20	被熱痕
3	羽 B I	HS	20.8				B, C, E, H	良好		浅黄橙	20	
4	羽 B II b	NS	19.9		3.0		B, D, H	良好		灰白	15	

第21号溝（第643図）

L-6グリッドに確認した。

第1・2号掘立柱建物跡付属した池を構成する第2号区画溝の南壁に接して、東（N-115°-E）に向かって延び、調査区外に続いていた。長さ3.4m・幅0.5m・深さ0.15mと狭く広がった。

1・2は、土師器の坏AⅣである。3は、須恵器（NS）の高台付皿である。2は底部が欠損している。

第22号溝（第643図）

D・E-7グリッドに確認した。

周辺は遺構が密集し、激しく重複していたため、確認に手間取った。

南端は、第36号住居跡により破壊されていた。北（N-5°-E）に向かって延び、調査区外に続いていた。長さ6.02m・幅0.8m・深さ0.36mとやや幅広く、深かった。

遺構の切り合い関係は、第36号住居跡より古く、第32・35号住居跡より新しかった。

1は、土師器の坏Bである。

2は、須恵器（HS）の高台付椀である。

3は、土師器の甕である。4は、須恵器（NS）の羽釜である。3は胴部中位以下、4は胴部下位以下が

欠損している。

5は、土錘である。

第23号溝（第643図）

I・J-8グリッドに確認した。

第12号区画溝から北東（N-11°-E）に向かって延びていた。長さ10m・幅0.6m・深さ0.22mと狭く浅かった。

第14号区画溝、第24号溝と平行していた。

遺構の切り合い関係は、第214号土塋、第24号溝より古かった。

1は、灰釉陶器の高台付椀である。2は、灰釉陶器の段皿である。1・2は底部が欠損している。

3は、鉄塊である。

第24号溝（第643図）

J-7・8グリッドに確認した。

第23号溝の南端から、南（N-9°-E）に向かって延びていた。長さ5.8m・幅0.8m・深さ0.37mと短いがやや幅広く深かった。

第14号区画溝、第23号溝と平行していた。

遺構の切り合い関係は、第23号溝より新しかった。

1は、須恵器（NS）の椀である。

第505表 第21号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏢	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏AⅣ	H	11.5	3.2		7.6	B, C, E, H	普通		黄褐	50	
2	坏AⅣ	H	12.1	3.0		8.3	B, E, H	良好		黄褐	20	
3	高台付皿	NS	12.3	2.4		5.6	B, E, I	普通		灰黄	40	

第506表 第22号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏢	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏B	H	11.0	4.7		4.1	B, E, H	普通		黄橙	40	
2	高台付椀	HS	11.4	4.3		5.3	B, E, G, I	良好		にぶい黄橙	100	
3	甕AⅢc	H	14.0				B, E, H	良好		橙	15	
4	羽AⅠbイ	NS	18.8		2.1		D, E	良好		灰白	20	SD-44

第507表 第22号溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
5	にぶい橙	100	4.6	1.8	0.5	11.3	C1	Ⅵa	228	

2は、灰釉陶器の高台付椀である。口縁部と底部が欠損している。

3は、須恵器(S)の長頸壺である。底部のみである。

第25号溝(第643図)

O-7グリッドに確認した。

第11号区画溝の西壁に接し、南(N-2°-W)に向かって延びていた。長さ6.6m・幅0.8m・深さ0.39mと狭くやや深かった。

第11・12号区画溝と平行していた。

第11号区画溝より古かった。

1は、土師器の坏AVである。

2から4は、灰釉陶器の高台付椀である。5は、灰釉陶器の高台付皿である。2から4は底部のみである。5は底部が欠損している。

6は、鏝の脚部破片である。

7は、凝灰岩の切石である。

第26号溝(第643図)

P-7グリッドに確認した。

第11号区画溝の南端から南(N-14°-E)に向かって延び、大半が調査区外に続いていた。長さ3.04m・幅0.7m・深さ0.40mと狭くやや深かった。

第27号溝(第643図)

Q-8、R-8・9グリッドに確認した。

第1号建物地業跡の南西隅から南(N-3°-E)に向かって延びていた。長さ7.9m・幅1.3、深さ0.07mと狭くとても浅かった。

第13号区画溝や第1号建物地業跡の西壁と平行していた。

1は、土師器の坏Bである。底部が欠損している。

2は、丸瓦である。3から7は、平瓦である。

第28号溝(第643図)

Q・R-11グリッドに確認した。

第2号建物地業跡と第3号建物地業跡の間に位置し、南(N-20°-W)に向かって延びていた。長さ

第508表 第23号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付椀	K	12.9				B	良好		灰白	20	I-8 被熱痕
2	段皿	K	18.2				D	良好		オリーブ灰	20	I-8

第509表 第24号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	椀	NS	12.6	3.7		5.8	B, I	普通		灰白	60	
2	高台付椀	K				7.0	B	良好		灰白	20	
3	長頸壺	S				7.7	B, C	良好		褐灰	5	

第510表 第25号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏AV	H	11.8	3.7		5.3	B, E, H	普通		黄橙	60	O-7
2	高台付椀	K				7.5	B, D	良好		灰(釉)浅黄	10	O-7
3	高台付椀	K				8.3	B, D	良好		灰白	5	O-7
4	高台付椀	K				9.2	B	良好		灰白	10	O-7
5	高台付皿	K	16.4				B	良好		灰白	20	O-7 被熱

6.5m・幅1.2m・深さ0.29mと狭くやや深かった。

1は、土師器の坏AⅣである。黒色の付着物が口縁部と底部内面に確認できる。油煙の痕跡と考えられる。

2は、緑釉陶器の高台付椀である。3は、灰釉陶器の段皿である。2は底部のみである。

第29号溝（第643図）

Q-11・12グリッドに確認した。

第40号住居跡と第3号建物地業跡の間に位置し、西端は攪乱で破壊され、東（N-90°-E）に向かって延びていた。長さ6.5m・幅1m・深さ0.10mと狭く浅かった。

第40号住居跡の長軸方向、第3号建物地業跡の梁行と平行していた。

1は、土錘である。

第30号溝（第643図）

J・K-13グリッドに確認した。

第511表 第27号溝出土瓦観察表

番号	種類	焼成	凸面	凹面	側面
2	丸瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
3	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り
4	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	2面面取り
5	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
6	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
7	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り

第512表 第27号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏	B	H	19.3			B, E, H	普通		赤褐	20	

第513表 第28号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏	AⅣ	H	12.3	3.0	7.3	B, E, H	良好		黄橙	80	
2	高台付椀	M				7.7	B, D	良好		淡緑	10	
3	段皿	K	14.4	3.5		5.9	B, D	良好		灰白	20	

第514表 第29号溝出土土錘観察表

番号	色調	残存率	長さ	径	穴径	重さ(g)	型式	欠損分類	写真番号	出土位置その他
1	にぶい橙	90		1.7	0.4	12.3	C1	Ib	229	

第31号溝の中央部から、南（N-1°-E）に向かって延びていた。長さ9.9m・幅0.44m・深さ0.2mと狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第387・395土壇、第38号掘立柱建物跡より古かった。

第31号溝（第643図）

K-12・13、J-13・14グリッドに確認した。

第19号区画溝から東（N-73°-E）に向かって延びていた。長さ18.6m・幅0.4m・深さ0.08mと狭くとも浅かった。

第17号区画溝、第36号掘立柱建物跡の梁行、第37・38号掘立柱建物跡の桁行と平行していた。

第32号溝（第643図）

I・J-13グリッドに確認した。

第19号区画溝と第152号住居跡の重複部から、南（N-26°-W）に向かって延びていた。長さ2.9m・幅0.2m・深さ0.06mと短くとも狭く浅かった。

第33号溝（第643図）

L-13グリッドに確認した。

第38号掘立柱建物跡の中央付近に位置し、北東（N-30°-E）に向かって延びていた。長さ3.5m・幅0.2m・深さ0.06mととも狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第150号土壇より古かった。

第34号溝（第643図）

L-13グリッドに確認した。

第38号掘立柱建物跡の第4号柱穴の西側から、北(N-14°-W)に向かって延びていた。長さ8.6m・幅0.3m・深さ0.03mととても狭く浅かった。

第38号掘立柱建物跡の梁行と接しつつ平行していた。

遺構の切り合い関係は、第402号土壌より新しかった。

第35号溝（第643図）

J-14、K-14・15グリッドに確認した。

第35号掘立柱建物跡の南東隅から南(N-40°-W)に向かって延びていた。長さ6.9m・幅0.5m・深さ0.05mと狭くとても浅かった。

遺構の切り合い関係は、第430・475号土壌より新しかった。

第36号溝（第643図）

L-14グリッドに確認した。

第38号掘立柱建物跡の第1号柱穴の東側から、北(N-8°-W)に向かって延びていた。長さ5.0m・幅0.3、深さ0.05mととても狭く浅かった。

第38号掘立柱建物跡の梁行と接しつつ平行していた。

1は、土師器の坏AⅥである。底部が欠損している。

第37号溝（第643図）

I-15グリッドに確認した。

第155号住居跡と大半が重複し、覆土も類似し、確認に手間取った。

第155号住居跡中央から北(N-10°-W)に向かって延び、調査区外に続いていた。長さ3.9m・幅0.5m・深さ0.14mと狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第155号住居跡より新しかった。

1は、土師器の坏AⅥである。2は、土師器の坏Bである。1・2は底部が欠損している。

第38号溝（第643図）

L-15・16グリッドに確認した。

周辺の遺構は疎らだったが、砂利層が確認面のため、確認作業は困難であった。

第24号区画溝の南側に位置し、東(N-70°-E)に向かって延びていた。長さ5.4m・幅0.4、深さ0.08mと短く狭くとても浅かった。

第23・24号区画溝と平行していた。

1は、須恵器(S)の皿である。

第39号溝（第643図）

N・O-16グリッドに確認した。

周辺の遺構は疎らだったが、砂利層が確認面であり、確認作業は困難であった。

第25号区画溝の西端付近に位置し、南(N-1°-W)に向かって延び、南端は、第526・527号土壌に破

第515表 第36号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏 A Ⅵ	H	10.7	3.4		4.9	B, D, H	普通		黄 白	40	

第516表 第37号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	坏 A Ⅵ	H	12.7	3.6		5.8	B, E, H	普通		黄 橙	30	
2	坏 B	H	13.0	4.0		6.7	B, E, H	普通		暗 橙	40	砂

壊されていた。長さ8.6m・幅0.5m・深さ0.18mと狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第526・527号土壙より古く、第25号区画溝より新しかった。

第40号溝（第643図）

P・Q-16・17グリッドに確認した。

第43号掘立柱建物跡の身舎の第1号柱穴から、北(N-4°-W)に向かって延びていた。二本の溝が接した形状で、長さ6.7m・幅1.8m・深さ0.17mとやや広く浅かった。

第43号掘立柱建物跡の身舎の柱筋に並ぶ柱穴を結ぶように位置していた。

第41号溝（第644図）

P-13、Q・R-14、S-14・15、T-15・16、U-16グリッドに確認した。

第22号区画溝から南東(N-28°-W)に向かって延びていた。掘り込みの浅い部分があり、一部途切れていたが、長さ63.0m・幅0.4m・深さ0.28mと狭く浅かった。

遺構の切り合い関係は、第172号住居跡、第494・495号土壙より古く、第129号住居跡、第22号区画溝よ

り新しかった。

1は、灰釉陶器の高台付皿である。底部のみである。

第42号溝（第643図）

S-30・31、T-29・30グリッドに確認した。

調査区東端の第33号区画溝に接し、東(N-65°-E)に向かって延びていた。西端は、第258号住居跡により破壊されていた。

長さ19m・幅0.2m・深さ0.07mと狭く浅かった。

第33号区画溝と平行し、東端は第32号区画溝の南端まで延びていた。

集石列（第647図）

P・Q・R・S・T-20グリッドで確認した。

重機による表土除去作業中、遺跡全体を覆う火山灰混じりの黒色土中に、一部途切れながら長さ41.9m・幅0.19m・高さ0.4m検出した。

第194・202～207号住居跡、第631号土壙より新しく、これらの遺構埋没後に造られていた。遺構の切り合い関係や覆土の状況から、中世の遺構の可能性も捨てきれないが、第28号区画溝の南北溝、第55・58号掘立柱建物跡の棟行と平行していたことから、古代の区画と関連した遺構と判断した。

第517表 第38号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	皿	S	12.7	2.5		5.6	B	良好		灰	70	M-15

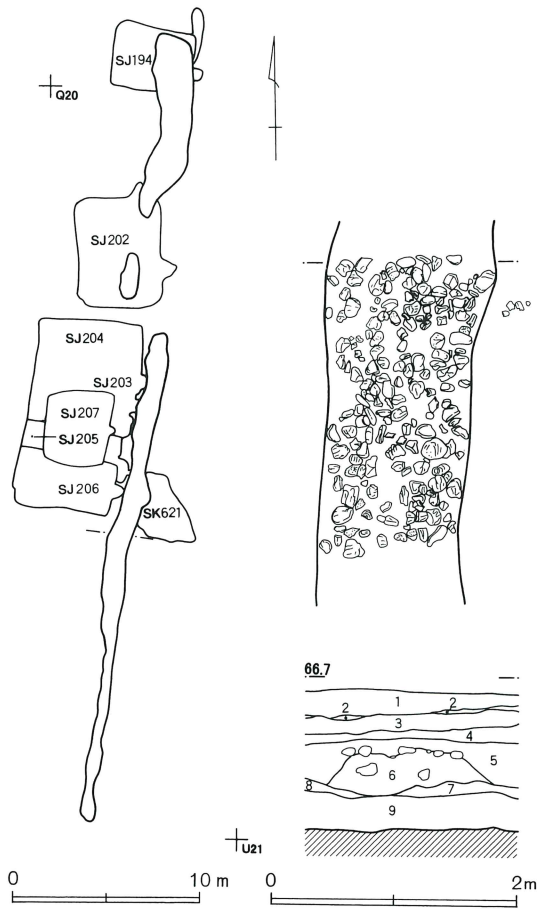
第518表 第41号溝出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	高台付皿	K				8.0	B	良好		灰白	10	P-13-2

第519表 集石列出土遺物観察表

番号	器種	種別	口径	器高	鏝	底径	胎土	焼成	轆轤	色調	残存	出土位置その他
1	段皿	K	18.1				B	良好		灰白	10	

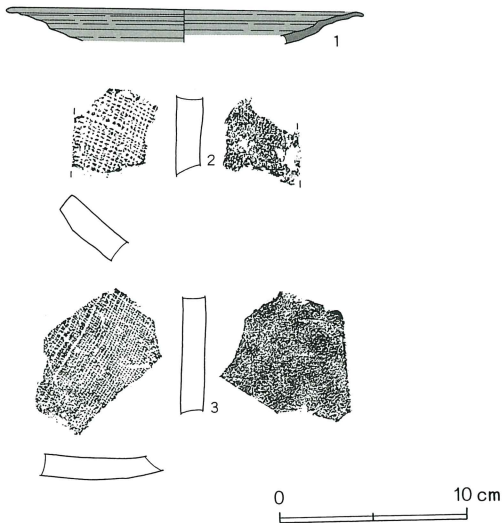
第647図 集石列・出土遺物



集石列

- 1 褐色土 表土
- 2 暗褐色土 石片を多量に含む(表土)
- 3 灰黄褐色土 A軽石を少量含む(水田耕作土)
- 4 暗褐色土 A軽石を微量含む(鉄分沈着層)
- 5 黄褐色土 焼土粒子を少量含む
- 6 黒褐色土 焼土粒子、B軽石、砂利を少量含む
- 7 黒褐色土 焼土粒子を少量含む、B軽石を多量に含む
- 8 黒褐色土 焼土粒子を多量に含む、B軽石を層状に含む
- 9 暗褐色土 焼土粒子、砂利を多量に含む

SC1



第520表 集石列出土瓦観察表

番号	種類	焼成	凸面	凹面	側面
2	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	1面面取り
3	平瓦	酸化炎	刷り消し	布	-

(5) 柵列・道路跡・橋状遺構

中堀遺跡では、前章にあげた区画施設の他に、柵列・道路跡・橋状遺構等の施設を検出することができた。その遺構数は、柵列23列、道路状遺構2条、橋状遺構1本である。

柵列は、調査区の全域から確認することができたが、区画全体に及ぶ例はなく、部分的な柱列として確認しに留まった。また柵列とするよりも、建物の目隠し堀的な小規模な柱列も存在した。

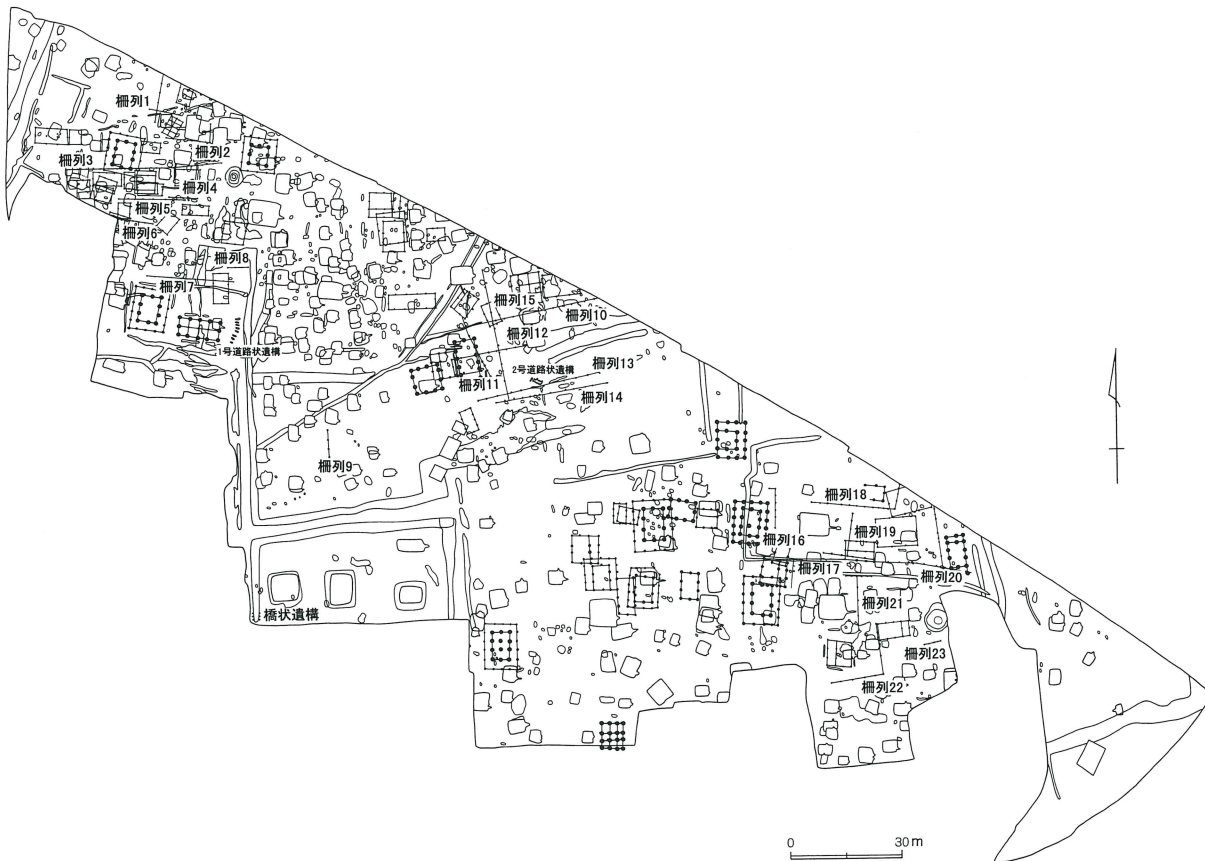
ここで道路状遺構とした遺構は、路面の痕跡とされる波板状の圧痕が残る部分のみを取り上げ、区画溝の片側や挟まれた部分については、取り上げなかった。

遺跡内で道路と推定できる部分については、後述することとする。

また橋状遺構が、第12号区画溝内に1ヶ所確認できた。橋脚を据えた栗石が、区画溝の溝底に確認できた。遺跡内を通る道が、区画溝等の低い場所をわたる際には、橋が架けられたと推定できるが、橋脚を伴った橋を確認できたのは、1ヶ所だけであった。

柵列・道路跡・橋状遺構から出土した遺物は、遺構の性格もありきわめて少なく、わずかに土器片が出土した程度であった。

第648図 柵列・道路跡・橋状遺構全体図



第1号柵列跡（第649図）

C-5・D-5・E-5・6グリッドで確認した。

第5・6号掘立柱建物跡の西側に位置した。平面形は十字状で、南北方向はN-10°-E、長さ10.5m。東西方向はN-93°-E、長さ7.9mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.3m~0.5m・深さ0.1m~0.54mであった。

南北方向柱筋が、第3・4号掘立柱建物跡の棟方向および第31号住居跡の長軸方向に平行し、東西方向柱筋が第3・4号掘立柱建物跡の桁方向、第2号柵列跡の東西方向柱筋と平行していた。

第2号柵列跡（第649図）

E-5・6グリッドで確認した。

第6号掘立柱建物跡の南側から東に向かって伸び、第4号柱穴で小さく北に曲がる。平面形はL字状で、南北方向はN-2°-E、長さ5m。東西方向はN-97°-E、長さ11.9mであった。

柱穴の平面形は円形で、規模は径0.2m~0.5m・深さ0.12m~0.46mであった。

南北方向柱筋が、第3・4号掘立柱建物跡の棟方向および第31号住居跡の長軸方向に平行し、東西方向柱筋が第3・4号掘立柱建物跡の桁方向、第1号柵列跡の東西方向柱筋と平行していた。

第3号柵列跡（第650図）

F-3・4・5・6・7・G-3グリッドで確認した。

第1号井戸の北西付近から西に向かって伸び、第8・9号柱穴および第18号柱穴で小さく曲がる。平面形はL字状で、東西方向はN-87°-E、長さ40.8m。南北方向はN-2°-W、長さ2.1mであった。第1号柱穴からさらに南に向かって、調査区外に伸びる可能性もある。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、第5号柱穴が方形であった。規模は径0.15m~0.65mで、深さ0.13m~0.42mであった。

東西方向柱筋は、南に位置した第9・10・12・13・14・18号掘立柱建物跡の柱筋、第4・5号柵列跡とはほぼ平行していたことから、これらの建物群を区画する施設であったと思われる。

第3号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明であった。

第4号柵列跡（第649図）

G-5・6グリッドで確認した。

第10号掘立柱建物跡の東側から東に向かって（N-86°-E）伸びている。長さは7.4mと短い。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.15m~0.45m・深さ0.11m~0.4mであった。

第3号柵列跡の東西方向柱筋、第5号柵列跡と平行していた。

第5号柵列跡（第649図）

G-4・5・6グリッドで確認した。

第20号掘立柱建物跡の北側から東に向かって（N-93°-E）伸び、第4号柱穴で南に小さく曲がる。長さは15.2mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.13m~0.4m・深さ0.16m~0.4mであった。

第20号掘立柱建物跡の桁方向、第25号掘立柱建物跡の棟方向、第3号柵列跡の東西方向柱筋、第4号柵列跡と平行していた。

第6号柵列跡（第649図）

G-4・5グリッドで確認した。

第22号掘立柱建物跡の北側柱筋を延長するように、東に向かって（N-98°-E）伸びる。長さは8.2mと短い。

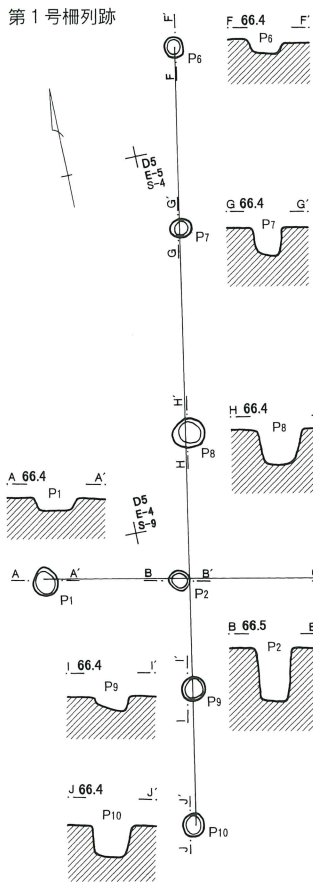
柱穴の平面形は円形で、規模は径0.15m~0.4m・深さ0.17m~0.42mであった。

第7号柵列跡（第650図）

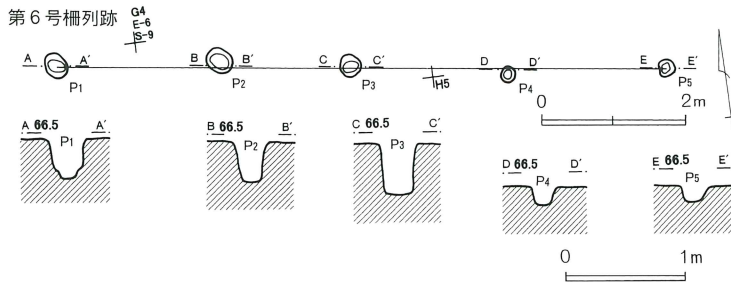
I-5・6・7グリッドで確認した。

第649图 栅列迹 (1)

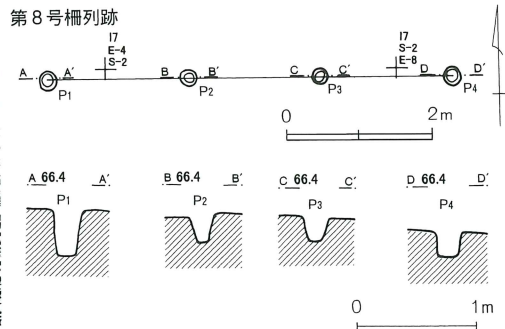
第1号栅列迹



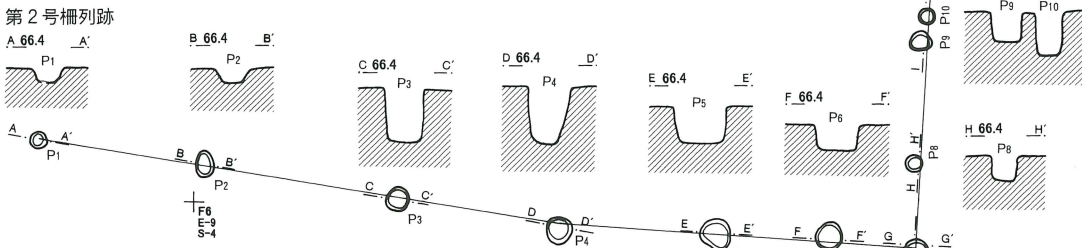
第6号栅列迹



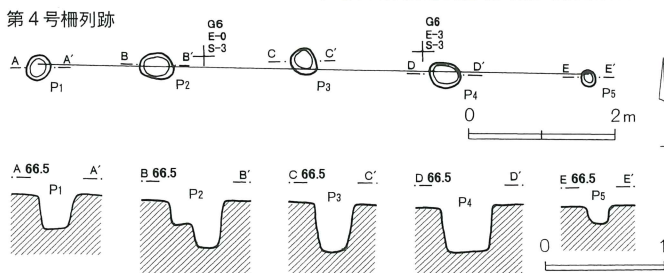
第8号栅列迹



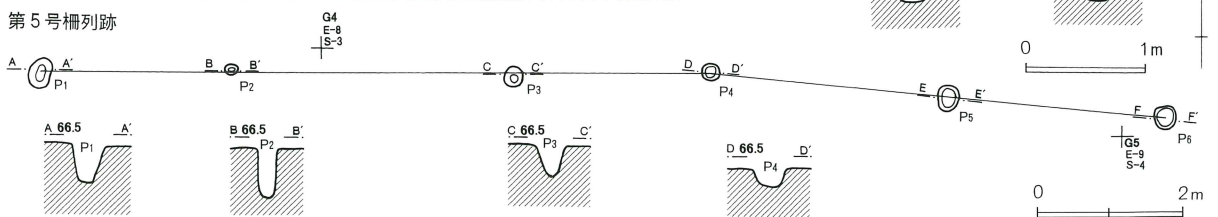
第2号栅列迹



第4号栅列迹

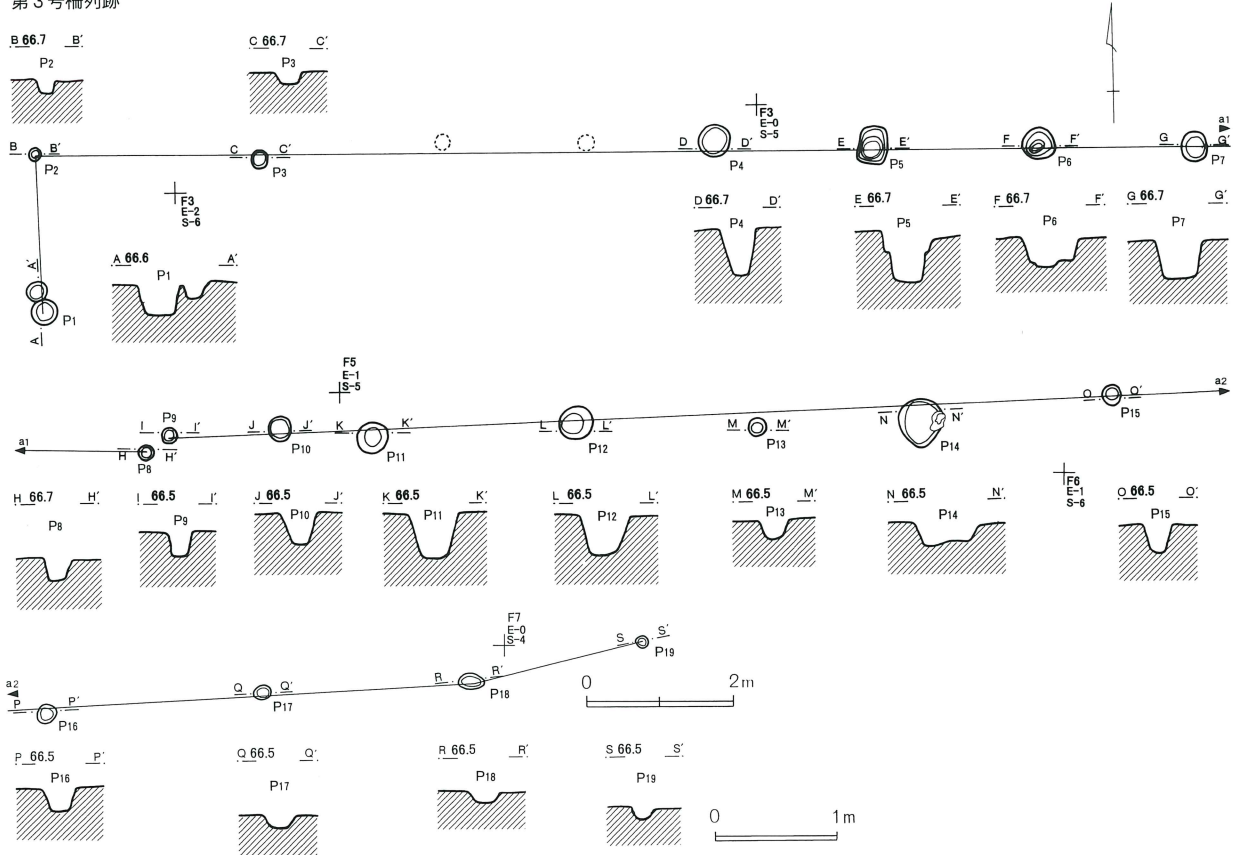


第5号栅列迹

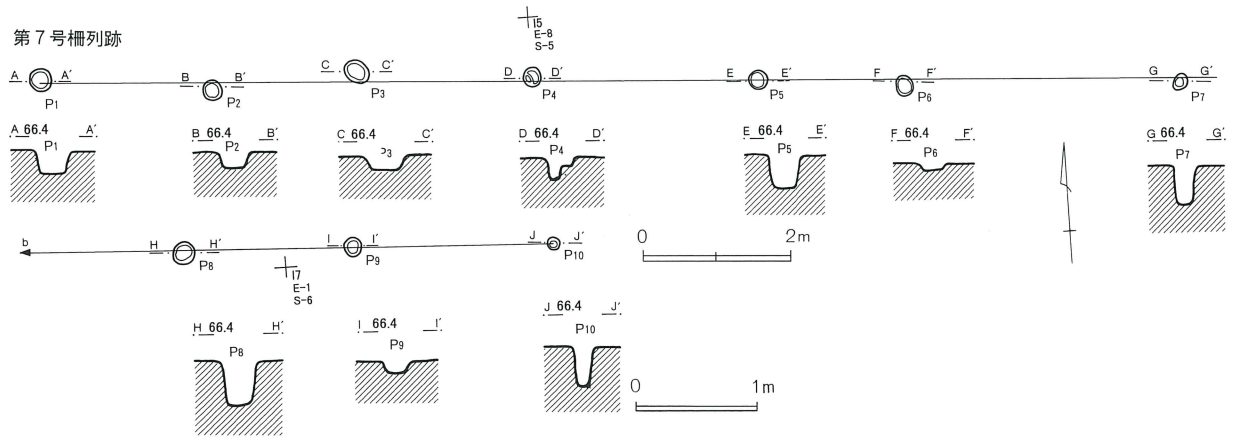


第650图 栅列迹 (2)

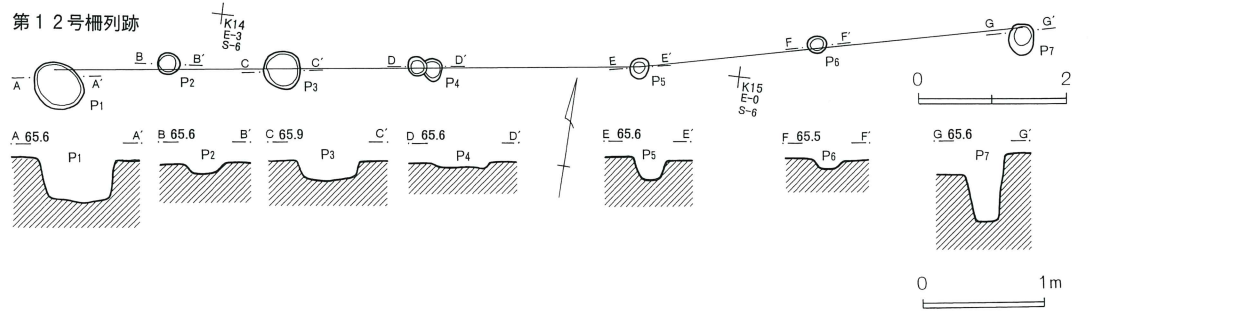
第3号栅列迹



第7号栅列迹



第12号栅列迹



第1・2号掘立柱建物跡の北側から、東に向かって（N-93°-E）延び、第12号区画溝の手前まで続く。長さは22.7mであった。

柱穴の平面形は円形で、規模は径0.2m～0.35m・深さ0.04m～0.38mであった。

第1号掘立柱建物跡の桁方向、第2号掘立柱建物跡の棟方向、第20号溝と平行していたことから、これらの遺構を区画する施設であったと思われる。

第8号柵列跡（第649図）

I-7グリッドで確認した。

第27号掘立柱建物跡の北西隅付近から、東に向かって（N-91°-E）延び、第12号区画溝の手前まで続く。長さは5.5mと短い。

柱穴の平面形は円形で、規模は0.2m～0.3m・深さ0.19m～0.38mであった。

第27号掘立柱建物跡の桁方向と平行していた。

第9号柵列跡（第651図）

M-9・N-9・10グリッドで確認した。

第118号住居跡の南側から、南に向かって（N-2°-W）延びる。長さは6.5mと短い。

柱穴の平面形は円形で、規模は0.4m～0.55m・深さ0.25m～0.35mであった。

第10号柵列跡（第652図）

J-12・13・14・15・16・17・K-12グリッドで確認した。

第19号区画溝と第31号溝の交点付近から、北東に向かって（N-77°-E）延び、調査区外に続くと思われる。長さ46.6mと長い。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.15m～0.7m・深さ0.07m～0.29mであった。

第37号掘立柱建物跡の棟方向、第38号掘立柱建物跡の桁方向、第20・21・23・24号区画溝、第31号溝、第12・13・14号柵列跡と平行し、第15号柵列跡と直交する。また、第11号柵列跡と斜めに交わる。

第11号柵列跡（第651図）

J-13・K-13・14・L-14グリッドで確認した。

第34号掘立柱建物跡の南東隅から南に向かって（N-25°-W）延び、第3号柱穴で小さく東に曲がる。長さは17.4mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.35m～0.7m・深さ0.05m～0.45mであった。

第10・12号柵列跡と斜めに交わる。その他、第38号掘立柱建物跡と重複関係にあり、第38号掘立柱建物跡より古かった。

第12号柵列跡（第650図）

K-14・15グリッドで確認した。

第23号区画溝の西端から西に向かって（N-79°-E）延び、第5号柱穴で小さく北に曲がる。長さは12.9mであった。

柱穴の形状は円形で、規模は径0.2m～0.72m・深さ0.07m～0.47mであった。

第20・21・23・24号区画溝、第10・13・14号柵列跡と平行し、第15号柵列跡と直交する。また、第11号柵列跡と斜めに交わる。

遺構の切り合い関係は、第38号掘立柱建物跡より新しかった。

第13号柵列跡（第652図）

L-14・15・16・17グリッドで確認した。

第38号掘立柱建物跡の南東隅付近から、東に向かって（N-77°-E）延び、第5・7・8号柱穴で蛇行するように小さく曲がる。長さは29.1mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.15m～0.45m・深さ0.12m～0.39mであった。

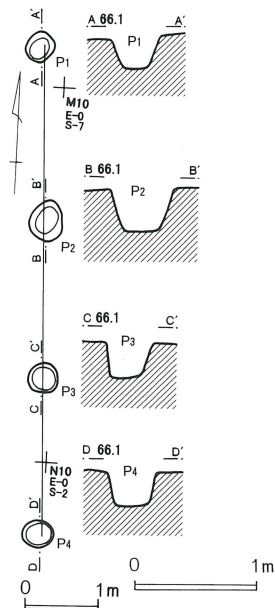
第38号掘立柱建物跡の桁方向、第20・21・23・24号区画溝、第31・38号溝、第10・12・14号柵列跡と平行し、第15号柵列跡と直交する。

第14号柵列跡（第652図）

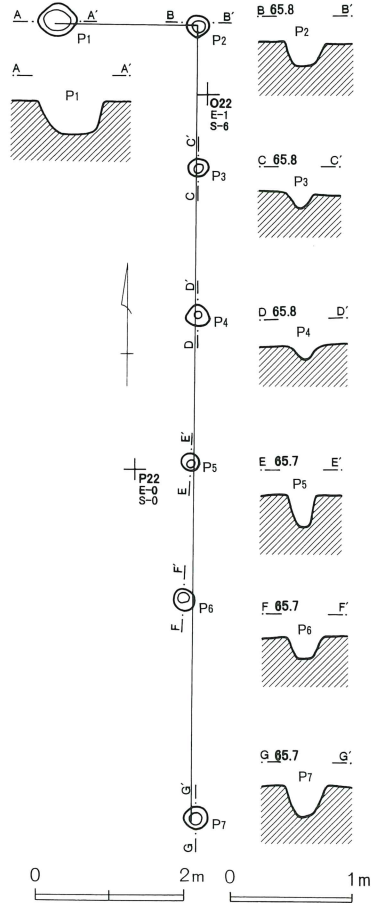
L-14・15・16・17グリッドで確認した。

第 651 图 栅列迹 (3)

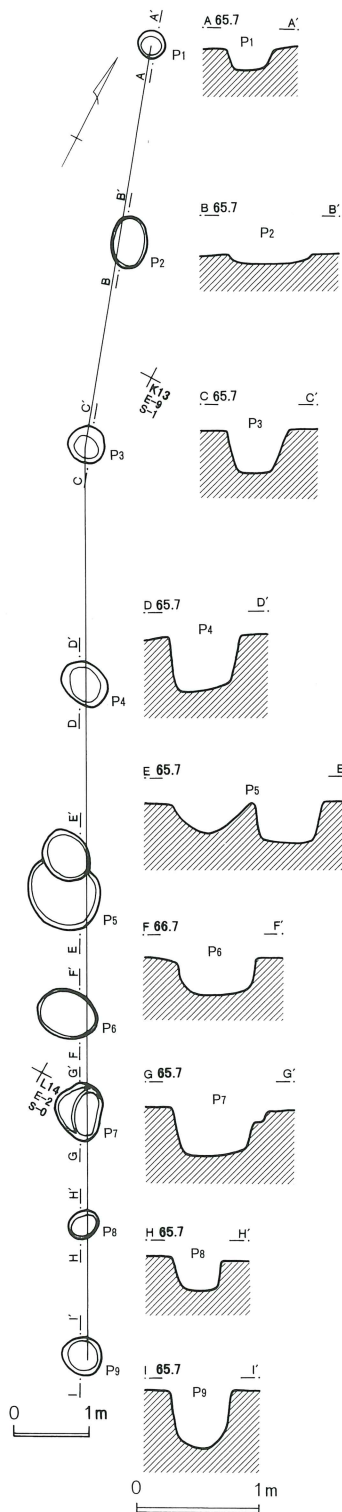
第 9 号栅列迹



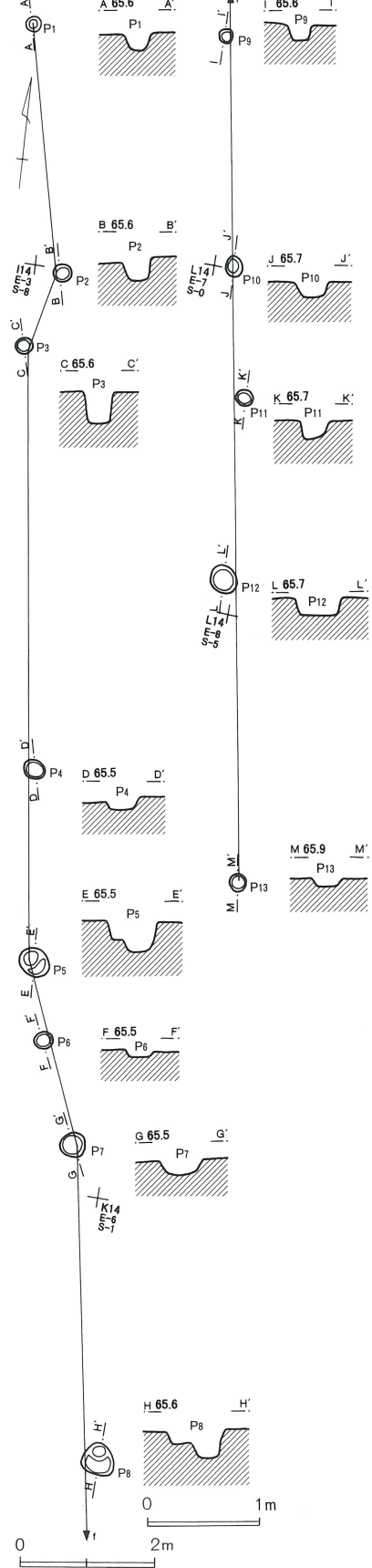
第 1 6 号栅列迹



第 1 1 号栅列迹

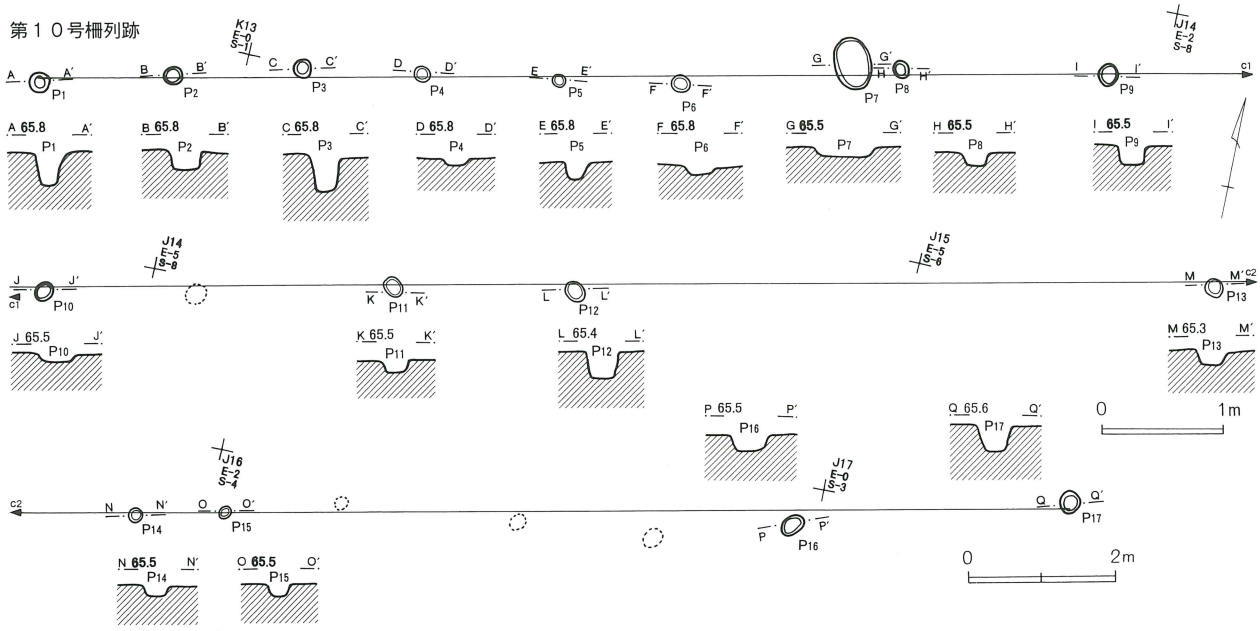


第 1 5 号栅列迹

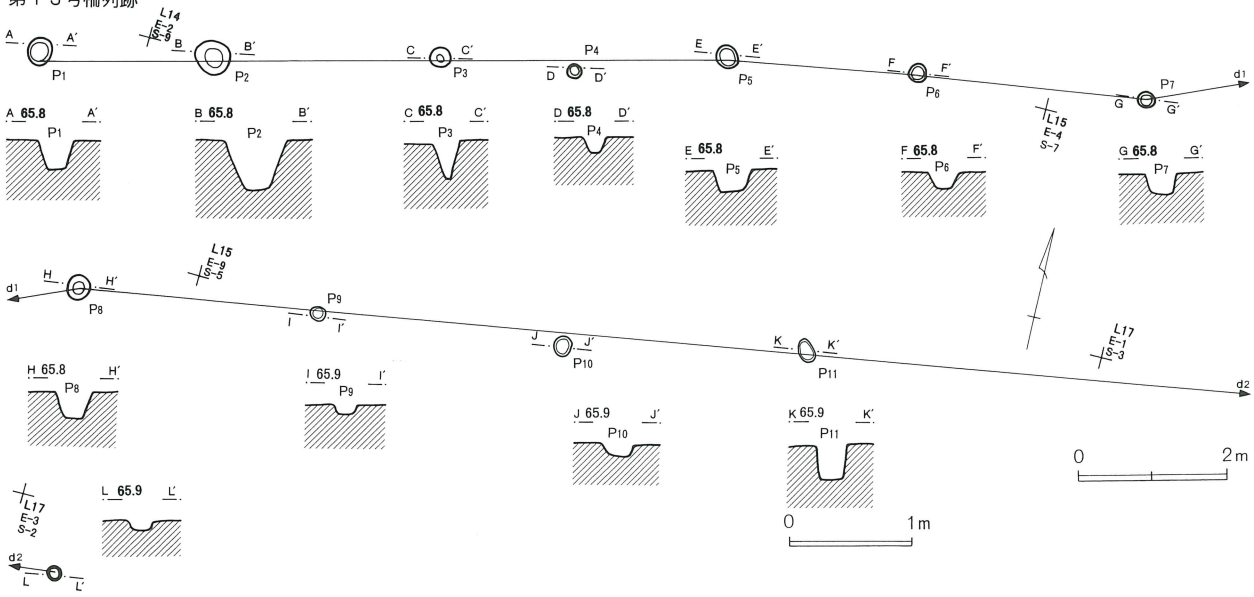


第652图 栅列迹 (4)

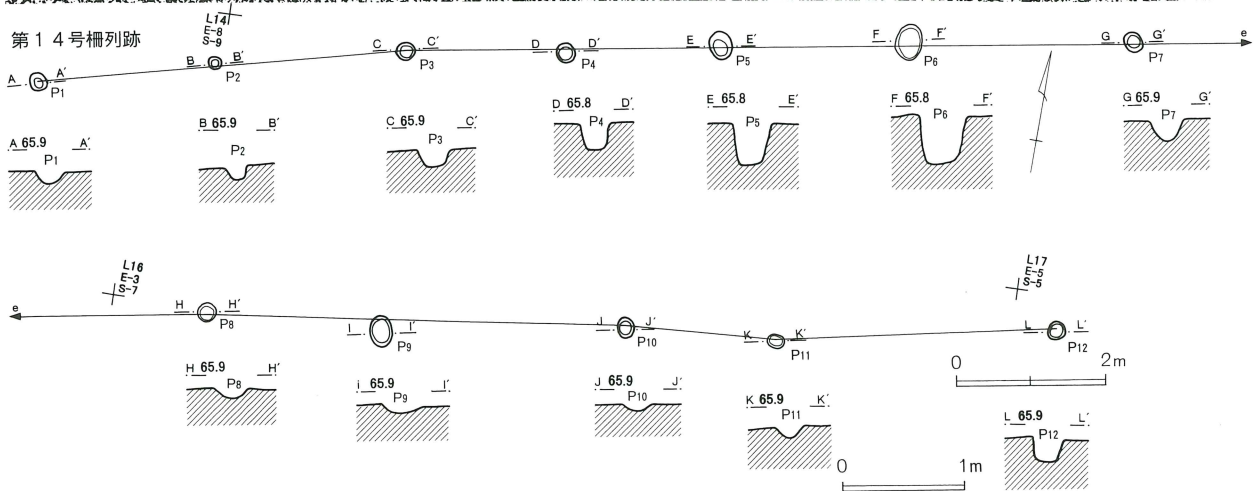
第10号栅列迹



第13号栅列迹

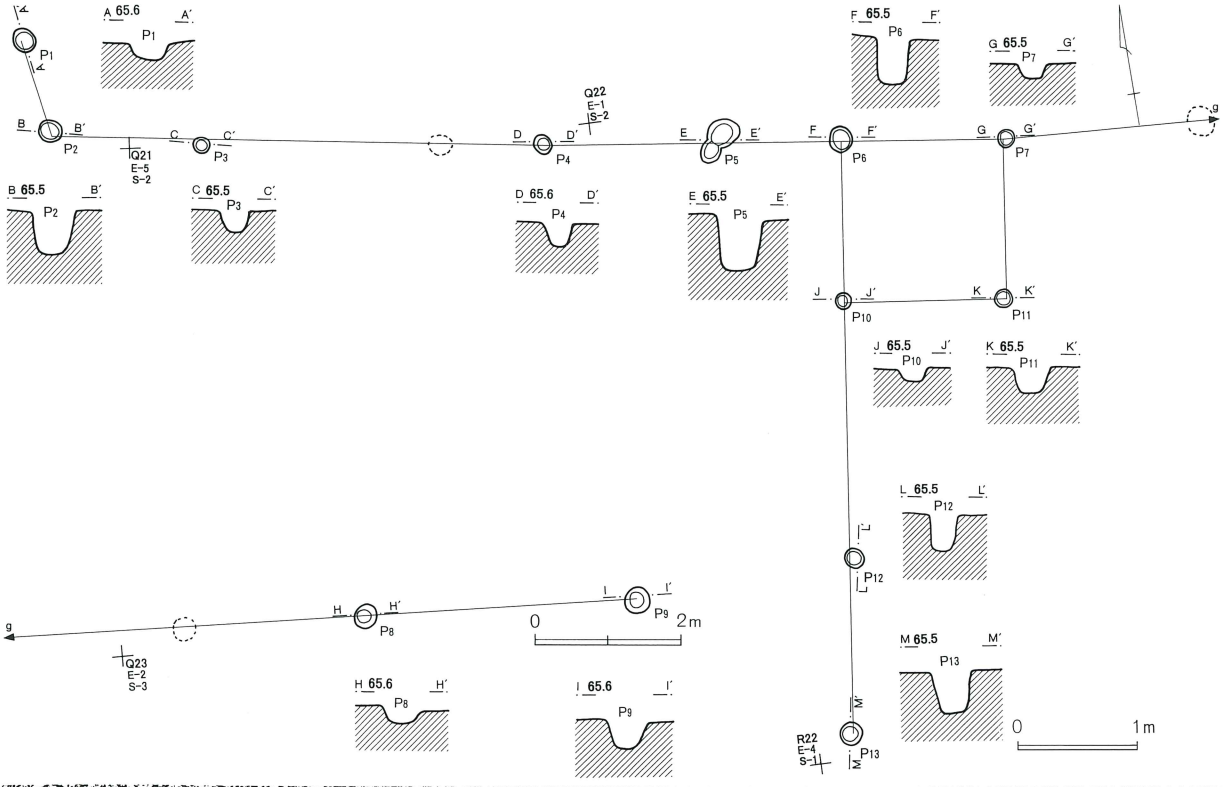


第14号栅列迹

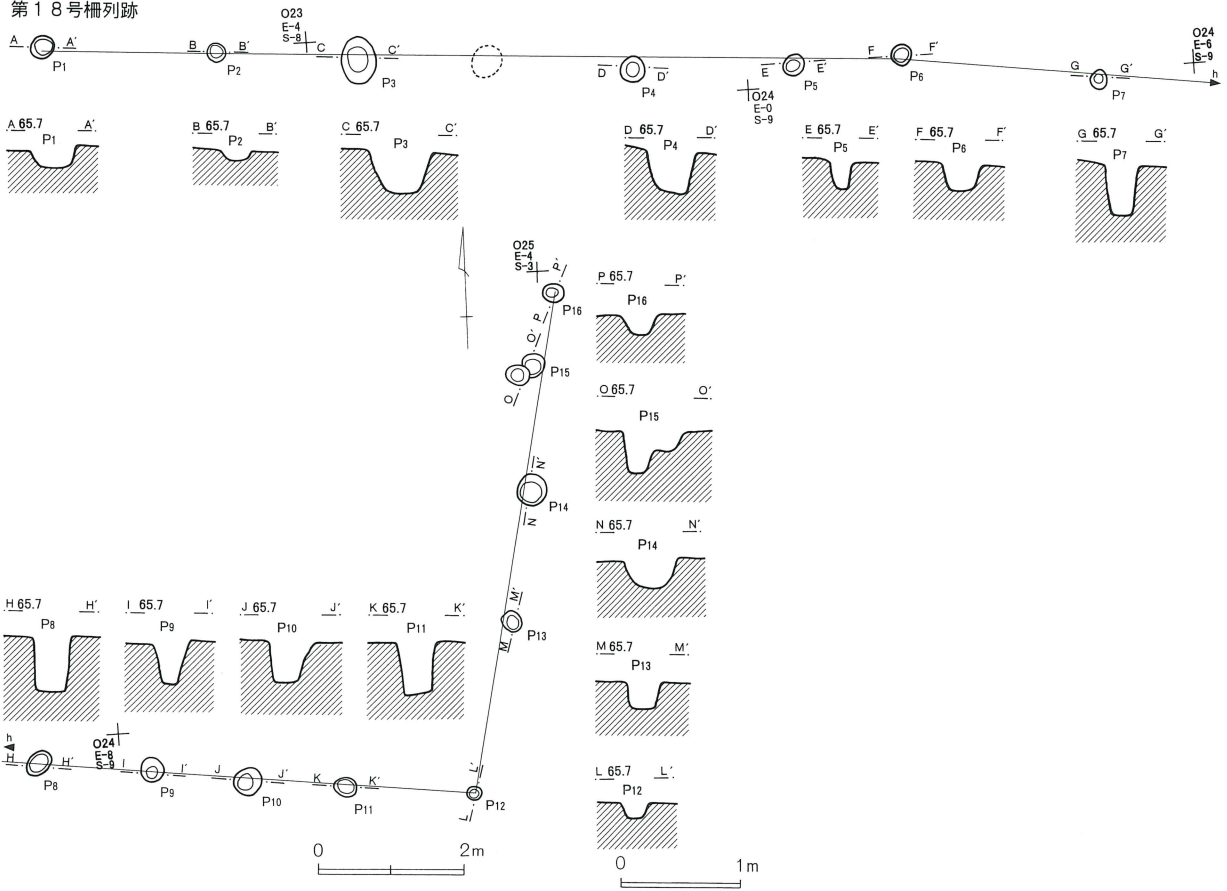


第653图 栅列迹 (5)

第17号栅列迹



第18号栅列迹



第39号掘立柱建物跡の東側から、東に向かって（N-80°-E）延びる。長さは28mmであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.15m～0.45m・深さ0.09m～0.38mであった。

第20・21・23・24号区画溝、第38号溝、第10・12・13号柵列跡と平行し、第2号柱穴と3号柱穴の間から第15号柵列跡が、北に向かってほぼ垂直に延びる。

第15号柵列跡（第651図）

I-14・J-14・K-14・L-14グリッドで確認した。

第14号柵列跡の第2号柱穴と3号柱穴の間から、北に向かって（N-12°-W）延び、第2・3・5・7柱穴で小さく曲がる。長さは35mであった。

柱穴の平面形は円形で、規模は径0.2m～0.5m・深さ0.05m～0.29mであった。

第38号掘立柱建物跡の棟方向と平行し、第10・12・13・14号柵列跡と直交する。

第16号柵列跡（第651図）

O-21・22・P-22グリッドで確認した。

第55号掘立柱建物跡の西側に位置し、平面形はL字状であった。南北方向はN-0°-E、長さ10.5mで、東西方向N-90°-E、長さ1.9mであった。

柱穴の平面形は円形で、規模は径0.22m～0.5m・深さ0.12m～0.33mであった。

第28号区画溝の南北方向と平行していた。また、第55号掘立柱建物跡の棟方向よりやや西に振れるが、位置関係から、第55号掘立柱建物跡と関連する遺構であると思われる。

第17号柵列跡（第653図）

Q-21・22・23・R-22グリッドで確認した。

第55号掘立柱建物跡の南側から、第28号区画溝の北壁に沿うように、東に向かって（N-94°-E）延び、第62号掘立柱建物跡の南西隅（第4号柱穴）につながる。

西端は北に向かって（N-8°-W）、長さ2.2mほど短く曲がる。東西方向は長さ24.4mで、第6号柱穴から南に向かって（N-8°-E）、ほぼ垂直に、長さ8mほど延びる。

また、第6・7・10・11号柱穴を結ぶように、1辺2.2mの方形区画を造る。

柱穴の平面形は円形で、規模は0.2m～0.4m・深さ0.13m～0.44mであった。

第62号掘立柱建物跡の南面柱筋につながり、その延長線上に第20号柵列跡が続く。また第28号区画溝の東西方向、第29号区画溝、第18号柵列跡の東西方向と平行していた。

第217号住居跡、第56号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明であった。

第18号柵列跡（第653図）

O-23・24・25グリッドで確認した。

第217号住居跡の北側から、東に向かって延び、第6号柱穴で南に小さく曲がり、第12号柱穴で北にほぼ直角に曲がる。平面形はL字状で、東西方向はN-95°-E、長さ22.3m。南北方向はN-10°-E、長さ6.8mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.2m～0.41m・深さ0.07m～0.42mであった。

東西方向柱筋は、第59号掘立柱建物跡の棟方向、第17号柵列跡の東西方向柱筋、第28号区画溝の東西方向、第29号区画溝と平行していた。

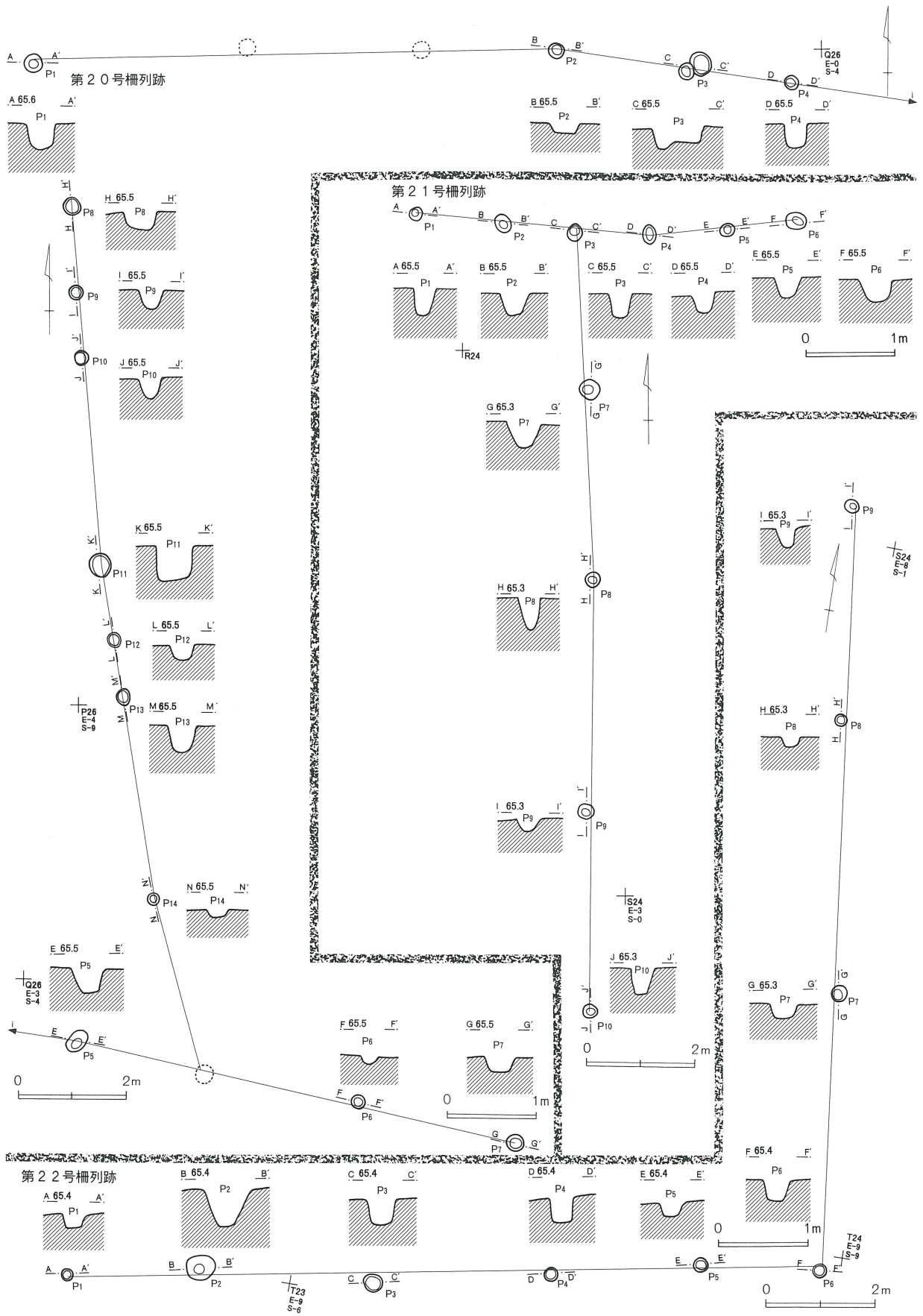
第19号柵列跡（第655図）

P-24・Q-23・24グリッドで確認した。

第18号柵列跡の6号柱穴の南から、南に向かって延び、第3・5号柱穴で小さく曲がり、第28号区画溝の手前で東西に分かれる。平面形はT字状で、南北方向はN-7°-E、長さ11.3m。東西方向はN-96°-E、長さ13.6mであった。

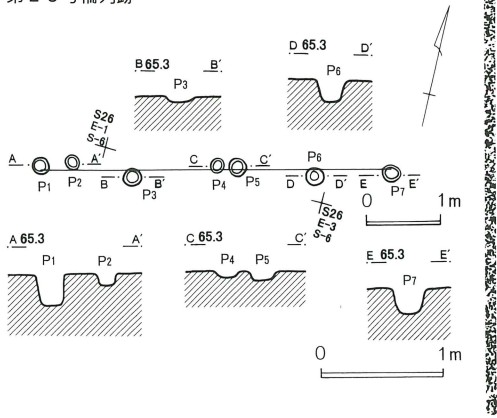
柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.35m～0.9m・深さ0.16mから0.39mであった。

第 654 图 栅列迹 (6)

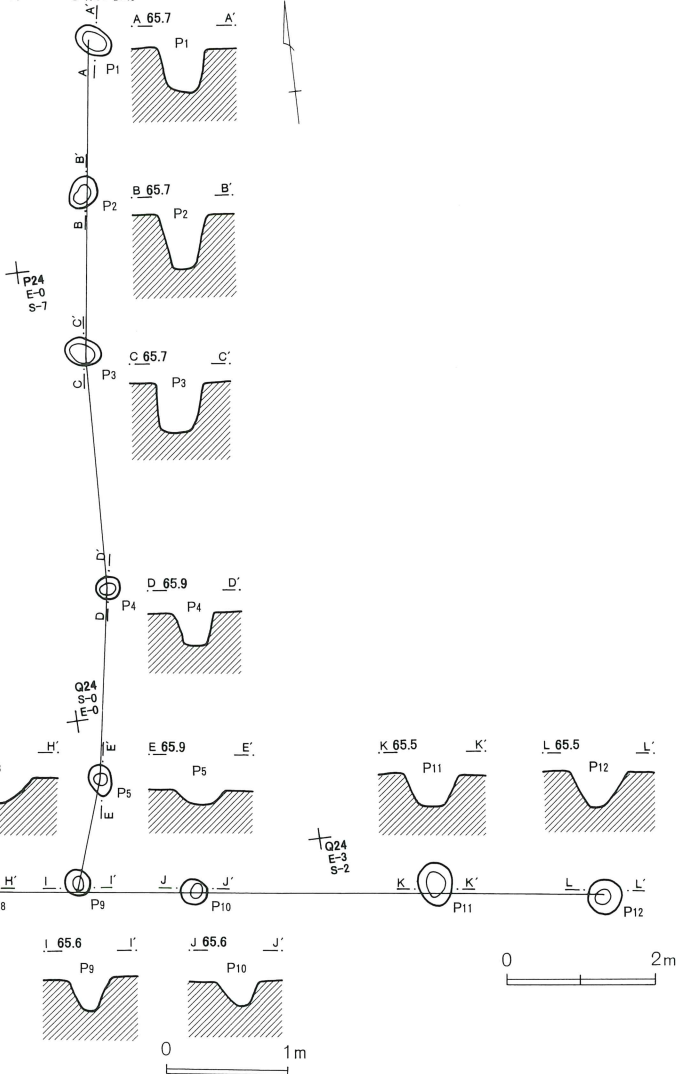


第655図 柵列跡 (7)

第23号柵列跡



第19号柵列跡



南北方向柱筋が、第18号柵列跡の南北方向柱筋と平行していた。

第62号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明であった。

第20号柵列跡 (第654図)

O-26・P-26・Q-24・25・26・27グリッドで確認した。

第62号掘立柱建物跡の第1号柱穴から東に向かって伸び、第2号柱穴で南に小さく曲がる。さらに第5号柱穴と第6号柱穴の間から、北に向かって伸びる。平

面形はT字状で、東西方向はN-95°-E、長さ23.4 m。南北方向はN-8°-W、長さ15.9 mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.21 m~0.45 m・深さ0.09 m~0.38 mであった。

東西方向柱筋は、第62号掘立柱建物跡の南面柱筋につながり、西側の延長線上に第17号柵列跡が続くほか、第29号区画溝と平行していた。また、南北方向柱筋は、第30・31号区画溝、第65号掘立柱建物跡の棟方向と平行していた。

第65号掘立柱建物跡と重複関係にあるが、新旧関係は不明であった。

第21号柵列跡 (第654図)

Q-23・Q-24・R-24・S-24グリッドで確認した。

第29号区画溝の南壁に沿って短く延び、第4号柱穴で北に小さく曲がる。さらに第3号柱穴から南に向かって延びる。平面形はT字状で、東西方向はN-92°-E、長さ6.9m。南北方向はN-1°-W、長さ14.1mであった。

柱穴の平面形は、円形または楕円形で、規模は径0.22m~0.4m・深さ0.08m~0.4mであった。

東西方向柱筋は、第28号区画溝の東西方向、第29号区画溝と平行していた。

第22号柵列跡 (第654図)

S-24・T-23・24グリッドで確認した。

第64号掘立柱建物跡の北西隅から南に向かって延び、第6号柱穴で、西にほぼ直角に曲がる。平面形は逆L字状で、南北方向はN-7°-W、長さ13.7m。東西方向はN-80°-E、長さ13.6mであった。

柱穴の平面形は円形で、規模は径0.2m~0.53m・深さ0.1m~0.38mであった。

南北方向柱筋が、第64号掘立柱建物跡の桁方向と平行していた。

第23号柵列跡 (第655図)

S-26グリッドで確認した。

第3号井戸の南側に位置した。東西方向(N-77°-E)に延びる。長さは4.6mと短い。柱穴間の距離が短く、長さに比べて密であった。

柱穴の平面形は円形で、規模は径0.15m~0.28m・深さ0.05m~0.27mであった。

第64号掘立柱建物跡の棟方向、第22号柵列跡の東西方向柱筋と平行していた。

第1号道路状遺構 (第656図)

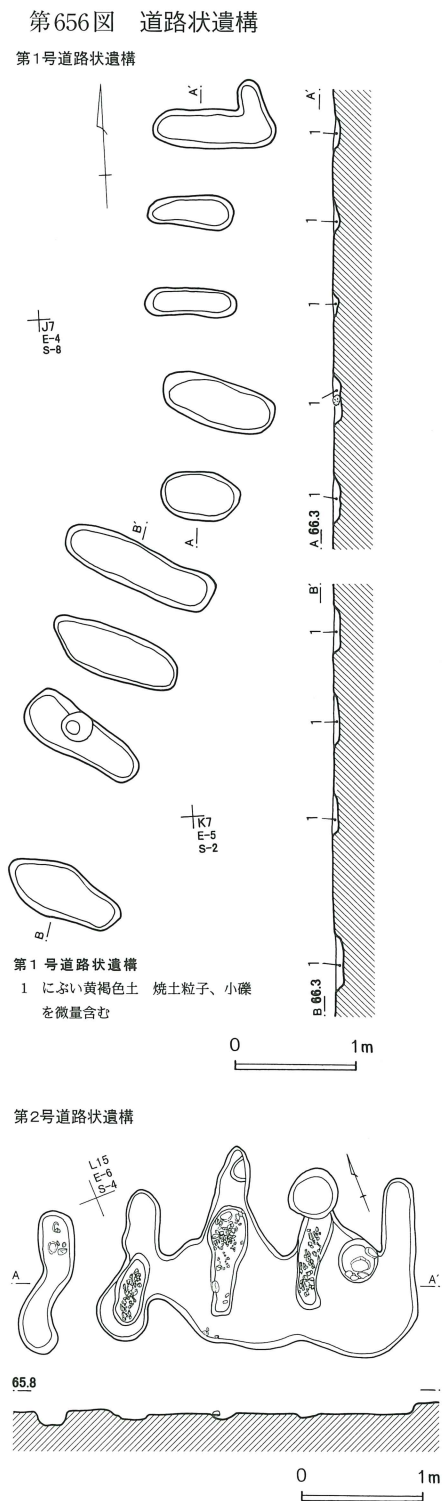
J-7・K-7グリッドで確認した。

第2号掘立柱建物跡と第12号区画溝の間に位置し

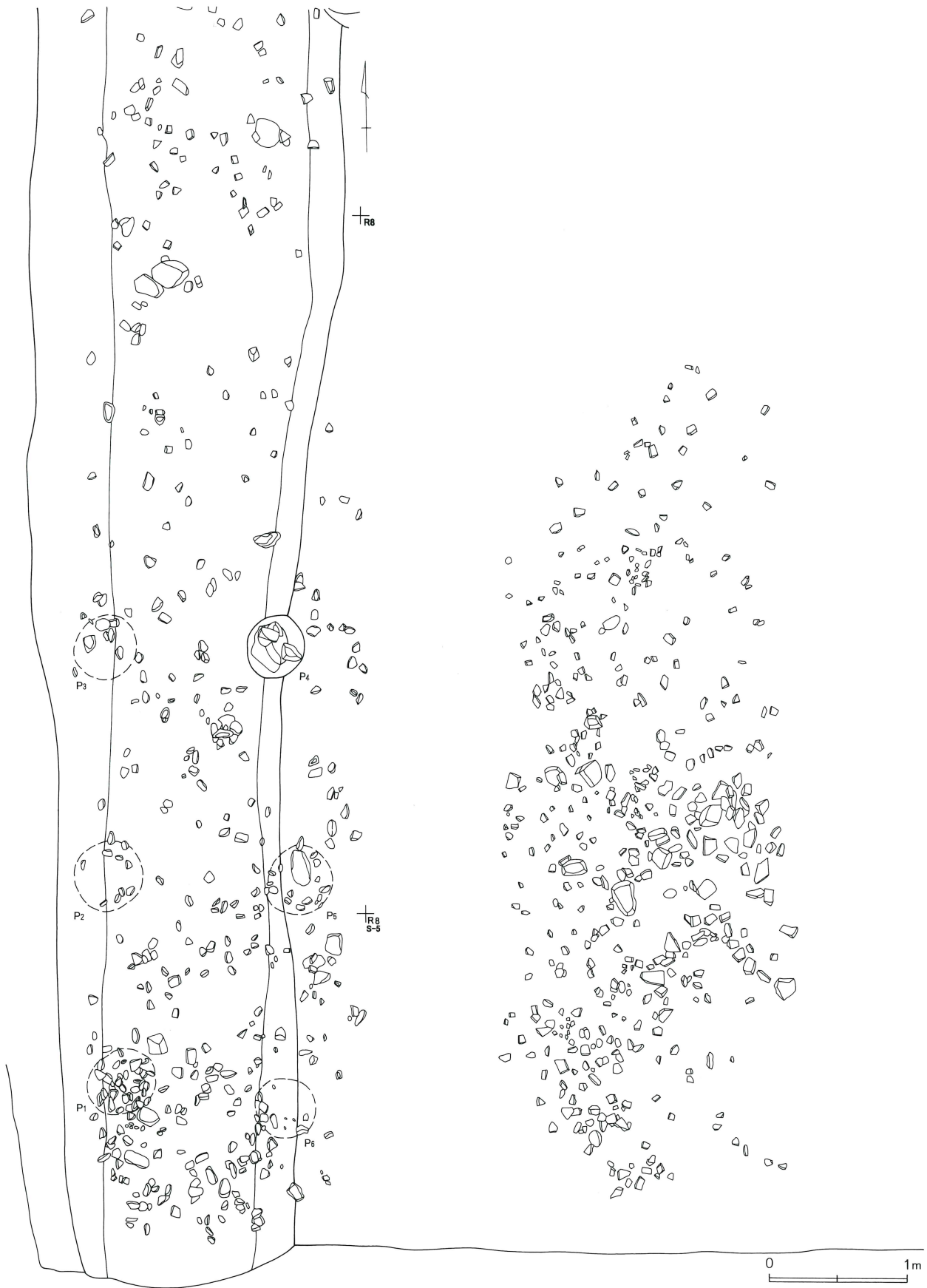
た。周辺は遺構が密で、覆土が地山に類似するため、確認に手間取った。

楕円形の浅い掘り込みが、波板状に検出されたことから道路跡と判断した。

検出された楕円形の掘り込みは9基で、規模は長軸



第657図 橋状遺構



0.52 m～1.25 m・短軸0.21 m～0.46 m・深さ0.05 mであった。

道路は掘り込みの短軸を結ぶ、南北方向に延びていたものと思われるが、北側5基の方向(N-5°-E)と、南側4基の方向(N-24°-E)が20°ほど振れることから、緩く蛇行していた可能性もある。

北側5基の道路方向は第12号区画溝の南北方向と平行し、南側4基の道路方向は第2号掘立柱建物跡の桁方向と平行していた。また、道路状の施設として使用されていたと思われる、第11号区画溝と第12号区画溝の間が、延長線上に位置した。

第2号道路状遺構(第656図)

L-15グリッドで確認した。

周辺は土壌、小穴などの遺構が密で、覆土が地山と類似することから確認に手間取った。

当初、浅い不整形な土壌と考えて調査を始めたが、5 cmほど掘り下げたところ、楕円形の浅い掘り込みが波板状に検出され、覆土に多量の砂利を混入していたことから、道路状遺構と判断した。

検出された楕円形の掘り込みは5基で、規模は長軸

1.14 m～1.57 m・短軸0.21 m～0.6 m・深さ0.03 m～0.1 mであった。

道路は掘り込みの短軸を結ぶ、東西方向(N-111°-E)に延びていたと思われるが、平行していた遺構はみられない。

橋状遺構(第657図)

R-7グリッドで確認した。

第13号区画溝の南端に位置した。

溝の覆土中には川原石が多量に混入していて、当初認識できなかったが、川原石が円形に抜けていたり(P2・3・6)、やや大形の川原石が、根石状に集中している部分(P1・4・5)が、溝の下場に沿って検出されたことから、橋脚であると判断した。

確認した橋脚は6基で、掘り方は検出できなかった。P2・5は橋の貫を支える橋脚と思われる。推定される橋の幅は3.1 mであった。

橋脚間の距離はP1～P2が1.5 m・P2～P3が1.6 m・P4～P5が1.6 m・P5～P6が1.7 m・P1～P6が1.2 m・P2～P5が1.35 m・P3～P4が1.2 mであった。

(6) 土壌

分布について

中堀遺跡では787基の土壌が検出された。土壌の分布は調査区全体にみられるが、調査区北西の第1・2号掘立柱建物跡、第16号区画溝より北側、調査区南西の第29号区画溝より南側でやや密である。

逆に、分布密度が低いのは、第12・16号区画溝により構成される区画内と、1～3号建物地業跡周辺、第22号区画溝の東側である。

特徴的な土壌について

多量に検出された土壌の多くは、遺物が少なく、覆土も1層であるものが多く、性格の不明なものが多い。しかし、注目される土壌もみられる。

調査区北西端に位置する第13・15・19・24号土壌はいずれも円I型（土壌の形状分類については後述）の土壌で、規模も類似する。配置も第24号土壌がやや北

側にずれるが、規則的に東西に並んでいる。時期は遺物が少なく確定できないが、いずれも10世紀代の土壌であり、関連性が伺える。

また、鍛冶炉跡周辺でも特徴的な土壌が検出されている。

Q-7グリッドで確認された第200号土壌は、底面から丸太状の炭化材が多量に出土し、I、J-7グリッドで確認された第204号土壌、I-8グリッドで確認された第214・215号土壌、U-24グリッドで確認された第3土壌群のI土壌は、炭化材は出土していないが、いずれも多量の炭化物を覆土中に含み、覆土は黒褐色で、粘性がみられず砂質の土が主体となる。

特に第200・214・215号土壌は長方IC型で、形態も類似する。また、第3土壌群には他にも、鉄滓や焼土を多量に含む土壌が検出されていて、土壌群の形成

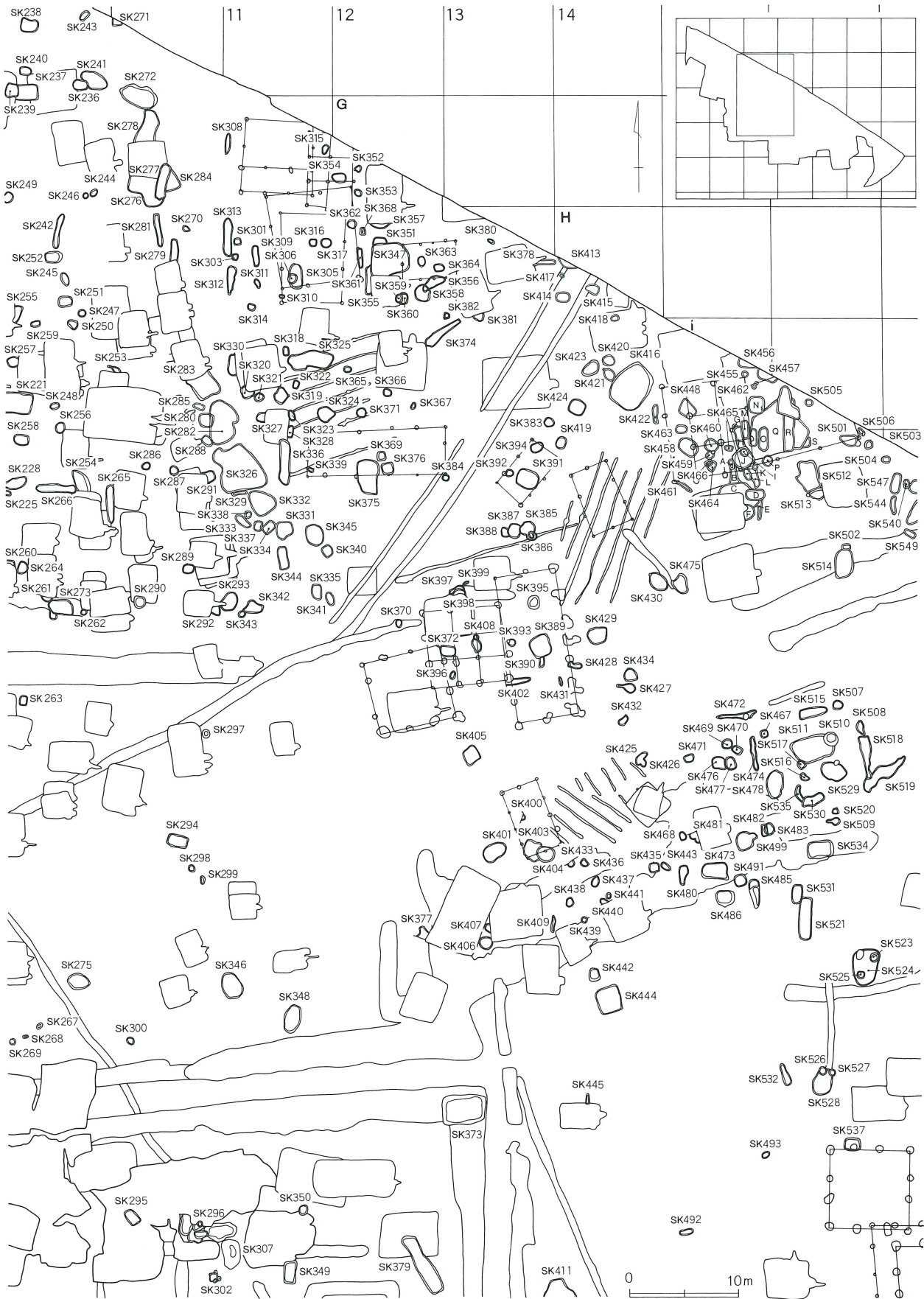
第658図 土壌全体図



第659図 土壌全体図詳細(1)



第660図 土壌全体図詳細(2)



第662図 土壌全体図詳細（4）



第 521 表 土壌一覽表 (第 1 号土壌～第 51 号土壌)

No	グリッド	形 状	長径	短径	深さ	長軸角度	時 期	重複新	重複古	備 考
1	B-1	円 II C	2.18	2.09	0.44	N-12°-E	時期不明			
2	E-1	長方 II A	1.74	0.98	0.04	N-0°-E	時期不明			
3	E-1	楕円 II D	2.01	1.33	0.68	N-20°-E	VII		区画溝 1	
4	E-1/F-1	長方 I B	1.34	0.86	0.30	N-52°-E	10世紀前半	SK8		
5	C-2	方 II C	2.54	2.29	0.55	N-42°-E	10世紀前半			
6	D-2/E-2	長方 II A	1.61	0.83	0.07	N-25°-E	時期不明			
7	D-2/E-2	円 I A	0.41	0.40	0.05	N-20°-E	時期不明			
8	C-2	円 II A	2.43	2.12	0.07	N-0°-E	時期不明		SK5. SD5	
9	C-2	不 明	2.50		0.41	N-15°-E	VII		区画溝 1	
10	D-2	長楕円 II B	1.68	0.57	0.12	N-7°-E	時期不明			
11	E-2	長 方 形		0.95	0.33	N-43°-W	VII	SD1		
12	E-2	長方 I B	1.12	0.55	0.23	N-50°-E	10世紀			
13	F-2	円 I B	1.07	0.95	0.21	N-1°-W	IX			
14	F-2	長方 I A	1.06		0.08	N-0°-E	時期不明			
15	F-2	円 I B	0.98	0.95	0.25	N-1°-W	10世紀			
16	D-3	円 I B	0.54	0.45	0.18	N-62°-W	時期不明			
17	C-4	円 I B	0.88	0.86	0.16	N-90°-E	時期不明			
18	F-3	長方 II A	1.53	1.16	0.05	N-50°-E	時期不明			
19	F-3	円 I C	1.44	1.36	0.38	N-29°-E	10世紀			
20	C-4/D-4	長楕円形		2.07	0.08	N-72°-W	時期不明	SJ22		
21	F-3	長楕円 III B	3.43	0.71	0.20	N-86°-W	時期不明			
22	E-3	長方 II B	2.77	1.45	0.28	N-84°-W	中世			
23	D-4	方 II D	1.75	1.64	1.00	N-55°-W	IV			
24	F-3	円 I C	1.20	1.20	0.44	N-29°-E	10世紀			
25	E-4	楕円 I B	1.27	0.85	0.25	N-77°-W	10世紀前半			
26	E-4	楕円 I B	1.33	0.85	0.12	N-89°-E	時期不明			
27	E-4	楕円 III A	3.03	1.29	0.10	N-24°-E	10世紀前半	SK28		
28	E-4	長方 I B	1.40	0.77	0.23	N-15°-E	時期不明		SK27	
29	F-4	円 I C	1.50	1.43	0.34	N-90°-E	時期不明		SK35	
30	F-4/F-5	楕円 II B	1.90	1.20	0.20	N-83°-E	時期不明		SK31	
31	F-4/F-5	楕円 II A	1.84		0.08	N-85°-E	時期不明	SK30		
32	E-4	不 整 I B	1.24	0.73	0.23	N-62°-W	時期不明			
33	E-4	円 I B	0.84	0.69	0.13	N-23°-E	時期不明			
34	F-4/F-5	長楕円 II B	2.55	1.09	0.25	N-72°-W	VII			
35	F-4	楕円 I B	1.26	0.98	0.28	N-2°-W	10世紀	SK29		
36	G-4	円 II B	1.87	1.50	0.16	N-2°-E	10世紀前半			
37	F-4/G-4	長 方 形		1.66	0.17	N-11°-E	9世紀後半	SJ14		
38	G-4/H-4	長楕円 II B	2.81	1.07	0.29	N-	9世紀後半		SK39	
39	G-4/H-4	楕円 I B	0.76		0.15	N-0°-E	時期不明	SK38		
40	F-4	方 I B	1.08	0.86	0.13	N-87°-W	時期不明			
41	H-4	円 I C	1.18	1.14	0.34	N-90°-E	10世紀			
42	I-4	楕円形		1.02	0.37	N-87°-W	10世紀前半	SJ25		
43	G-4	不 明		0.61	0.30	N-69°-W	時期不明	SJ15		
44	G-4	長方 I A	1.06	0.70	0.10	N-90°-E	9世紀後半			
45	G-4	長方 I B	0.94	0.64	0.15	N-75°-W	10世紀			
46	I-4/I-5	長 方 形		1.32	0.30	N-20°-W	9世紀	SJ18		
47	J-4	方 I B	0.87	0.77	0.13	N-75°-W	V			
48	C-5	不 整 I B	0.77	0.58	0.15	N-62°-E	時期不明			
49	C-5	円 I A	0.76		0.09	N-65°-W	時期不明			
50	E-5	楕円形		0.70	0.05	N-0°-E	時期不明	SJ29		
51	D-5	円 I C	0.80	0.76	0.55	N-0°-E	時期不明			

第522表 土壤一覽表 (第52号土壤～第100号土壤)

No.	グリッド	形状	長径	短径	深さ	長軸角度	時期	重複新	重複古	備考
52	D-5/E-5	楕円形				N-	9世紀後半			
53	E-5	方I D	0.85	0.74	0.84	N-89°-E	9世紀			
54	E-5	円I C	0.91	0.82	0.35	N-22°-E	10世紀前半			
55	E-5	長方I B	0.91	0.71	0.22	N-64°-E	VI		SK73	
56	D-5/E-5	長方I B	1.00	0.67	0.26	N-65°-E	時期不明			
57	E-5	楕円II C	1.57	1.25	0.35	N-36°-E	時期不明			
58	E-5	円I C	0.79	0.70	0.31	N-52°-W	時期不明			
59	E-5	方I A	1.11		0.05	N-18°-E	時期不明			
60	E-5	長方I B	0.82	0.55	0.26	N-64°-E	時期不明			
61	E-5	方I B	0.89	0.85	0.11	N-67°-E	VI			
62	E-5/F-5	不整I A	1.47	0.92	0.05	N-90°-E	時期不明			
63	E-5/E-6/ F-5/F-6	円II B	1.57	1.48	0.11	N-12°-W	時期不明			
64	E-5	長楕円III B	4.99	1.89	0.19	N-3°-E	時期不明			
65	F-5	楕円I C	0.84		0.33	N-28°-E	時期不明	SK66		
66	F-5	不整II C	1.69	0.96	0.31	N-0°-E	時期不明		SK65	
67	E-5/E-6	不整形		0.69	0.09	N-82°-W	V	SJ31・SK128 ・SK129		
68	E-5	円II C	2.12	2.11	0.34	N-18°-W	V			
69	F-5	方I B	0.97	0.82	0.14	N-25°-E	VII			
70	E-5/E-6	楕円形		0.93	0.04	N-57°-E	10世紀			
71	E-5/E-6	円I A	0.79	0.58	0.07	N-54°-W	10世紀			
72	F-5	長方I B	0.75	0.45	0.25	N-72°-W	10世紀前半			
73	E-5	長楕円III B	4.09	0.53	0.11	N-12°-E	10世紀前半	SK55		
74	F-5	方I C	1.25	1.19	0.35	N-15°-E	10世紀前半		SK75	
75	F-5	長方形		1.55	0.08	N-81°-W	9世紀	SK74		
76	F-5	楕円II B	2.20	1.28	0.26	N-46°-W	VII			
77	F-5	不整II B	1.96	1.04	0.24	N-15°-E	時期不明			
78	F-5	不整形		0.78	0.16	N-31°-W	10世紀			
79	F-5/G-5	長方I B	1.07	0.72	0.28	N-0°-E	時期不明			
80	F-5	長方I B	1.27	0.76	0.14	N-73°-E	時期不明			
81	G-5	方II B	1.71	1.40	0.30	N-10°-E	9世紀		SK82	
82	G-5	長方形		0.83	0.22	N-29°-W	時期不明	SK81		
83	F-5	長方形		1.30	0.24	N-0°-E	10世紀			
84	G-5	長方II C	1.58	1.01	0.35	N-0°-E	時期不明	SK85		
85	G-5	方I B	0.87		0.28	N-0°-E	9世紀		SK84	
86	G-5	方I B	0.69	0.59	0.28	N-0°-E	時期不明			
87	H-5	円I B	1.49		0.27	N-82°-W	時期不明	SK88・SK89		
88	H-5	方II C	2.03	1.66	0.46	N-83°-W	時期不明	SK89	SK87	
89	H-5	楕円形		1.21	0.48	N-16°-E	時期不明		SK87・SK88	
90	G-5/G-6	不整II B	1.80	1.78	0.28	N-88°-W	9世紀			
91	H-5	長楕円形		1.11	0.08	N-89°-E	時期不明			
92	G-5	円I B	0.87	0.81	0.26	N-21°-E	時期不明			
93	G-5	円I C	0.76	0.74	0.37	N-62°-W	時期不明			
94	H-5	長方形		0.98	0.11	N-25°-E	時期不明			
95	I-5	円I B	1.10	1.07	0.25	N-90°-E	時期不明			
96	H-5	楕円I C	1.35	0.94	0.40	N-0°-E	時期不明			
97	H-5	円I B	1.31	1.19	0.11	N-89°-E	時期不明			
98	G-5/H-5	円I B	1.04	1.04	0.14	N-45°-W	10世紀前半			
99	H-5	円II B	1.54	1.26	0.19	N-0°-E	時期不明			
100	G-5	円I C	1.42	1.27	0.31	N-0°-E	時期不明			